

ISSN 1348-902X

自治医科大学看護学部年報 (第7号)

Jichi Medical University Annual Report of Nursing

自治医科大学大学院看護学研究科年報 (第3号)

Jichi Medical University Annual Report of Graduate School of Nursing



2008

目 次

○ 特別報告

新カリキュラムについて

教務委員長 春山 早苗 …… 5

○ 看護学部委員会報告

人事委員会

委員長 水戸美津子 ……11

教務委員会

委員長 春山 早苗 ……12

学生委員会

委員長 竹田津文俊 ……13

F D評価実施委員会

委員長 永井 優子 ……15

広報委員会

委員長 中村 美鈴 ……16

編集委員会

委員長 竹田津文俊 ……17

予算委員会

委員長 水戸美津子 ……17

国家試験対策委員会

委員長 成田 伸 ……18

臨床実習指導研修委員会

委員長 川口 千鶴 ……18

研究推進委員会

委員長 半澤 節子 ……19

実習調整委員会

委員長 岩永 秀子 ……20

入試実施委員会

委員長 渡邊 亮一 ……21

○ 大学院看護学研究科委員会等報告

研究科委員会

委員長 水戸美津子 ……25

研究科委員会幹事会

幹事長 永井 優子 ……26

○ 教育研究分野別報告

一般基礎 ……31

専門基礎 ……32

基礎看護学 ……33

地域看護学 ……34

精神看護学 ……37

母性看護学 ……37

小児看護学 ……39

成人看護学 ……40

老年看護学 ……44

○ **大学院看護学研究科 教育の概要**

母子看護学領域「小児看護学」	49
母子看護学領域「母性看護学」	49
健康危機看護学領域「クリティカルケア看護学」	51
健康危機看護学領域「精神看護学」	52
がん看護学領域「がん看護学」	52
老年・地域看護学領域「老年看護管理学」	54
老年・地域看護学領域「地域看護管理学」	54
看護技術開発学領域「看護技術開発学」	55

○ **研究業績録**

一般基礎	59
基礎看護学	59
地域看護学	60
精神看護学	62
母性看護学	64
小児看護学	65
成人看護学	66
老年看護学	67
がん看護学	68

○ **資料**

2008年度（平成20年度）看護学部年譜	73
自治医科大学看護学部の概要	74
看護学部教職員名簿	75
2008年度（平成20年度）大学院看護学研究科年譜	76
大学院看護学研究科の概況	76
大学院看護学研究科教職員名簿	77

特別報告

新カリキュラムについて

教務委員長 春山 早苗

本学部は平成14年度に開設したが、完成年度を迎えるに当たり、カリキュラムと本学部の教育理念・目標との整合性、並びに、時代や地域のニーズとの適合性を評価検討し、カリキュラムを見直す必要性が生じたため、平成16年度にカリキュラム検討委員会が立ち上がった。カリキュラム検討委員会では、本学部設置の趣旨、近年の国民のニーズと看護職に求められる役割、地域のニーズ、本学の目的及び使命、本学部教育理念、本学部が目指す卒業生の姿、本学部教育目標に基づき、検討を重ね、平成19年3月の教授会において新カリキュラム案を報告し、同年度をもって廃組となった。新カリキュラム案の検討に当たっては、厚生労働省の「看護基礎教育の充実に関する検討会」の検討内容など指定規則改正の動きも考慮して検討を進めた。平成19年度は教務委員会において新カリキュラム実施に向けた準備を行い、平成20年度から新カリキュラムをスタートさせた。

新カリキュラムは、本学の建学理念を実現させるために高い資質と倫理観を持ち高度医療と地域看護に従事できる看護職を育成するという看護学部設置の趣旨と、近年の国民のニーズから看護専門職に求められている役割に基づき、3分野から構成している。それら3分野とは、看護専門職に必要な基礎的能力を教授するという観点から、環境、人間、健康、看護を主要概念として、一般教養を身につけ広い視野での見識や多様な価値観を学ぶ**基礎科学分野**、看護実践に必要な知識と技術を学び、看護学と関連の深い学問領域を学ぶ**看護学分野**、実践の中で研鑽し創造的に専門性を深め看護実践を追求していくための基礎能力を身につける**総合分野**である。基礎科学分野の選択授業科目は、看護学を学ぶことによる学生の人間的成熟に合わせて教養を深めることができるよう、複数学年に配置している。

【基礎科学分野】

多様な学問分野にふれることにより一般教養を身につけ、広い視野での見識や多様な価値観を学ぶことをめざし、『人間の本質の理解』『自然の成

り立ち』『生活・社会の成り立ち』から構成される。

『人間の本質の理解』

人間の存在と活動の様々な側面と価値観を学ぶことにより、人間の本質と生命の尊厳、並びに、人間関係の基礎的なダイナミズムを理解し、多様な文化や基本的人権を尊重して行動できる豊かな人間性や感性、倫理的態度を養うとともに、生涯にわたって自己の人間形成を図る方法と態度を身につける。授業科目として、「哲学」「倫理学」「歴史学」「心理学」「芸術と表現」「教育学」「人間関係論」「身体活動論」「英語」「スペイン語」「中国語」が含まれる。

『自然の成り立ち』

人間と相互に影響し合う自然環境や自然的な現象を理解するとともに、自然科学に関する基礎知識とそれに基づく広い視野からの科学的分析力を身につける。授業科目として、「物理学」「化学」「個体生物学」「グローバル生物学」「災害学」「食糧論」「宇宙学」が含まれる。

『生活・社会の成り立ち』

人々の生活と環境を社会、政治、経済、文化、ジェンダーなどの面から理解する。また、情報化・グローバル化が人々の生活の様々な営みにまで波及している21世紀社会において重要となる、主体的に情報を収集し、分析・判断・創造・発信する力を身につける。授業科目として、「社会学」「家族社会学」「政治と国際関係論」「経済学」「文化人類学」「ジェンダー論」「情報学」「統計学」「統計学演習」が含まれる。

【看護学分野】

看護学の基本的な知識と技術、並びに、看護学と関連の深い学問の知識を学ぶことをめざしている。人間は成長し続ける存在であるという観点から、成長発達段階を切り口にして『発達段階に共通する看護実践』『発達段階に焦点をあてた看護実践』『看護実習』から構成される。

『発達段階に共通する看護実践』

どの発達段階にある人への看護にも共通する看

護実践の知識と技術、並びに、看護学と関連の深い医学等の学問領域の知識について学ぶ。看護学の知識・技術等の理解や習得がより発展しやすいように、看護学との関連性を踏まえて授業科目を配置している。

どの発達段階にある人への看護にも共通する看護実践の知識と技術を学ぶ授業科目として、「看護学概論」「実践基礎看護学概論Ⅰ：看護の基盤」「実践基礎看護学概論Ⅱ：精神看護」「実践基礎看護学概論Ⅲ：公衆衛生看護」「看護技術論Ⅰ：生活環境の調整」「看護技術演習Ⅰ：生活環境の調整」「看護技術論Ⅱ：日常生活援助」「看護技術演習Ⅱ：日常生活援助」「看護技術総合演習」「看護技術論Ⅲ：診療・検査時の援助」「看護技術演習Ⅲ：診療・検査時の援助」「生涯発達看護論」「精神看護方法」「地域精神看護方法」「公衆衛生看護活動論」「公衆衛生看護方法論」「地域看護管理論」「看護倫理学」「看護管理学」「チーム医療論」「看護政策学」「国際看護論」が含まれる。

看護学と関連の深い学問領域の知識を学ぶ授業科目として、「基礎薬理学」「臨床薬理学」「臨床検査学」「病態学概論」「病態学各論」「生化学」「栄養学」「人体の構造と機能Ⅰ」「人体の構造と機能Ⅱ」「免疫学」「微生物学」「援助関係論」「社会福祉論」「保健医療福祉システム論」「疫学」が含まれる。

『発達段階に焦点をあてた看護実践』

生涯にわたる発達段階に焦点を当てた看護実践の知識と技術を、周産期、小児期、成人期、老年期の各期に分けて学ぶ。授業科目として、「生涯発達看護学概論Ⅰ（妊産褥期）」「生涯発達看護学概論Ⅱ（胎児・新生児期）」「周産期実践看護学Ⅰ（妊産褥期）」「周産期実践看護学Ⅱ（胎児・新生児期）」「生涯発達看護学概論Ⅲ（小児期）」「小児実践看護学Ⅰ（小児保健）」「小児実践看護学Ⅱ（小児の日常生活援助）」「小児実践看護学Ⅲ（健康障害をもつ小児への援助）」「生涯発達看護学概論Ⅳ（成人期）」「成人実践看護学Ⅰ（成人の健康危機看護）」「成人実践看護学Ⅱ（成人の健康危機演習）」「成人実践看護学Ⅲ（成人の生活看護）」「成人実践看護学Ⅳ（成人の生活看護演習）」「生涯発達看護学概論Ⅴ（老年期）」「老年実践看護学Ⅰ（老年保健）」「老年実践看護学Ⅱ（健康障害をもつ高齢者への援助）」「老年実践看護学Ⅲ（老年看護援助技術）」「生涯発達看護学概論Ⅵ（リプロ

ダクティブヘルス）」「助産学概論」「基礎助産学Ⅰ」「基礎助産学Ⅱ」「基礎助産学Ⅲ」「実践助産学Ⅰ」「実践助産学Ⅱ」「実践助産学Ⅲ」「実践地域助産学」「助産管理学」が含まれる。

『看護実習』

看護を実際に体験する中で、看護の対象と直接対峙し、援助的な人間関係の形成について学び、その人間関係を基盤にして看護を展開する方法や倫理的態度を身につける。また、それまでに学んだ看護実践の知識や技術を検証し、看護実践を創造していく基本的な力を養う。さらに、自己の成長と看護専門職としての自覚を育み、チームケアにおける看護の役割を学ぶ。看護実習は、関連授業科目や演習の進捗と連動させて配置し、看護の対象、健康の理解、生活の理解、看護援助方法を段階的に習得し、基本的な看護実践能力を身につけることをめざしている。「生活の理解実習」から始まり、「日常生活援助実習」「周産期看護実習」「小児期看護実習」「成人期看護フィールド実習」「成人期看護臨床実習」「老年期看護実習」「在宅看護実習」「精神保健看護実習」「公衆衛生看護実習」「妊娠期助産学実習」「分娩・育児期助産学実習」が組まれている。

【総合分野】

基礎科学分野、並びに、看護学分野で学んだ知識や技術も併せて総合的に、実践の中で研鑽し創造的に専門性を深め看護実践の開発を追求するための基礎能力を身につけることをめざしている。1年次から4年次にかけて段階的に、創造性の追求を系統的に学習し、4年次には将来展望も踏まえた学生自身の関心に基づいて、主体的かつ創造的に学べるようにしている。授業科目として、「看護基礎セミナー」「文献講読セミナー」「研究セミナー」「看護総合セミナー」「看護トピックス」「がん看護学」「へき地の生活と看護」「総合実習」が含まれる。

「総合実習」では、将来展望も踏まえた学生自身の関心から学生が看護の専門領域を選択し、高度医療の場並びにへき地を含む地域、その他のフィールドにて、それまでに学習した知識・技術の統合をめざす。

「看護総合セミナー」では、「総合実習」における自己の看護実践を客観的に捉え、必要時、演習や実験・実習を加え、看護実践方法の改善課題

を整理し、その解決のための方法を考える。また、社会の動きを理解して、看護学の発展を追求するための姿勢を身につける。

「看護トピックス」では、高度医療の場における看護、へき地看護など本学の理念や近年、重要となっている看護活動に関わる内容が設定され、学生が自己の関心や将来展望を踏まえて選択できるようにしている。

なお、助産師国家試験受験資格を取得するための授業科目として、「助産学概論」「基礎助産学Ⅰ」「基礎助産学Ⅱ」「基礎助産学Ⅲ」「実践助産学Ⅰ」「実践助産学Ⅱ」「実践助産学Ⅲ」「実践地域助産学」「助産管理学」「妊娠期助産学実習」「分娩・育児期助産学実習」がある。

看護学部委員会報告

人事委員会

委員長 水戸美津子

「自治医科大学看護学部教員の選考方法等に関する内規」第2条の規定により、次のとおり人事委員会が開催された。

○第1回（平成20年4月17日）

- (1) 平成20年度非常勤講師（2名）の任用が承認された。

○第2回（平成20年6月19日）

- (1) 教員の欠員補充をするため「自治医科大学看護学部教員の選考手続・資格基準規程」及び「自治医科大学看護学部教員の選考方法等に関する内規」に基づき申請書類が提出され、助教候補者1名（母性看護学・助産学関連科目）を選考した。

○第3回（平成20年7月17日）

- (1) 教員の欠員補充をするため「自治医科大学看護学部教員の選考手続・資格基準規程」及び「自治医科大学看護学部教員の選考方法等に関する内規」に基づき申請書類が提出された教授候補者1名（小児看護学関連科目）を選考した。
- (2) 平成20年度非常勤講師（1名）の任用が承認された。

○第4回（平成20年10月22日）

- (1) 博士課程設置を前提に教員組織の強化を図るため「自治医科大学看護学部教員の選考手続・資格基準規程」及び「自治医科大学看護学部教員の選考方法等に関する内規」に基づき申請書類が提出された教授候補者1名（成人〈慢性期〉看護学関連科目）を選考した。
- (2) 年度末の退職予定者を補充するため「自治医科大学看護学部教員の選考手続・資格基準規程」及び「自治医科大学看護学部教員の選考方法等に関する内規」に基づき申請書類が提出された准教授候補者1名（小児看護学関連科目）を選考した。
- (3) 年度末の退職予定者を補充するため「自治医科大学看護学部教員の選考手続・資格基準規程」及び「自治医科大学看護学部教員の選考方法等に関する内規」に基づき申請書類が提出さ

れた助教候補者1名（成人看護学関連科目）を選考した。

○第5回（平成20年11月26日）

- (1) 年度末の退職予定者を補充するため「自治医科大学看護学部教員の選考手続・資格基準規程」及び「自治医科大学看護学部教員の選考方法等に関する内規」に基づき申請書類が提出された教授候補者1名（基礎看護学関連科目）を選考した。
- (2) 教員の欠員補充をするため、「自治医科大学看護学部教員の選考手続・資格基準規程」及び「自治医科大学看護学部教員の選考方法等に関する内規」に基づき、申請書類が提出された講師候補者1名（老年看護学科目群）を選考した。
- (3) 年度末の退職予定者を補充するため「自治医科大学看護学部教員の選考手続・資格基準規程」及び「自治医科大学看護学部教員の選考方法等に関する内規」に基づき申請書類が提出された助教候補者2名（小児看護学関連科目）を選考した。
- (4) がんプロフェッショナル養成プラン事業の実施に伴い、大学院看護学研究科のがん看護学を担当する准教授として「自治医科大学看護学部教員の選考手続・資格基準規程」及び「自治医科大学看護学部教員の選考方法等に関する内規」に基づき申請書類が提出され、がん看護に関連した科目担当准教授候補者として選考した。
- (5) 平成21年度非常勤講師（13名）の任用が承認された。

○第6回（平成20年12月24日）

- (1) 教員の欠員補充をするため「自治医科大学看護学部教員の選考手続・資格基準規程」及び「自治医科大学看護学部教員の選考方法等に関する内規」に基づき申請書類が提出された助教候補者1名（基礎看護学関連科目）を選考した。
- (2) 教員の欠員補充をするため「自治医科大学看護学部教員の選考手続・資格基準規程」及び「自治医科大学看護学部教員の選考方法等に関する内規」に基づき申請書類が提出された講師候補者1名（母性看護学関連科目）を選考した。
- (3) 教員の欠員補充をするため「自治医科大学看護学部教員の選考手続・資格基準規程」及び「自治医科大学看護学部教員の選考方法等に関する内規」に基づき申請書類が提出さ

- する内規」に基づき申請書類が提出された講師候補者1名（成人看護学関連科目）を選考した。
- (4) 教員の欠員補充をするため、精神看護学関連科目及び母性看護学関連科目（准教授）の選考委員会が設置され、公募したが、応募が無かったとの報告がされた。
- (5) 平成21年度非常勤講師（2名）の任用が承認された。

○第7回（平成21年1月20日）

- (1) 教員の欠員補充をするため「自治医科大学看護学部教員の選考手続・資格基準規程」及び「自治医科大学看護学部教員の選考方法等に関する内規」に基づき申請書類が提出された准教授候補者1名（基礎看護学関連科目）を選考した。
- (2) 教員の欠員補充をするため「自治医科大学看護学部教員の選考手続・資格基準規程」及び「自治医科大学看護学部教員の選考方法等に関する内規」に基づき申請書類が提出された准教授候補者1名（地域看護学関連科目）を選考した。

○第8回（平成21年2月10日）

- (1) 教員の欠員補充をするため「自治医科大学看護学部教員の選考手続・資格基準規程」及び「自治医科大学看護学部教員の選考方法等に関する内規」に基づき申請書類が提出された講師候補者1名（小児看護学関連科目）を選考した。
- (2) 教員の欠員補充をするため「自治医科大学看護学部教員の選考手続・資格基準規程」及び「自治医科大学看護学部教員の選考方法等に関する内規」に基づき申請書類が提出された助教候補者1名（精神看護学関連科目）を選考した。
- (3) 教員の欠員補充をするため「自治医科大学看護学部教員の選考手続・資格基準規程」及び「自治医科大学看護学部教員の選考方法等に関する内規」に基づき申請書類が提出された准教授候補者1名（母性看護学関連科目）を選考した。
- (4) 平成21年度非常勤講師（1名）の任用が承認された。

○第9回（平成21年3月12日）

- (1) 教員の欠員補充をするため「自治医科大学看護学部教員の選考手続・資格基準規程」及び「自治医科大学看護学部教員の選考方法等に関する内規」に基づき申請書類が提出された助教

- 候補者1名（地域看護学関連科目）を選考した。
- (2) 平成21年度非常勤講師（1名）の任用が承認された。

教務委員会

委員長 春山 早苗

本委員会の所管事項は①授業及び試験に関する事項②単位及び課程の修了に関する事項③学生の入学、退学、休学及び卒業等に関する事項④学生の修学指導に関する事項⑤授業関係の予算に関する事項⑥その他学部長が必要と認めた事項である。本委員会の構成を表1に示す。本委員会では下部組織を設けて活動している（表2）。平成20年度は、演習室を有効に活用するための検討を役割とする「演習室運用管理担当」を新たに設け、演習室の共用に関する案をまとめた。また、「助産師国家試験受験資格関連科目受講生選考担当」、「授業関係予算担当」も新たに設けた。昨年度から設けている「新カリキュラム運用担当」は平成20年度から新たなカリキュラムがスタートしたことに伴い、「カリキュラム運用担当」と名称を変更し、円滑なカリキュラム運用を目的に平成21年度から開講する2年次授業科目についてカリキュラム説明会等を実施した。

新たなカリキュラムのスタートに伴い、委員長が行う1年次履修ガイダンスを入学時のみならず、後学期にも実施することとした。この後学期履修ガイダンス時には、履修手続きや試験に関すること、学習方法等について学生がわかりにくかったことや困ったことはなかったかを質問紙により調べ、入学時オリエンテーションや履修ガイダンスの内容、学年担当アドバイザーによる指導方法の検討に活かした。

平成20年度の主な議題を表3に示す。

表1 平成20年度教務委員会の構成

委員長	春山 早苗	教授
副委員長	岩永 秀子	教授
委員	川口 千鶴	教授
委員	竹田津文俊	教授
委員	永井 優子	教授
委員	中村 美鈴	教授
委員	成田 伸	教授
委員	本田 芳香	教授
委員	渡邊 亮一	教授
委員	井上 映子	准教授
事務局	田口 実	課長事務取扱
事務局	久保田知之	参事
事務局	松本恵美子	主事

表2 平成20年度教務委員会下部組織

担当名	担当者
既修得単位認定及び編入生履修指導担当	●成田 伸, 竹田俊明, 大塚公一郎, 内海香子, 塚本友栄
時間割担当	●中村美鈴, 宇城令, 佐藤勢津子, 長井栄子
夏季へき地研修担当	●竹田津文俊, 工藤奈織美, 里光やよい, 加藤優子, 蓮井貴子
カリキュラム運用担当	●川口千鶴, 大原良子, 高木初子, 工藤奈織美, 関森みゆき, 山本洋子
共通物品管理担当	●中村美鈴, 櫻井美奈, 池下麻美, 加藤優子, 武正泰子, 蓮井貴子, 濱田恭子
演習室運用管理担当	●永井優子, 大原良子, 小竹久美子, 鈴木久美子, 川上勝, 田中美央
助産師国家試験受験資格関連科目受講生選考担当	●成田 伸, 岩永秀子, 渡邊亮一
授業関係予算担当	●成田 伸, 蓮井貴子

●担当責任者

表3 平成20年度教務委員会議題

回	開催日	審議事項・報告内容
1	平成20年4月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・休学について ・編入生単位認定・履修指導について ・既修得単位認定について ・指定規則改正に伴う対比表について ・旧カリキュラム再履修者の履修計画について ・本委員会下部組織の各担当について ・科目責任者・補助科目責任者について ・本委員会年間スケジュールについて ・助産師国家試験受験資格関連科目受講生の選考方法について ・実習教育説明会について
2	平成20年5月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・前学期履修状況について ・本委員会下部組織の各担当の役割と年間計画について ・2～4年次配当の授業科目の科目責任者並びにシラバスの依頼について ・平成20年度授業関係予算の配分について
3	平成20年6月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・休学について ・前学期定期試験（4学年）について ・本委員会下部組織の各担当の役割と年間計画について ・実習要項について ・夏季へき地研修の実施計画について ・全体で行う実習の担当について

4	平成20年7月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・休学について ・前学期定期試験（1・2学年）について ・平成21年度時間割について ・演習室の使用調査について ・平成21年度授業関係予算要求（案）並びに教室整備等に係る予算要求（案）について
5	平成20年9月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・退学・休学・復学について ・卒業認定について ・前学期再試験について ・平成21年度授業計画について ・平成21年度時間割について ・夏季へき地研修について
6	平成20年10月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度本委員会関連学年歴について ・演習室使用状況について ・カリキュラム説明会（2年次開講科目）について
7	平成20年11月13日	<ul style="list-style-type: none"> ・休学について ・後学期履修状況について
8	平成20年12月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・研究生の受け入れについて ・平成21年度科目責任者について ・平成21年度シラバスの依頼について ・平成20年度（機器備品・消耗品）の執行について
9	平成21年1月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・退学について ・平成21年度後学期定期試験について
10	平成21年2月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・4学年の取得単位について ・卒業認定について ・後学期定期試験結果について ・平成21年度時間割について
11	平成21年3月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・休学, 休学延長, 復学, 退学について ・後学期単位取得状況について ・進級判定について ・助産師国家試験受験資格関連科目受講生の選考結果について ・本委員会下部組織の各担当の平成20年度活動報告について ・学生の病院情報システム利用について

学生委員会

委員長 竹田津文俊

学生委員会は、「学生が健全な学業生活を送ることができるよう支援すること」を第一の目的とする委員会である。上記目標に即して、平成20年度も例年通り、学生委員会は、学業（課外活動も含む）の奨励・支援、学生の学業生活上生じた様々な障害や問題の解決への支援、学生の健康問題解決への支援、学生への経済的支援、学生の将来の進路決定の支援を行った。本学部には、女子学生向けの寮があり、健全な寮生活の支援も本委

員会が担当した。本学部の学生は学生自治会を、また寮在住学生は寮自治会をそれぞれ組織し、自主的に運営している。この二つの自治会の運営の支援も本委員会が担当した。これらの本委員会の活動は、本学部の事務を所掌する看護学務課、看護総務課と緊密な相談・連携のもと行われた。

学生の学業生活上生じた様々な障害や問題の解決への支援は、各学生委員の学生との直接相談、学年担当アドバイザーとの緊密な連絡相談、カウンセリングルーム活用の奨励などを通して行った。

学生の健康問題解決への支援は、学生健康管理チームが中心となって行い、また大学保健室の行う検診への受診の奨励、個々の学生の健康相談などを行った。また、大学保健室において、インフルエンザや破傷風の予防接種を希望者に行った。

学生への経済的支援は、主に奨学金の選考・推薦を通して行われた。自治医科大学看護学部奨学金、日本学生支援機構奨学金の選考・推薦を行った。学生の将来の進路決定の支援は、卒業指導担当が中心となって行った。

学生自治会、寮自治会の運営の支援は、学生委員会委員と両自治会役員との懇談を通して行われた。寮生活そのものの支援として、入寮案内、寮生活オリエンテーション、防災訓練、寮規則違反者への指導などが行われた。

部活動、クラブ活動、サークル活動などの課外活動の奨励を学友会（本学部では、学生委員会が所掌）を通して行った。薬師祭（学園祭）の開催を支援した。

授業中、課外活動中に発生した傷害、疾病に対する保険として、学生教育研究災害傷害保険を、通常の疾病に対する保険として自治医科大学学生健康保険組合（自治医科大学附属病院での加療に対して一人年間10万円まで給付されるものである）への学生の加入を促した。授業中、課外活動中に発生した器物損傷に対する保険として損害賠償責任事故保険「WILL」への学生の加入を促した。尚、この学生の加入保険について当委員会で検討・協議され、「学生教育研究災害障害保険」及び「WILL（看護学校総合保障制度）」の2つの保険については、双方の保証内容の重複等や看護系大学等の加入状況を考慮した結果、平成21年度以降の入学生からは「WILL」に一本化することで了承された。

学業（課外活動も含む）の奨励・支援の一環として、看護学部校舎における防災訓練を行った。

4 学年卒業予定者のなかより、学長賞候補者を選考し3名推薦した。

1名の学生の行為に対し、複数の学生より苦情が出されたため、その行為を学生委員会で検討・審議し、学生委員長嚴重注意に相当すると決定し教授会に上申した。教授会の決定を受け、学生委員長が当該学生に対し嚴重注意を行った。

学生委員会は、8月を除いて毎月定例開催され、合計11回開催された。臨時の委員会が4月に1回開催された。

学生委員会委員名とその役割分担を表1に示す。議題を下記に示す。

議題

4月第1回定例

- (1) 年間予定について
- (2) 役割分担について
- (3) 看護学部学生寮の防災訓練について

5月第2回定例

- (1) 防災訓練について
- (2) 学生の役割分担について
- (3) 卒業指導担当の活動内容の報告について

6月第3回定例

- (1) 学生寮の防災訓練について
- (2) 自治医科大学看護学部奨学金について

7月第4回定例

- (1) 看護学部学生寮・看護師宿舎の防災訓練について
- (2) 顔写真付き学生名簿の作成について

9月第5回定例

- (1) 「佐藤勢津子助教を偲ぶ会」について
- (2) 看護学部校舎内の防災訓練について

10月第6回定例

- (1) 看護学部校舎内の防災訓練について

11月第7回定例

- (1) 看護学部学生寮における規律等について
- (2) 学生の加入保険について

12月第8回定例

- (1) 学長賞の選考について

1月第9回定例

- (1) 学長賞の選考について

2月第10回定例

- (1) 学長賞の選考について

3月第11回定例

- (1) 報告事項

学生委員会の機能を果たすために、奨学生選考担当、卒後指導担当、学友会幹事がおかれた。役割担当（委員会外教員も含む）は、以下の通りである。

表1 平成20年度学生委員会構成および役割

委員氏名	領域	役割
竹田津文俊 教授	専門基礎	委員長
半澤 節子 教授	精神看護学	副委員長
川口 千鶴 教授	小児看護学	
成田 伸 教授	母性看護学	
本田 芳香 教授	がん看護学	
大塚公一郎准教授	一般基礎	

*奨学生選考担当：

成田 伸 教授（母性看護学）
大久保祐子准教授（基礎看護学）

*卒後指導担当：

川口 千鶴 教授（小児看護学）
井上 映子准教授（老年看護学）
横山 由美 講師（小児看護学）
塚本 友栄 講師（地域看護学）
川上 勝 講師（老年看護学）
西岡 啓子 助教（母性看護学）

*学友会幹事：

竹田津文俊 教授（専門基礎）

F D 評価実施委員会

委員長 永井 優子

本委員会は、平成18年度から学部長以外の教授が委員長を務めることになって、2期目に入った。自治医科大学看護学部各種委員会運営内規において本委員会は委員数6名と規定され、平成20年度からの第4期は教授2名、准教授1名、講師3名で構成されている。平成20年度から平成21年度までの第4期を通した視野で検討し、今年度は8月を除き、

原則として月1回、計11回開催した。

本委員会における主たる検討事項は、学部の教育内容の改善のための組織的取りくみに関する事項で、1) 授業の内容および方法の評価に関する事項、2) 教員の資質開発に関する事項(1)教員研修会の企画、実施に関する事、3) その他看護学部長が必要と認めた事項である。昨年に引き続き、授業評価の改善について検討し、学生による随時授業評価の実施を含めて平成21年度授業評価実施マニュアルを改訂した。

平成19年度に引き続き、授業研究会について、全教員が主体的に参加できるテーマを設定して行う方法を検討し、今年度は2回実施した。第1回は平成20年8月7日（木）13時から16時まで「看護系大学におけるカリキュラムの基礎」をテーマとして、千葉大学看護学部看護実践研究指導センターの和住淑子准教授を講師とし、講演100分と全体ディスカッションを行った。事務職員およびティーチングアシスタントとして教育に携わる大学院生も含め、46名が出席し、常勤教員の参加率は97.3%、欠席は1名で、アンケート結果も概ね好評であった。また、新カリキュラムの進行に応じたカリキュラム全体の評価が必要であることから、継続的に本学カリキュラムにおけるセミナーの展開をテーマとすることになった。第2回は、平成20年8月7日（木）13時から16時まで「本学カリキュラムにおけるセミナーと実習の展開」をテーマに開催した。本学におけるカリキュラムの展開についての春山早苗教務委員長からの話題提供に引き続き、生活の理解実習（科目責任者：大久保祐子准教授）と看護基礎セミナー（科目責任者：高木初子准教授）について、実施報告と課題に関するプレゼンテーションがあり、その後6名程度のグループ別ディスカッション（60分）と総合討議（50分）を行った。なお、平成20年度から「自治医科大学看護学部臨床教授等の称号の付与に関する規程」が施行されたことから、授業研究会等の対象者として、看護学部臨床教授等に称号を付与された者を加えることにし、日程等が決定し次第、本学附属病院看護部にも情報を提供して、参加しやすくなるように準備することになった。

さらに、平成21年度の計画についても立案し、全体テーマを「臨地実習における教員の指導力の向上」とし、第1回を臨地実習指導における困難と指導の工夫に関するグループ別ディスカッショ

ンと福岡県立大学看護学部の安酸史子教授による経験型実習教育と教師効力の視点からの講演を準備した。さらに第2回については、平成21年度に開講される文献講読セミナーと日常生活援助実習に関して行うことを計画した。

このほか、日本私立看護系大学協会「教員の資質向上を図るための事業」の企画・実施委員会に関する活動について、本事業の実行委員長を永井委員長が、副実行委員長を井上副委員長が担当するなど、FD評価・実施委員を中心に、教員研修会の一環として取り組んだ。

広報委員会

委員長 中村 美鈴

広報委員会は、平成18年度の広報・編集委員会から、広報活動部門を強化するために平成19年度から新たに設置された委員会である。広報委員会の所管は、本看護学部における教育・研究の活動状況を積極的に社会に向けて広報することに努め、正確かつ迅速な情報の提供を行うとともに本看護学部が学内外に向けて行う広報活動に寄与することである。

そのために、看護学部の広報活動の充実と促進を図り、本看護学部の情報提供の体制を整備することが役割である。

本委員会は、委員長をはじめ、5名の委員、ならびに事務局2名で構成した。委員の主な役割を表1に示すように分担し、年間計画にそって活動した。委員会は5回開催した。

表1 広報委員会の構成委員

委員長	中村 美鈴教授	統括、看護学部パンフレット
副委員長	半澤 節子教授	Vitamin N
委員	大原良子准教授	Vitamin N
委員	横山 由美講師	オープンキャンパス
委員	櫻井 美奈講師	看護学部パンフレット
委員	桑原美弥子講師	オープンキャンパス
看護学務課	久保田参事	看護学部パンフレット
看護総務課	石橋主任	Vitamin N

第1回目の委員会（平成20年4月17日）では、本委員会設置の目的と所管事項について確認し、年間の役割、活動内容等について確認した。主な活動内容としては、(1)看護学部パンフレットの作成、(2)広報誌ビタミンN作成、(3)オープンキャンパス

の企画・実施、(4)進路相談会、模擬授業等への参加、(5)その他PRに関することである。

第2回目の委員会（平成20年6月19日）では、まずは、オープンキャンパスの企画・運営について検討した。特に、看護体験演習の実施方法については、前年度の広報委員会の報告を受けて、全ての領域の紹介を短時間のうちに実施するのではなく、従来と同様に科目群別紹介の形態を保持したまま、簡単な説明を学生ボランティアが行い、教員は必要時、説明内容をサポートする、さらに時間をかけた看護体験演習を最後に行うなど、様々な意見はあったが、昨年度と同様に実施することの確認をした。

他、看護学部パンフレット、ポスターが5月中旬に完成したことが報告された。また、看護学部パンフレットの完成に合わせて看護学部のホームページもアップされた。VitaminNについては、予定通り7月発行で進行している旨が報告された。

第3回目の委員会（平成20年9月19日）では、オープンキャンパスの実施・評価について検討した。実際のオープンキャンパスは、8月8日（金）全体参加人数370名、8月20日（水）全体参加人数248名計618名（前年度585名）前年比5.6%増加であった。オープンキャンパスの進め方は、概ね順調に実施された。さらに、アンケート集計結果では、大学のホームページ及び高校へ送付したポスターで知った者が多いこと、8月に2回程度の開催で良いこと、多くの場所を見学する方式が良いこと、体験看護演習が好評なこと等が判明したが、来年度に向けて広報委員会としての具体的な関わり方を施設見学だけでなく、全体構成について検討する必要があるのではないかということ、協力学生への来学者への説明の仕方をもう少し徹底した方がよいとの意見が出された。

一方、次年度のパンフレットについて、看護学部の現状を反映するように写真の更新や新カリキュラムの掲載、内容の充実が図れたと考えているが、来年度については、納入時期を早めにとすること、学長挨拶を更新すること、QRコードを掲載し、受験生が簡単に情報入手を可能にするなど改善に向けて検討を行った。ビタミンNについては、昨年からの懸案であったオールカラー化で仕上がりが好評で学内、学外（保護者など）に合せて1,300部配付した。また、図書館前の展示コーナーについて、情報管理室から館内からの業務改善の一環

として展示コーナーの見直し、更新要望があり、看護学部に検討依頼があったため、広報委員会として展示内容を検討した。

第4回目の委員会（平成20年11月20日）では、実施したオープンキャンパスをもとに、次年度のオープンキャンパスの企画・運営について検討した。全体の企画は広報委員会で担当し、実際の運営については全教職員で取り組むこと、看護学部の紹介については主に看護学務課が運営を担当すること（地域医療情報研修センターで行う）、施設見学・体験看護演習は主に広報委員会が運営担当すること（看護学部校舎で行う）を確認した。また、教職員ならびに来校者のアンケート結果を受けて、学生の施設案内の説明方法、時間調整、施設内の案内場所について検討した。次年度のオープンキャンパスの日程は、第1回目は8月5日（水）、第2回目は8月21日（金）と決定した。

第5回目の委員会（平成21年3月11日）では、今年度全体の活動評価と次年度に向けて課題を検討した。その結果、進路説明会については、効率的な活動が必要であるため、次年度については進路説明会の実績を考慮しながら柔軟に対応することとなった。他、現在のホームページ上で使用している看護学部の動画（DVD）は、状況の変化により、現状に対応しかねるため、次年度は動画による広報も再検討していくことの課題が見出された。

年間を通じての模擬講義は、6月に真岡女子高校へ山本洋子講師、9月に栃木女子高校へ成田伸教授、9月に栃木翔南高校へ櫻井美奈講師、10月に宇都宮南高校に委員長、11月に国学院栃木高等学校へ委員長が行った。

編集委員会

委員長 竹田津文俊

委員長 竹田津文俊 教授
副委員長 大塚公一郎 准教授
委員 鈴木久美子 講師
〃 関森みゆき 講師
〃 永盛るみ子 講師
〃 山本 洋子 講師
事務局 石倭ユリ子 主任主事

編集委員会は、自治医科大学看護学部年報と自治医科大学看護学ジャーナルの刊行を担当した。

自治医科大学看護学ジャーナルは、大塚准教授が主に担当し、自治医科大学看護学部年報は竹田津が担当した。

自治医科大学看護学ジャーナル第6巻を刊行した。内容は、原著論文 4編、報告 8編、看護学領域共同研究報告 8編であった。

年報は、従来の編集方針通りに、刊行した。

予算委員会

委員長 水戸美津子

本委員会の所管事項は、学部の教育・研究にかかる予算に関する事である。構成員は4名（学部長、教務委員長、学生委員長、広報委員長）である。

第1回（平成20年4月23日）

(1) 平成20年度看護学部教育研究経費等の予算額について

平成20年度看護学部教育研究経費の予算について、看護総務課並びに看護学務課より説明があった。

なお、共同研究費予算配分については、研究推進委員会できりまとめること、一部を看護教育研修センター（仮称）設置準備委員会並びに看護部との検討会に係る費用に運用することが了承された。

(2) 教員の海外出張に係る取扱について

申請のあった1件について、「自治医科大学教員の海外出張に関する取扱規程」に基づき審議した結果、申請者の旅行目的が「学会発表」ではないため、不採用となった。

第2回（平成20年6月19日）

(1) 教員に係る研究費について

看護総務課より教員の年度途中の採用、退職等に係る研究費の取扱いについて改定案の提示と説明があり、審議の結果、了承された。

なお、個人配当としている研究旅費の取扱いについて質問があり、研究費と同様に取り扱うことでも了承された。

国家試験対策委員会

委員長 成田 伸

国家試験対策委員会の所管は、保健師・助産師・看護師国家試験を受験する本学部の在学や卒業生が国家試験に合格するように、学習環境を整え、学習相談などの支援を行うことである。

平成20年度の家試験対策委員会は、表1に示す7名の委員、ならびに事務局3名で構成し、計12回の委員会を開催するとともに、後述するような活動を行った。また個別の学習相談に対しては6名のサポート教員の協力を得た。

表1 国家試験対策委員会

委員長	成田 伸	教授
副委員長	大塚公一郎	准教授
委員	竹田 俊明	教授
〃	里光やよい	講師
〃	内海 香子	講師
〃	山本 洋子	講師
〃	塚本 友栄	講師
サポート教員	宇城 令	講師
〃	工藤奈織美	講師
〃	桑原美弥子	講師
〃	崎田マユミ	講師
〃	永盛るみ子	講師
事務局	濱田 恭子	助教
〃	藍原 孝樹	参事
〃	久保田知之	参事
〃	松本恵美子	主事

国家試験対策委員会の具体的な活動としては、まず国家試験受験に向けてのガイダンスを、3年生に1回、4年生に2回実施した。次に、国家試験対策のための模擬試験を、保健師については2回、助産師については1回、看護師については3回実施した。この模擬試験の成績を踏まえて、学生の個別面接・指導を行った。個別面接・指導では、学生を7グループに分け、それぞれのグループを1名の国家試験対策委員が担当し、それぞれのグループにサポート教員1名の協力を得て、学習方法や学習上の悩みなどの学習相談を行った。また、国家試験出題科目を担当する他の教員にも協力を依頼し、平成20年12月から平成21年2月初旬にかけて、国家試験対策ゼミを開講した。

学習環境の整備については、平成20年12月から平成21年2月にかけて、学生サロン開放の時間延長を行う等して、受験勉強ができるようにした。

また、学生サロンに設けられた国試対策コーナーに、献本された受験参考書や問題集を置き、学生がいつでも利用できるようにした。さらに、業者が実施する模擬試験・国試対策講義のパフレットを置き、学生が国家試験に備えるための便宜を図った。

平成20年度の家試験は、助産師が平成20年2月19日（木）に、保健師が平成21年2月20日（金）に、看護師が平成20年2月22日（日）に実施された。その結果は、表2に示すとおりであった。保健師・助産師・看護師とも全国平均の合格率を上回っており、まずまずの結果であった。次年度以降も、平成20年度と同等、あるいはそれ以上の結果が残せるように、引き続き国家試験対策に力を注いでいく必要がある。

表2 平成20年度保健師助産師看護師国家試験の結果

区分	資格	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)
自治医科大学 看護学部	保健師	111	109	98.2
	助産師	7	7	100.0
	看護師	98	93	94.9
全 国	保健師	12,049	11,773	97.7
	助産師	1,742	1,741	99.9
	看護師	50,906	45,784	89.9

臨床実習指導研修委員会

委員長 川口 千鶴

1) 委員会構成

委員長 川口千鶴教授

副委員長 里光やよい講師

委員 大久保祐子准教授,

工藤奈織美講師, 崎田マユミ講師,
長井栄子助教

2) 委員会活動

本委員会は今年度計7回の委員会を開催し、平成20年度臨床実習指導研修会プログラムの検討、講師等の選定と依頼、広報、受講者の受付・管理、研修会の運営、および本年度の振り返りを踏まえた次年度のプログラム（案）および運営（案）の作成を行った。

研修会は平成20年9月9日（火）・10日（水）に開催し、研修会プログラムは表1、受講者数等は表2の通りであった。

表1 平成20年度臨床実習指導研修会プログラム

9月9日（火） 会場：大教室Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ

時 間	科 目	担 当
9:30～9:50	オリエンテーション	委員長
9:50～10:00	学部長挨拶	水戸美津子
10:00～11:00	看護学部のカリキュラムおよび臨地実習の概要	春山 早苗
11:10～12:10	医療・看護トピックス	小竹久実子
12:10～12:15	演習オリエンテーション	副委員長
13:15～15:00	看護する上で大切にしていること(演習)場所:3階指定の教室	委 員
15:10～16:00	看護する上で大切にしていること(発表・討議)	委 員

9月10日（水） 会場：大教室Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ

時 間	科 目	担 当
9:00～9:10	オリエンテーション	委員長
9:10～10:10	本学学生の理解	半澤 節子
10:20～11:20	臨地実習指導の実際(教員の立場から)	内海 香子
11:30～12:30	臨地実習指導の実際(臨地実習指導者の立場から)	渡邊 百合 西 香織
13:30～15:20	学生の成長・発達を助ける実習での支援方法について(演習)	委 員
15:30～16:20	学生の成長・発達を助ける実習での支援方法について(発表・討議)	委 員
16:20～16:40	研修会まとめ	副委員長
16:40～17:00	修了書授与式	委員長

表2 平成20年度臨床実習指導研修会受講者数等

受講申込者数	59名
受講者数	57名(全日程欠席2名)
修了書授与者数	57名

研究推進委員会

委員長 半澤 節子

委員長 半澤 節子 教授
副委員長 岩永 秀子 教授
委 員 小竹 久実子 准教授
宇城 令 講師
鈴木 久美子 講師
関森 みゆき 講師

事務局

久保典昭総務課長，半田美治参事，軽部和夫係長

1. 本年度の活動概要

研究推進委員会は、平成20年度に看護学部の教

員による研究活動の強化を図るために、新たに設置された委員会である。

研究推進委員会の目的は、平成20年度～平成24年度までの第二期中長期目標、中期計画に基づき、中期目標「教員の教育研究活動を適切に評価するための評価方法を構築する」、中期計画「評価方法を検討する」とあり、本委員会の所管事項として、①「研究活動評価のためのシステムの構築(平成20年度から24年度)」②「研究体制の確立を図り、教員の研究能力、指導能力を向上のための現場の看護職者との共同研究を推進するための具体的な方法の検討(平成20年度、21年度)」③「実践の場における研究の推進」④「教員の研究能力の向上に資するための環境整備」という4つの課題がある。

第1回の本委員会において、本委員会の目標が検討され、①研究体制の確立を図り、教員の研究能力、指導能力が向上するための共同研究を推進する環境を整備すること、②研究活動評価の方法を確立すること、以上2点を本委員会の目標とすることとなった。

中でも初年度である平成20年度は、②「研究体制の確立を図り、教員の研究能力、指導能力を向上のための現場の看護職者との共同研究を推進するための具体的な方法の検討」③「実践の場における研究の推進」を重点的な課題とし、その基盤整備を行った。

2. 定例会における議題

第1回定例（平成20年4月10日）

- 1) 本委員会設立の背景と目的
- 2) 具体的な作業内容：教員の研究活動の推進方法、評価方法
- 3) 役割分担と年間スケジュール(案)の検討

第2回定例（平成20年6月12日）

・平成20年度共同研究費について：申し合わせ事項についての検討

第3回定例（平成20年7月3日）

・平成19年度研究活動報告会について

第4回定例（平成20年9月11日）

1) 平成19年度研究活動報告について:

2) 平成21年度共同研究費の配分について

第5回定例（平成20年10月9日）

・平成21年度共同研究費配分に関する重点的な事項について

第6回定例（平成20年11月13日）

・平成21年度共同研究費申請手続きに関するマニュアル（案）について

第7回定例（平成20年12月11日）

・平成21年度共同研究費申請手続きに関する申し合わせ事項（案）について

第8回定例（平成21年1月8日）

・平成21年度看護学部看護系教員共同研究費に関する申し合わせ事項（案）について

第9回定例（平成21年3月12日）

・平成21年度看護学部看護系教員共同研究費に関する申し合わせ事項（最終案）について

3. 本年度の目標達成状況と次年度の課題

本学の第二期中長期目標、中期計画（平成20-24年度の4カ年）における前半にあたる平成20-21年度の重点課題を明確にした。すなわち、「①研究体制の確立を図り、教員の研究能力、指導能力を向上のための現場の看護職者との共同研究を推進するための具体的な方法を検討する」について、平成20年度は看護学部看護系教員共同研究費の活用を具体的な方策として看護職者との共同研究を推進した。

しかしながら、大学評価、認証評価（平成21年3月）でも指摘されているように、学内共同研究費の活用だけでなく、多様な研究活動を推進する制度的な支援を活用し、研究成果を増やすことが課題とされる。次年度は、科学研究費補助金の申請件数を増やすための取り組みを本委員会の課題とする。

実習調整委員会

委員長 岩永 秀子

1) 委員会構成

委員長 岩永秀子教授

副委員長 高木初子准教授

委員 大原良子准教授，櫻井美奈講師，野崎章子講師，横山由美講師

2) 委員会活動

本委員会は、平成20年2月の教授会において、新カリキュラム進行に伴う実習教育運営上の全般的調整を行うために設置された。設置期間は、平成20年4月から平成24年3月までである。

本年度は計10回の委員会を開催し、新カリキュラムに対応した実習要項の作成、看護学実習におけるヒヤリハットの蓄積とフィードバックのシステム化、および実習指導担当教員の調整方針の検討を行うとともに、昨年度まで教務委員会が担っていた、3年次看護学実習全体オリエンテーションの企画・運営、次年度の3年次前学期実習ローテーション表作成、新任教員への本学の実習教育に関するオリエンテーション、次年度の実習教育説明会の計画立案、および主たる実習場所である自治医科大学附属病院との看護学実習に係る連絡調整等を行った。

本年度開催した委員会の主な議題を表1に、委員の役割分担を表2に示した。

表1 平成20年度 実習調整委員会 議題

回	開催日	議題
1	平成20年4月17日	・委員会の所管事項について ・本年度活動計画と役割分担について ・本年度後学期の臨地実習担当教員の調整について
2	平成20年5月15日	・新カリキュラムの実習要項について ・新任教員への臨地実習教育説明について ・3年次看護学実習全体オリエンテーションについて ・実習教育説明会について
3	平成20年6月24日	・新カリキュラムの実習要項について
4	平成20年7月17日	・新カリキュラムの実習要項について ・次年度3年次前学期実習のローテーションについて ・臨地実習科目の指導体制の考え方について
5	平成20年10月16日	・ヒヤリハットの蓄積とフィードバックの方法について ・臨地実習科目の指導体制の考え方について ・新カリキュラムの実習要項について ・次年度3年次前学期実習のローテーションについて ・次年度附属病院における看護学実習について
6	平成20年11月20日	・ヒヤリハットの蓄積とフィードバックの方法について ・次年度3年次看護学実習全体オリエンテーションについて ・次年度実習教育説明会について ・旧カリキュラム実習要項の改訂について

7	平成20年12月18日	・ヒヤリハットの蓄積とフィードバックの方法について ・次年度3年次前学期実習のローテーションについて ・新カリキュラム実習要項の修正について
8	平成21年1月22日	・ヒヤリハットの蓄積とフィードバックの方法について ・新カリキュラムにおける看護学実習担当教員調整の考え方について
9	平成21年2月19日	・ヒヤリハットの蓄積とフィードバックの方法について
10	平成21年3月19日	・次年度3年次前学期実習のローテーションについて ・本年度委員会活動の総括

表2 平成20年度 実習調整委員会 役割分担

実習調整委員会全般	岩永, 高木
教員の実習指導体制関連事項	岩永
実習要項関連事項	大原, 野崎
ヒヤリハット関連事項	野崎, 大原
学生実習ローテーション作成	高木
3年次前学期実習全体オリエンテーション企画・運営	櫻井, 横山, 高木
実習教育説明会企画	横山, 櫻井
事務関連事項	安島（看護学務課）

入試実施委員会

委員長 渡邊 亮一

入試実施委員会の所管事項は、①入試実施説明会に関すること、②入試実施日の役割分担・実施手順に関すること、③推薦指定校の訪問の3つである。

平成20年度の入試実施委員会は、表1に示す6名の委員および事務局1名の計7名で構成し、表2に示すような議題で計6回の委員会を開催した。

表1 平成20年度入試実施委員会の構成

委員長	渡 邊 亮 一	教 授
副委員長	大久保 祐 子	准教授
委 員	大 塚 公 一 郎	准教授
〃	桑 原 美 弥 子	講 師
〃	野 崎 章 子	講 師
〃	矢 野 美 紀	講 師
事務局	久保田 知 之	参 事

推薦指定校の訪問については、6月末から7月上旬にかけて、栃木県内の推薦指定校18校は委員長・副委員長・大塚委員のいずれかと看護学務課

の職員がペアになって、栃木県外の推薦指定校20校は看護学務課の職員が看護総務課の職員の協力を得て実施した。

入試実施説明会は、平成20年9月18日（木）に共通事項と編入学試験の説明会を、11月6日（木）に推薦入学試験の説明会を、平成21年1月15日（木）に一般選抜入学試験の説明会を実施した。

入試実施日の役割分担・実施手順に関しては、前年度の委員会でこれらを記載した5種類のマニュアル（「入学試験の実施について（全入試共通）」、「編入学試験マニュアル」、「推薦入学試験マニュアル」、「一般選抜入学試験第一次試験（筆記試験）マニュアル」、「一般選抜入学試験第二次試験（面接試験）マニュアル」）を作成していたので、この内容の見直しや再検討を行い、マニュアルをほぼ完成させた。このマニュアルを用いて、前述した入試実施説明会を行った。

表2 入試実施委員会の議題

回	開催日	議 題
1	平成20年5月1日	・看護学部入学試験の状況について ・入試実施委員会の役割（所管事項）について ・推薦指定校の訪問について ・入試実施説明会のスケジュールについて ・入試実施日の役割分担、実施手順について
2	平成20年6月18日	・推薦指定校の訪問について ・一般選抜入学試験の実施に関する意見について ・看護学部入学試験実施マニュアルについて
3	平成20年7月16日	・推薦指定校の訪問結果について ・一般選抜入学試験二次試験の面接会場について ・看護学部入学試験実施マニュアルについて
4	平成20年9月4日	・看護学部入試実施説明会について ・看護学部入学試験の役割分担について ・看護学部入学試験実施マニュアルについて
5	平成20年10月28日	・平成21年度編入学試験実施アンケートについて ・平成21年度推薦入学試験実施マニュアルについて
6	平成21年1月6日	・平成21年度推薦入学試験実施アンケートについて ・平成21年度一般選抜入学試験（一次、二次）実施マニュアルについて

大学院看護学研究科委員会等報告

大学院看護学研究科委員会

研究科長 水戸美津子

研究科委員会の所管事項は学則第41条3項に示され、1) 学則の制定及び改廃に関する事項、2) 研究科の教育課程に関する事項、3) 入学、休学、退学、転学、転入学、除籍及び賞罰に関する事項、4) 試験に関する事項、5) 学位論文審査に関する事項、6) その他研究科の学事に関する重要事項と定められている。

構成員は研究科委員会運営規定に基づき、研究科長、専攻分野主任教授（中村教授、春山教授）、専攻領域主任教授（成田教授、半澤教授、本田教授）、及び研究科長指名の竹田津教授・永井教授・中島教授・三瓶教授の9名で構成した。

審議した内容は、以下の表に示すとおりである。

表 平成20年度研究科委員会 議事内容

回	月 日	審 議 ・ 報 告 事 項
1	平成20年 4月3日	(審議) ・平成20年度看護学研究科運営組織 ・平成20年度看護学研究科委員会議事予定 ・平成20年度入学生の研究指導教員の決定 ・副研究指導教員の決定 ・平成20年度非常勤講師任用（追加） ・平成21年度看護学研究科入試日程 ・平成20年度ティーチングアシスタント制度利用申請 ・平成20年度看護学研究倫理審査会の開催日程等 (報告) ・修了生の進路 ・平成19年度看護学研究科授業研究会結果報告 ・平成20年度看護学研究科の予算配分 ・平成20年度入学生・在学生オリエンテーション ・専門看護師教育課程認定科目の名称変更の届出 ・看護学研究科研究生の受け入れ ・がんプロジェクト進捗状況 ・平成19年度看護学研究科委員会幹事会のまとめ
2	4月24日	(審議) ・長期在学制度利用申請 ・平成20年度履修科目の決定 ・平成21年度科目等履修生の募集及び審査日程 ・出願資格認定試験 ・看護学研究科入学試験説明会

		(報告) ・履修届けの状況 ・看護学研究科博士課程の設置について ・平成20年度第1回・第2回看護学研究科委員会幹事会
3	5月22日	(審議) ・平成21年度大学院看護学研究科入学試験説明会（案） (報告) ・博士課程準備委員会について ・看護学研究倫理審査会報告 ・平成19年度がんプロフェッショナル養成プラン実績報告
4	6月26日	(審議) ・平成20年度学位論文修士(看護学)の審査日程等 (報告) ・看護学研究科入学試験説明会の実施結果 ・看護学研究科委員会幹事会報告 ・看護学研究倫理審査会報告 ・平成21年度予算について ・全人的がん医療の実践者養成について ・看護学研究科の広報について ・看護学研究科委員会幹事会運営内規 ・平成20年度授業研究会の企画について
5	7月24日	(審議) ・平成21年度入試実施について ・平成21年度看護学研究科 教室・研究室整備計画（案） (報告) ・看護学研究倫理審査会報告 ・看護学研究科委員会幹事会報告
6	8月7日	(審議) ・看護学研究科教員任用審査 (報告) ・看護学研究倫理審査会報告 ・看護学研究科の研究室等（地域医療情報センター）の利用 ・博士課程設置準備委員会報告
7	9月25日	(審議) ・平成21年度出願資格認定者判定 ・平成20年度非常勤講師（追加4名）任用申請 (報告) ・看護学研究倫理審査会報告 ・博士課程設置準備委員会報告 ・平成20年度学位（修士）論文発表会（最終試験）スケジュール（案） ・平成21年度大学院看護学研究科入試試験実施マニュアル ・平成21年度看護学研究科時間割について ・平成21年度非常勤講師の申請等の取扱いについて
8	10月23日	(審議) ・平成21年度看護学研究科入学試験合否判定

		<ul style="list-style-type: none"> 平成20年度看護学研究科科目等履修生単位取得 平成20年度非常勤講師（1名）任用申請（報告） 看護学研究科委員会幹事会報告 平成21年度科目等履修生開講科目予定一覧表
9	11月27日	<ul style="list-style-type: none"> （審議） 休学願について（報告） 看護学研究科委員会幹事会報告 平成21年度看護学研究科の時間割 博士課程後期設置に関する検討事項案 大学院生の加入保険について
10	12月25日	<ul style="list-style-type: none"> （審議） 学位論文審査委員の決定（報告） 看護学研究科委員会幹事会報告 平成21年度看護学研究科の時間割（案） 平成20年度看護学研究科FD評価委員会 博士後期課程設置に関する準備について
11	平成21年1月22日	<ul style="list-style-type: none"> （審議） 平成21年度看護学研究科の教員任用 平成21年度科目等履修生の決定 平成21年度看護学研究倫理審査会開催等日程 平成21年度以降の学位論文提出日時及び論文審査等 平成21年度研究構想発表会開催について 平成21年度看護学研究科学年歴（案） 平成21年度看護学研究科非常勤講師任用申請 平成20年度看護学研究科FD評価実施について（報告） 研究倫理審査会報告 看護学研究科委員会幹事会報告 博士課程後期設置に関する準備について
12	2月19日	<ul style="list-style-type: none"> （審議） 平成20年度学位論文発表会及び最終審査について 平成20年度看護学研究科修得単位の認定について 復学願、休学願について 大学院看護学研究科の学則変更について・平成21年度看護学研究科の科目責任者任用について 平成21年度看護学研究科の教員任用について 平成21年度看護学研究科非常勤講師（追加）任用申請（報告） 看護学研究倫理審査会報告 看護学研究科委員会幹事会報告

13	3月5日	<ul style="list-style-type: none"> （審議） 平成20年度最終試験判定 平成20年度学位論文審査結果 平成20年度看護学研究科修了判定 平成20年度看護学研究科単位修得の認定 休学願・退学願 平成20年度看護学研究科FD評価委員会について 平成21年度看護学研究科非常勤講師（追加）任用申請
14	3月19日	<ul style="list-style-type: none"> （審議） 博士課程設置申請時期について 平成21年度看護学研究科教員任用申請（報告） 看護学研究倫理審査会報告
15	3月26日	<ul style="list-style-type: none"> （審議） 退学願 平成21年度看護学研究科教員の科目責任者任用申請 看護学研究倫理審査申請書（案） 平成21年度看護学研究科運営組織 平成21年度看護学研究科委員会議事予定（報告） 平成20年度看護学研究科授業研究会報告

研究科委員会幹事会

幹事長 永井 優子

(1) 大学院看護学研究科（以下看護学研究科と略す）共通科目の教育の概要等

平成20年度から共通科目9科目各2単位はすべて選択科目となり、一部を除いて土曜日も含めて前期または後期に開講することになった。「看護管理・政策論」「看護倫理」「看護実践研究論」「看護継続教育論」「コンサルテーション論」の5科目10単位については、専門看護師教育課程の共通科目として認定されている。

(2) 委員会報告等：研究科委員会幹事会

研究科委員会幹事会は、「自治医科大学大学院看護学研究科委員会幹事会運営内規」によって、看護学研究科委員会の付議する事項に関する事前審議、看護学研究科にかかる企画立案、その他看護学研究科の運営にかかる日常業務の処理を行っている。委員構成が内規の変更に伴い、幹事長のほか、専攻分野主任教授として、岩永幹事、成田幹事、看護学研究科長が指名する者として、竹田幹事、渡邊幹事、井上幹事、大久保幹事、大原幹事、

小竹幹事，高木幹事の計10名で准教授を含めた構成に変更された。幹事会は4月に2回，8月を除いて月1回，計12回開催された。看護学研究科長と密接に連携して，幹事長を中心に諸課題について検討し，人事に関する事項については，教授のみの構成員で検討した。

なお，平成20年度から新カリキュラムとして，実践看護学領域の科目に専門看護教育科目として認定された科目のほかにも選択できる科目が追加され，専門看護師教育課程として認定を受けた母性看護学，小児看護学，成人看護学，精神看護学の当該科目名の変更を行った。これらの変更は平成21年2月に専門看護師教育課程認定委員会で受理された。また，がん看護学科目群については，がん看護専門看護師教育課程として準備を行っており，平成21年7月に認定申請を予定している。

教育研究分野別報告

一般基礎

教授 渡邊 亮一

(1) スタッフの紹介

教授 渡邊 亮一
准教授 大塚公一郎

(2) 教育の概要

1) 情報学

渡邊は、1年次後学期の選択科目「情報学」（2単位30時間）の講義ならびに演習を担当した。「情報学」は、情報とは何かを学び、情報量の概念を理解し、メディアリテラシー能力を養うことを目的としている。「情報とは何か」、「看護と情報処理」、「コンピュータとは」、「コンピュータのハードウェアとソフトウェア」などについて講義した後、「Wordによる文書作成」、「Excelによる表やグラフの作成」、「PowerPointによるスライドの作成」などの演習を行った。

2) 保健医療情報学演習

渡邊は、2年次前学期の必修科目「保健医療情報学演習」（2単位60時間）の講義ならびに演習を担当した。「保健医療情報学演習」は、統計的な知識を身につけ、それを実際の医療や看護の場面で応用できる能力を養うことを目的としている。「尺度と度数分布」、「代表値と散布度」、「相関と回帰」、「確率・順列・組み合わせ」、「確率分布」、「仮説検定」、「分散分析」、「推定」などの統計学および「保健統計」について講義し、統計解析パッケージ「SPSS」を使って実際のデータを解析する演習を行った。

3) 情報収集と表現法

渡邊は、野山広非常勤講師（国立国語研究所）とともに、2年次前学期の選択科目「情報収集と表現法」（1単位30時間）の講義ならびに演習を担当した。「情報収集と表現法」は、効果的な情報収集・思考・表現を行うための基礎的な方法を学習することを目的としている。野山講師は「言語・非言語コミュニケーションの実際」、「論理的・演劇的知による対話と論議の実践」について、渡邊は「情報収集の方法」、「情報の見方・読み方」、「文章表現力」、「プレゼンテーションを助ける技術」について講義および演習を行った。

4) 疫学と公衆衛生

渡邊は、柳川洋非常勤講師（自治医科大学名誉

教授）とともに、3年次後学期の必修科目「疫学と公衆衛生」（2単位30時間）の講義を担当した。「疫学と公衆衛生」は、保健問題の公衆衛生学的解決における看護の役割を理解することを目的としている。柳川講師は22時間を担当し、「健康と疾病の概念」、「疫学方法論」、「生活習慣病予防」、「健康づくり」などについて講義した。また、渡邊は8時間を担当し、「人口・保健統計」、「学校保健」、「精神保健福祉」、「産業保健」などについて講義した。

5) 保健医療関係法規

渡邊は、柳川洋非常勤講師（自治医科大学名誉教授）とともに、4年次前学期の必修科目「保健医療関係法規」（2単位30時間）の講義を担当した。「保健医療関係法規」は、看護職に必要な保健医療に関する法体系の概要を理解することを目的としている。柳川講師は20時間を担当し、「医の倫理と人権尊重」、「地域保健関係法」、「業務関係法」、「環境・公害関係法」などについて講義した。また、渡邊は10時間を担当し、「看護職と法律」、「労働関係法」、「社会福祉関係法」などについて講義した。

6) 哲学

大塚は、1年次前学期の選択科目「哲学入門」（1単位15時間）を担当した。存在、人間、自己、身体、時間、生と死などのキーワードについて、哲学ではどのような理解がなされているかを講義した。

7) 文化人類学入門

大塚は、1年次後学期の選択科目「文化人類学入門」（1単位30時間）を担当した。科目分担者である嶋内博愛非常勤講師（東京大学人文科学系研究科特任研究員）が10時間を担当し、村田敦郎非常勤講師（共栄学園短期大学社会福祉学助手）が10時間を担当した。嶋内講師は、民族と言語、親子の諸相、現代医療と死生観などのテーマについて講義した。村田講師は、伝統・民族医療と現代医学の諸相について講義した。大塚は、「ナラティブ・ベイスト・メデイスン（NBM）」の立場から現代医療の問題点を明らかにしようとした。

8) 人間関係論

大塚は、高村寿子客員教授とともに、2年次前学期の選択科目「人間関係論」（1単位30時間）を担当した。高村客員教授が12時間、大塚が18時間を担当した。高村客員教授は、構成的グループエ

ンカウンターを活用して集団における人間関係のとり方、なかでも相互作用の力により人間関係の構築に影響があることを体験学習させた。大塚は、個としての人間関係に関する様々な理論を学習させた。

9) 看護基礎セミナー

渡邊は崎田マユミ講師と組んで、また大塚は小竹久美子准教授、佐藤美央助教と組んで、1年次前学期の選択科目「看護基礎セミナー」（1単位30時間）を担当した。「看護基礎セミナー」は、ヒューマンケアの基本を理解することを目的としているが、それぞれセミナー形式で、文献の抄読やディスカッションなどを行った。

10) 生活の理解実習

渡邊と大塚は、1年次後学期の必修科目「生活の理解実習」（2単位90時間）を担当した。「生活の理解実習」は、健康な生活を理解することを目的としているが、幼稚園・保育園にいる小児から老人クラブやシルバー大学校にいる老人に至るまで、あらゆるライフステージにある人々との触れ合いにより、健康な生活についての理解が深められたと考えられる。

11) その他

渡邊は、非常勤講師として、女子栄養大学栄養学部保健栄養学科の「情報科学概論」の講義を30時間、社団法人南埼玉郡市医師会久喜看護専門学校の「看護学概論Ⅲ（看護研究）」の講義および演習を30時間担当した。

大塚は、非常勤講師として、栃木県立衛生福祉大学校看護学科専科で6時間の精神医学の講義を行った。また、本学医学部3年生を対象に、2時間の精神医学の講義を行った。

(3) 研究の概要

1) 医療情報技師の育成に関する研究

渡邊は、日本医療情報学会医療情報技師育成部会が認定する資格である「医療情報技師」および「上級医療情報技師」の育成にかかわっているが、そのなかで「上級医療情報技師」の育成制度や資格制度に関連した研究を行っている。

2) 日系ブラジル人の社会精神医学的研究

大塚は、本学医学部大学院生近藤州医師とともに、自治医科大学附属病院精神科において、日系ブラジル人を中心とした外国人患者の診療にあたりるとともに、日本に滞在する外国人を対象とした

社会精神医学的調査、精神病理学的研究を行い、その結果をいくつかの専門誌に論文発表するとともに、国際学会で発表した。さらに、大塚は、近藤医師、サンパウロ連邦大学ミヤサカ教授とともに、日系ブラジル人児童・生徒の日伯比較メンタルヘルス調査の指導および実施に携わった。

3) 腎透析患者の精神障害についての研究

大塚は、本学附属病院精神科で透析患者の診療にあたり、従来のサイコネフロロジーの知見をNarrative based medicineの視点から検討する研究を行い、その結果の一部を専門学会で発表した。

4) 統合失調症の精神病理学的研究

大塚は、本学医学部精神医学教室加藤敏教授とともに、統合失調症における虚偽主題についての精神病理学的研究を行った。

(4) その他

1) 渡邊は、平成19年度に引き続いて、財団法人日本医療機能評価機構の評価調査者として、第三者病院機能評価事業に参画した。

2) 渡邊は、日本医療福祉設備学会理事ならびに事業委員、日本医療情報学会常任幹事・評議員ならびに選挙管理委員会委員長、日本診療録管理学会評議員、日本医療・病院管理学会評議員ならびに研究委員会委員などを務めた。

3) 渡邊は、第28回医療情報学連合大会（第9回日本医療情報学会学術大会）のプログラム委員会委員ならびに座長、第37回日本医療福祉設備学会の一般口演の座長を務めた。

4) 大塚は、第15回多文化間精神医学学会でシンポジウムの司会を務めた。

専門基礎

教授 竹田津文俊

(1) スタッフの紹介

教授 竹田津文俊

教授 竹田 俊明

(2) 教育の概要

1) 専任スタッフ担当

平成20年度1学年より新カリキュラムがスタートした。

専門基礎（旧カリキュラム）／医学関連分野

（新カリキュラム）の主な担当科目は、旧カリキュラムでは「看護の対象である人間の理解および看護実践の基礎となる科目」、新カリキュラムでは「発達段階に共通する看護実践となる科目」より構成されている。

新旧カリキュラムを通じて、従来通り、竹田が専門基礎分野の主な担当科目のなかでもより基礎に近い部分を担当し、竹田津がより臨床に近い部分を担当した。

<旧カリキュラム>

竹田は、医療機器論（2学年対象）を分担した。

竹田津は、医療機器論（2学年対象）、ヘルスアセスメント（2学年対象）、英語II（医療英語、3学年対象）、医療論（3学年対象）を担当した。

<新カリキュラム>

竹田は、人体の構造と機能I（1学年対象）と人体の構造と機能II（1学年対象）を主科目として担当し、その他、生化学（1学年対象）、免疫学（1学年対象）とグローバル生物学（全学年対象）を担当した。医療機器論を分担した。

竹田津は、病態学概論（1学年対象）を主科目として担当し、英語を担当した。その他、免疫学（1学年対象）を分担した。

その他、竹田、竹田津は、1学年（編入学生を含む）に対して看護基礎セミナーを担当した。

2) 非常勤講師担当

<旧カリキュラム>

運動生理学を医学部総合教育板井美浩助教授、栄養学を附属病院栄養部栄養室宮本室長、免疫学および微生物と感染を医学部感染免疫学講座平井義一教授、疾病と病態IIを医学部外科学講座安田是久教授にご担当いただいた。

専任スタッフ担当の医療機器論においても医学部総合医学第1講座松浦克彦講師、医学部RIセンター菊地透管理主任、附属病院臨床工学部鈴木孝雄専任臨床工学技師に分担いただいた。

<新カリキュラム>

基礎薬理学を医学情報学の岸浩一郎助教授、栄養学を附属病院栄養部栄養室宮本室長にご担当いただいた。

尚、教育の内容に関しては平成20年度看護学部シラバスを参照されたい。

(3) 研究の概要

1) 竹田津は、過去の医療事故の原因分析を行っている。

2) 竹田は、ニューラルネットワークの作用と応用について研究を行っている。

基礎看護学

教授 岩永 秀子

(1) スタッフの紹介

教授 岩永 秀子（2009年3月31日退職）

准教授 大久保祐子（2009年3月31日退職）

講師 宇城 令

講師 櫻井 美奈（2008年4月1日就任）

資格：看護師、保健師。学位：看護学修士。
所属学会：日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会、日本看護技術学会。
職歴：都立大塚病院等での看護師、神奈川県立保健福祉大学助手を経て着任。

講師 里光やよい

助教 川上 勝

(2) 教育の概要

1) 基礎看護学関連科目

第1学年では、「看護学概論（30時間）」「実践基礎看護学概論I（15時間）」「看護技術論I（15時間）」「看護技術論II（15時間）」「看護技術演習I（30時間）」「看護技術演習II（30時間）」「生活の理解実習（90時間）」「へき地の生活と看護（旧カリキュラムの「夏期へき地体験研修」を含む）（30時間）」を担当した。

第2学年では、旧カリキュラムの「基礎看護学III（60時間）」「基礎看護学実習II（90時間）」を担当した。

2) 基礎看護学関連科目以外の科目

第1学年では「看護基礎セミナー」、第2～4学年では旧カリキュラムの「成人看護学実習I」「ヘルスアセスメント」「フィールド実習」「保健・看護研究セミナー」「卒業研究」を担当した。卒業研究の担当学生数は18名であった。

(3) 研究の概要

1) 産学協同研究

岩原住宅販売(株)の委託研究として、「マイナスイオンを用いた換気装置の有効性に関する研究」を行った。

2) 看護学部看護系共同研究費による研究

看護学部看護系共同研究費を受け、自治医科大学附属病院7階西病棟の看護師とともに「チューブ式センサーを用いた体動検知装置に関する基礎的研究」に取り組み、その一環として「神経内科の入院患者に適した『転倒・転落チェックシート』の開発」「神経内科疾患患者の転倒・転落リスクを予測する『臨床知』の明確化」「チューブ式センサーを用いた体動検知装置によるベッド上臥床者の体動測定」を行った。

3) 看護技術教育に関する研究

基礎看護技術の効果的な教育方法に関する研究に取り組み、「役割を明確に設定したロールプレイ演習での体験に対する感じ方と内省的気づき」を日本看護学教育学会第18回学術集会において報告した。

4) 大久保と里光は、自治医科大学看護学部共同研究費を受け、「ハイリスク加算前と現在の褥瘡患者の実態と影響要因分析」を、老年看護学の水戸教授、長井助教、池下助教、自治医科大学附属病院看護部の篠原副部長、渡邊師長、太田主任、吉澤看護師とともに取り組んだ。

5) 宇城は、平成19-20年度文部科学省科学研究費補助金(若手研究(B))を受け、「医師と看護師の協働が医療の質指標へ及ぼす影響と協働に関連する要因」を課題とした研究を行った。

6) 櫻井は、上武大学看護学部相馬朝江教授らと共に、前任校から継続して研究を行い、その成果を、「移動に関する看護用具の使用感」として看護技術学会誌に論文として発表した。

7) 川上は、平成20-21年度文部科学省科学研究費助成金(若手研究(B))を受け、「臥床時体動測定による睡眠深度判定法の開発—睡眠ケアと安全対策の確立を目指して—」を課題とした研究を行った。また、宇都宮大学大学院工学研究科尾崎准教授らと共に、考案した体動検知パネル専用の記録装置を開発した。

(4) その他

1) 岩永は以下を担当した。

- (1) 日本看護学教育学会の理事
- (2) 栃木県看護協会主催臨床指導者講習会における「看護師教育課程(大学)」の講義
- 2) 大久保は以下を担当した。
 - (1) 栃木県看護協会主催臨床指導者講習会における「実習指導の評価」の講義
 - (2) 栃木県看護協会主催看護研究研修における「看護研究の応用2」の指導
 - (3) 日本褥瘡学会関東甲信越地方会の世話人および栃木県支部長
 - (4) 日本褥瘡学会在宅褥瘡医療ネットワークセミナー委員会の栃木県代表
 - (5) 第5回日本褥瘡学会関東甲信越地方会学術集会(平成20年6月7日宇都宮)の企画委員
 - (6) 日本人間工学会の評議員
 - (7) 栃木県看護協会の監事
 - (8) 日本褥瘡学会の評議員

3) 里光は以下を担当した。

- (1) 栃木県看護協会主催臨床指導者講習会における「実習指導の原理」の講義
- (2) 栃木県看護協会主催看護職員再就業支援研修における「薬物療法の補助技術」の講義・演習

4) 宇城は以下を担当した。

- (1) 栃木県看護協会主催看護職員実務研修における「リーダーシップ」の講義・演習
- (2) 栃木県看護協会主催実習指導者講習会における「看護論」の講義・演習

5) 川上は以下を担当した。

- (1) 独立行政法人国立病院機構 栃木病院附属看護学校における「フィジカルアセスメント」の講義
- (2) 栃木県看護協会主催看護職員再就業支援研修における「薬物療法の補助技術」の講義・演習

地域看護学

教授 春山 早苗

(1) スタッフの紹介

- 教授 春山 早苗
 講師 鈴木久美子
 講師 塚本 友栄
 講師 工藤奈織美

助 教 小川 貴子（平成20年4月1日就任）

学歴・資格：保健学修士（筑波大学大学院修士課程体育研究科<スポーツ健康システム・マネジメント専攻>修了，看護師，保健師，養護教諭I種，健康運動指導士，介護支援専門員

職歴：総合病院北見赤十字病院の看護師，北海道紋別郡生田原町（現遠軽町）の保健師，青森県の保健師として勤務後，川崎市立看護短期大学看護学科助手（在宅看護領域）を経て着任した。

(2) 教育の概要

①地域看護学

地域における看護の目的と活動方法の基本を理解し，地域における看護活動の展開に必要な基本的な知識と技術を学生が修得できることを目指して，主に行政に所属する保健師の活動を素材にして，教育にあたっている。学年進行に伴う教育目標は以下のとおりである。

2年次では，地域における生活の営みの中で人々の健康を維持・増進し，また疾病や障害をもちながら地域で生活する人々の生命や健康を守り支えるための看護の機能・役割，地域看護活動方法の基本の理解を目指す。続く3年次では，発達段階や健康障害の特性に応じた地域看護活動の展開方法を理解し，地域看護活動の展開に必要な基本的な知識と技術の修得を目指す。また，医療を要し，健康問題を抱えながら地域で生活する人々や，学校や産業の場で生活する人々に対する看護の修得を目指し「フィールド実習」を実施している。在宅看護フィールド実習，学校フィールド実習，産業フィールド実習，外来看護実習，精神保健ケア施設実習から成る「フィールド実習」において，特に地域看護学担当教員は在宅看護フィールド実習，学校フィールド実習，産業フィールド実習，そしてへき地における実習を担当した。99名の学生の内8名が，へき地（栃木県日光市，群馬県吾妻郡六合村）で実習した。4年次では，フィールド実習を踏まえて，学校や事業所など活動の場の特性に応じた地域看護活動の展開方法と地域における健康危機管理活動の理解を目指す。また，地域診断に基づき地域住民のヘルスニーズを明確にし，それを充足する保健福祉活動を展開する方法の修得を目指し，栃木県内の市町村，保健所をフィールドに演習・実習をしている。

②その他

日本の社会保障制度とそれに基づくヘルスケアシステムの成り立ちを学習する「保健医療福祉システム論」（1年次，必修）では，春山を科目責任者とし，鈴木，塚本，工藤で担当した。へき地に住む人々の生活と看護の特徴を学習する「へき地の生活と看護」（1年次，選択）では，工藤が研修施設との調整や事前演習を担当した。「家庭生活援助論」（4年次，必修）では，鈴木が地域における家族の生活と援助方法について講義・演習を4時間担当した。「国際保健論」（3年次，必修）では，春山が国際保健とは，世界の感染症の動向と対策，ルーラルエリアにおける保健医療対策について，8時間担当した。「国際看護活動論」（4年次，選択）では，春山は被支援国におけるヘルスプロモーション活動への支援について2時間，講義した。人々の健康な生活を理解することを学習目的とした「生活の理解実習」（1年次，必修）では小川，工藤，鈴木，春山が，「基礎看護学実習Ⅱ」（2年次，必修）では小川が，「成人看護学実習Ⅰ」（2年次，必修）では，小川，塚本が実習指導を担当した。

ヒューマンケアの基本を学習する「看護基礎セミナー」（1年次，必修）では，地域看護学担当教員全員がグループを担当した。「保健・看護研究セミナー」（4年次，選択）については，地域看護学が担当した学生は14名で，関心のある看護の文献を探索し，読み，プレゼンテーションすること，研究テーマを絞り込み文献検討すること，研究計画書の作成を目的に，ゼミと個別指導を行い，地域看護学担当教員全員で22時間，担当した。「卒業研究」（4年次・必修）については，地域看護学では春山が2名，鈴木が4名，塚本が3名，工藤が3名，小川と春山で2名，計14名の学生を指導した。学生は，介護や育児に関する看護援助，慢性疾患を抱えて地域で生活する人々とその家族への看護援助，中学生の健康支援のための看護活動，へき地に住む高齢者や要介護認定を受けている独居高齢者の健康問題と保健行動，心身障害児の在宅療養支援等のテーマに取り組んだ。

工藤，小川は，竹田津教授，里光講師とともに教務委員会の下部組織である夏季へき地研修担当の担当者となり，夏期休暇中にへき地にある7カ所の医療機関と併設する老人保健施設等において，「へき地の生活と看護」の履修者5名を含む30名，

3～4日間の研修を企画・実施した。平成20年9月29日に夏季へき地体験研修発表会を開催した。

(3) 研究の概要

①自治医科大学看護学部共同研究費による研究課題「へき地診療所における看護活動の現状と看護職の学習ニーズ」に塚本を中心に地域看護学担当教員全員で取り組み、「へき地診療所における看護活動の実態と課題に関する調査―へき地診療所全国調査報告―」としてまとめた。

②春山は、研究代表者として研究分担者である鈴木、研究協力者である塚本、工藤、小川と共に平成20年度厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）による研究課題「結核・感染症の発生に備えた保健所保健師の平常時体制づくり並びに現任教育プログラムの開発に関する研究」に取り組み、その結果を平成20年度総括・分担研究報告書、並びに、19年度からの2年間の取り組みを平成19～20年度総合研究報告書に執筆した。また、2年間の成果物として、「感染症対策における平常時の保健所保健師活動ガイドライン」、並びに、「感染症業務に関わる保健所保健師の現任教育プログラム」を作成した。

③春山は、研究代表者として分担研究者である鈴木、塚本、工藤、小川と共に平成19年度～21年度科学研究費補助金（基盤研究（C））による研究課題「離島・山村過疎地域における市町村保健師活動のプライオリティの判断に関する研究」に組み組んだ。

④春山は、平成20年度厚生労働科学研究費補助金（厚生労働科学特別研究事業）による研究課題「医師と看護師との役割分担と連携の推進に関する研究」（研究代表者：慶應義塾大学 教授 太田喜久子）の研究分担者として医療過疎地域ワーキンググループの責任者を務め、研究協力者の鈴木と共に山村や離島にある12カ所のへき地診療所に勤務する医師・看護師へのヒアリングから「医療過疎地域領域の役割分担・連携」をまとめた。

⑤春山は、平成20年度厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）による研究課題「災害・重大健康危機の発生時・発生後の対応体制及び健康被害抑止策に関する研究」（研究代表者：日本大学医学部 教授 大井田隆）の分担研究「風水害発生時の必要な保健師マンパワー算定基準の検討」（研究分担者：千葉大学看

護学部 宮崎美砂子）の研究協力者として、風水害時に応援保健師を導入し保健活動を実施した8事例を調べ、風水害発生時に必要な応援保健師マンパワー算定基準を実証的に検討した。

(4) その他

1) (財)地域社会振興財団 第324回現地研修会「栃木県西地区看護活動研修会―災害に負けない地域ネットワークづくり パート2」（県西地区看護職の連携を考える会他主催，日光市，H20.11.21）において県西地区看護職の連携を考える会オブザーバーである春山と鈴木はその企画・実施に協力した。研修参加者は50名であった。

2) H20.9.20から春山が第4回日本ルーラルナーシング学会学術集会の企画委員長兼実行委員長を、鈴木、工藤は企画委員兼実行委員を、塚本、小川は実行委員を務めている。

3) 春山：①日本ルーラルナーシング学会第3回学術集会シンポジウム「へき地で暮らす人たちの健康を守る看護の知恵」（H20.9.20，札幌市）の座長を務めた。②栃木県地域保健中堅職員研修（ケアコーディネート・テーマ別編）地域支援従事者コース県東エリア（3日間1コース，H20.10.23，10.24，H21.1.20）で講師を務めた。参加者は20名であった。③(財)地域社会振興財団 第10回健康教育・ヘルスプロモーション研修会で、講師を務めた（H20.8.21～23，受講者22名）。④医道審議会専門委員保健師助産師看護師分科会員を務めている。⑤日本地域看護学会査読委員を務めている。

⑥日本私立看護系大学協会平成21年度研究助成事業選考委員を務めた。⑦栃木県看護協会平成19年度実習指導者講習会において「看護論」（6時間）の講義を担当した（H20.8.12，受講者42名）。⑧院生と共に足利市保健師研修会「災害時の保健師活動体制づくり」（H21.3.17）において講師を務めた。⑨9月まで日本ルーラルナーシング学会評議員，副事務局長を，H20.9.20から同学会の理事，編集委員長を務めている。

4) 鈴木：①下野市介護認定審査会委員を務めている。②栃木県立小山西高等学校の学校評議員を務めている。

5) 小川：とちぎ思春期研究会事務局幹事を務めている。

6) 鈴木，塚本，工藤，小川：9月まで日本ルーラルナーシング学会事務局員を務めた。工藤，小

川はH20.9.20から同学会の編集委員を務めている。
7) 鈴木, 塚本: 日本私立看護系大学協会平成20年度大学における教育に関する事業②教職員の資質向上に関する事業 第10回セミナー (H21.1.24, 自治医科大学地域医療研修センター) において企画・実行委員を務めた。

精神看護学

教授 永井 優子

(1) スタッフの紹介

教授 永井 優子
教授 半澤 節子
講師 野崎 章子

資格・学位: 看護師, 保健師, 看護学学士, 看護学修士, 学歴: 千葉大学看護学部卒, 千葉大学大学院看護学研究科修士課程修了, 千葉大学大学院看護学研究科博士後期課程満期退学, 職歴: 中村古峽記念病院に非常勤看護師として勤務後, 千葉県こども病院看護師, 北條内科クリニック, 千葉市立青葉病院の非常勤看護師を経て, 千葉大学看護学部精神看護学教育研究分野の助手, 助教を経て着任した。所属学会: 日本看護科学学会, 千葉看護学会, 日本児童青年精神医学会, 日本精神衛生学会

助教 佐藤勢津子

(平成20年8月10日死亡退職)

助教 谷田部佳代弥 (平成20年3月31日退職)

助教 濱田 恭子 (平成20年4月1日着任)

資格・学位: 看護師, 学士 (看護学), 修士 (看護学), 学歴: 鹿児島大学医学技術短期大学部看護学科卒, 久留米大学医学部看護学科 (3年次編入学) 卒, 職歴: 鹿児島大学附属病院循環器外科病棟を経て, 同救命救急室夜間専任看護師を経て着任した。保健学研究科保健学専攻博士後期課程を現在休学中である。所属学会: 日本精神保健看護学会, 鹿児島精神神経学会

(2) 看護学部教育の概要

当領域では, あらゆる健康水準あるすべての個人及び集団を対象に, 対象者の人権を尊重するとともに, その人の希望を踏まえた精神看護実践の基礎的知識と技術の修得を精神看護学の学士レベルの教育目標として教育に当たっている。開学時

から引き続き開講している3年次学生までを対象とした授業科目のほか, 4年次学生を対象とした「卒業研究」で8名の学生を指導した。なお, 精神看護学実習の実習施設として, 新たに小山富士見台病精神科療養病棟を開拓し, 上都賀総合病院精神科病棟は平成20年度をもって終了して新たに実習施設を開拓した。

平成20年度に導入された新カリキュラムでは, 1年次必修科目として「生涯発達看護論」を永井が, 「援助関係論」を半澤がそれぞれ科目責任者として担当している。

母性看護学

成田 伸

(1) スタッフの紹介

教授 成田 伸
准教授 大原 良子 (平成20年9月30日退職)
講師 矢野 美紀 (平成20年4月1日就任)
資格: 助産師, 保健師, 看護師

学歴: 福井県立短期大学・北海道医療大学卒業, 鹿児島大学医療技術短期大学部 (専攻科助産学特別専攻) 修了, 神戸大学大学院 (修士課程), 安田女子大学大学院 (博士課程) 修了, 博士 (文学)。職歴: 愛媛大学医学部附属病院, 福島生協病院, NTT東日本関東病院に助産師として勤務, 広島県立保健福祉大学助手, 東京医療保健大学講師。所属学会: 日本母性衛生学会, 日本助産学会, 日本思春期学会, 日本看護科学学会。

助教 西岡 啓子
加藤 優子 (平成21年3月31日退職)
森島 知子 (平成20年4月1日就任, 平成21年3月31日退職)

資格: 助産師, 看護師

学歴: 群馬大学大学院医学系研究科博士前期課程母子看護学専攻修了, 修士 (看護学)。職歴: 東京女子医科大学付属第二病院産科病棟3年, 北里研究所メディカルセンター病院産科病棟に助産師として勤務, 群馬大学医学部保健学科非常勤講師, 帝京大学医療技術学部看護学科非常勤助手。所属学会: 日本母性衛生学会, 日本助産学会, 日本看護科学学会会員。

須藤 久実 (平成20年7月1日就任)

資格: 助産師, 看護師

学歴：秋田大学医療技術短期大学部卒業，東北大学医療技術短期大学部専攻科（助産学特別専攻）修了，群馬大学大学院医学系研究科博士前期課程修了，修士（保健学）。職歴：新潟大学医学部附属病院，群馬大学医学部附属病院に助産師として勤務。弘前学院大学助手。所属学会：日本新生児看護学会，日本母性衛生学会，日本助産学会，日本看護科学学会。

(2) 看護学部教育の概要

1) 生涯発達看護学概論Ⅰ（妊産褥期）（1単位：15時間，1年次後学期，必修科目）

新カリキュラム科目であり，成田が担当した。母性看護学の基本概念，母親になっていくプロセス，生殖医療と倫理・法的な問題などを講義した。

2) 看護基礎セミナー（1単位：30時間，1年次前学期，必修科目）

新カリキュラム科目であり，成田は里光講師と共に，7名の1年生を担当した。がんのターミナル等をテーマに図書の見聞を行い，テレビ番組「余命1ヶ月の花嫁」の視聴，がん治療看護の歴史を理解できる図書等を追加し，それぞれがレポートを完成させた。

3) ジェンダー論（1単位：30時間，1年次後学期，選択科目）

新カリキュラム科目であり，成田が担当した。ジェンダーの概念を理解し，セクシュアリティを有する人間生活におけるさまざまな事象をジェンダーの視点から考察し，さらには，ジェンダーと健康や医療・看護との関係について考察することを目的に，講義・演習を展開した。37名の学生が受講し，ドメスティック・バイオレンスを考える演習には積極的な参加があった。

4) 母性・小児保健論（1単位：30時間，2年次前学期，必修科目）

旧カリキュラム科目である。母性・小児保健にかかわる看護の役割を理解することを目的に，総論を成田が担当し，その後は川口教授と分担し，成田は主に母性と健康生活援助を中心に講義した。

5) 母性臨床看護学（2単位：60時間，2年次後学期，必修科目）

旧カリキュラム科目である。矢野が科目責任者として担当し，演習や講義の一部を成田・西岡，加藤，森島，須藤が分担した。母性看護に必要な母子への看護技術，母性及びその家族のセルフ

ケア能力を査定し，必要な支援を考え実施することに焦点をおいて授業を行なった。実技演習は，妊娠・分娩期，産褥・育児期に分け母性領域のすべての教員が，学生一人一人に指導を行なった。

6) 母性の心理と看護（1単位：15時間，3年次後学期，選択科目）

旧カリキュラム科目である。成田が担当し，4年次助産学関連科目受講生選考の際の成績評価科目であるが，受講を希望する学生は全員受講可能な科目として設定した。育児を取り巻く現代の環境と女性の心理，死産の親の心理，ドメスティック・バイオレンスについての講義も行なった。興味のある女性の置かれた状況やそのことから発生する心理状態について，学生がそれぞれテーマを決めレポートの作成を行なった。

7) 助産学概論（1単位：15時間，3年次後学期，選択科目）

旧カリキュラム科目である。成田が担当し，上記「母性の心理と看護」と共に，4年次助産学関連科目受講生選考の際の成績評価科目であり，受講を希望する学生は全員受講可能な科目として設定した。概論として助産学や助産師の基礎概念を押さえると共に，母子医療の現状や課題を国際的な視点，日本国内の視点など，多様な視点から分析し，最終的により焦点化したテーマで各学生がレポートを作成した。

8) 助産学Ⅰ（1単位：30時間），助産学Ⅱ（1単位：30時間），助産診断・技術学Ⅰ（2単位，60時間），助産診断技術学Ⅱ（2単位：60時間），助産管理（1単位：15時間）（4年次前期，選択科目）

旧カリキュラム科目である。3年次末に選考された7名の学生を対象に講義・演習を行った。成田・大原・矢野・西岡・加藤・森島が講義・演習を担当した。

学ぶ学生にとって学びやすいような順序性を工夫し，また1週間単位程度で内容がまとまりを持つようにし，必要時小テストで知識の定着を図った。また自己学習を促進するために，事前に予告し，十分な資料収集を促した上で，課題レポートの作成を課した。分娩介助技術の演習では，基礎的な技術の練習から複雑な技術の練習へと1ヶ月単位で企画し，また演習室を学生に開放し，自己学習を奨励した。

助産学Ⅱに小児科医と助産学研究者，助産診断・技術学Ⅰに産婦人科医・臨床心理士・ラクテ

ーションコンサルタント、助産管理に看護管理（看護情報学）研究者に非常勤を依頼し、それぞれの領域の最新の話題について講義していただいた。

9) 助産学実習（5単位：225時間，4年次後学期，選択科目）

旧カリキュラム科目である。選考された学生7名を対象に展開した。主に分娩介助を学ぶ実習は済生会宇都宮病院，自治医科大学附属病院で行った。ハイリスク母子の助産については自治医科大学附属病院において，7名全員が実習した。実習期間は9月8日から10月10日に設定したが，自治医科大学附属病院において分娩介助件数が不足したため，急遽11月10日～21日の2週間日光市民病院において補習実習を行い，ほぼ9例の分娩介助を行って実習を終了した。

助産所見学はままと赤ちゃんの家において行い，地域助産師の新生児訪問への同伴実習を行うと共に，地域助産師の育児支援活動に参加した。

10) 卒業研究

旧カリキュラム科目である。15名の学生を成田4名，大原2名，矢野3名，西岡2名，加藤2名，森島2名で担当し，成田が全体を統括した。父親の育児，産褥期の肩こり，避妊・低用量ピル，不妊症看護，NICU入院児の母親，外国人の子育て支援等のテーマで事例研究・文献研究を行った。助産学実習との絡みからデータ収集は夏休み期間となってしまったが，どの学生も熱心に行い，期限内に提出した。

11) 家族生活援助論（2単位：30時間，4年次前期開講）

旧カリキュラム科目である。大原は科目責任者として，家族看護論等の理論および母性領域における事例を元に，家族生活援助についてのアセスメント，計画立案の演習を行った。

12) 国際看護活動論（1単位：15時間，4年次前期開講）

旧カリキュラム科目である。大原は科目責任者として，国際看護の方法論についての説明を行った。また，国内に住む外国人の医療問題，途上国の母性領域で働く看護職の活動について講義を行った。

小児看護学

教授 川口 千鶴

(1) スタッフの紹介

教授 川口 千鶴

教授 中島登美子（平成20年9月1日就任）

資格：看護師（日本，U K）

学歴：聖路加看護大学大学院博士後期課程修了（看護学博士）

職歴：福島県立医科大学看護学部助教授，静岡県立大学看護学部教授

講師 横山 由美

講師 関森みゆき

助教 田中 美央

(2) 看護学部教育の概要

1) 小児看護学に関連する科目の教育概要は以下のとおりである。

第1学年では，新カリキュラム施行に伴い，今年度より，子ども（出生から成人に達するまでの人）を総合的に理解し，小児看護の役割を学習する「生涯発達看護学概論Ⅲ」を担当した。

第2学年では，健康レベルに応じた小児看護活動の理解を主な目的として，「母性・小児保健論」の小児保健部分，「小児臨床看護学」を担当した。

第3学年は，それまでに学んだ小児看護の実践能力を養うための「小児看護学実習」を担当した。

第4学年では，「家族生活援助論」の一部を担当した。また，演習として，小児看護を例に研究の進め方を学ぶことを目的とした「保健・看護研究セミナー」とセミナーから引きつづき「卒業研究」を担当した。なお，保健・看護研究セミナーおよび卒業研究の担当学生数は10名であった。

2) 看護学部全体で担当する演習および実習として，第1学年では新カリキュラムのもと新たに「看護基礎セミナー」と「生活の理解実習」を担当した。また，昨年度に引き続き，2学年では「基礎看護学実習Ⅱ」と「成人看護学実習Ⅰ」，3学年では「フィールド実習」を担当した。

3) そのほか，川口は新カリキュラムにおける1年生の「倫理学」を担当した。

(3) 研究の概要

1) 田中が主任研究者になっている文部科学省科

学研究費補助金による「在宅重症心身障害児を育てる母親の育児への意欲の支援に関する研究」において、以下の2点を検討した。(1) 文献検討；在宅で重症心身障害児を育てる家族の育児困難感を構成する要素を明らかにするため、関連する書籍および国内外の文献（PubMed, CINAHL, 医学中央雑誌, NDL-OPAC）の分析を行った。(2) 在宅で重症心身障害児を育てている母親へ聞き取り調査を行う準備のため、子どもへの気付きを見出す要素について検討した。

2) 川口が分担研究者となっている文部科学省科学研究費補助金による「子どものヘルスプロモーション促進への基礎教育における外来看護実習と外来看護の構築」は、3年目を迎えた。今年度は、①小児看護学実習における外来看護実習モデルの検討②子どものヘルスプロモーションに向けた、看護プログラム（診察ってなに？・点滴ってなに？・吸入ってなに？）の実施、③外来看護師を対象とし、外来での看護学生の実習についての検討を目的とした日本外来小児科学会のワークショップの企画運営を行った。

(4) その他

1) 下野市のむつみ愛泉幼稚園において、幼稚園教諭とともに障害をもつ子どもへの支援について昨年度に引き続き、特別支援勉強会を行った。今年度は横山が中心となり活動した。平成21年3月26日には、下野市社会福祉課の協力のもと「～ダウン症児～かかわり方のサポートノート」というテーマで2年間の活動をまとめた報告会を行った。

2) 自治医科大学附属病院NICUで、退院後の育児相談や親同士の交流を目的に月1回行っている「すくすくクラブ」という親子教室の会誌（すくすくだより）の原稿執筆を行った。

成人看護学

教授 中村 美鈴

(1) スタッフの紹介

教授 中村 美鈴

講師 山本 洋子（平成20年9月30日退職）

講師 内海 香子

講師 崎田マユミ（平成20年4月1日就任）

略歴＜資格・学位＞看護師，保健学修士，学歴：東京大学大学院医学系研究科健康社会学専攻修士課程（博士前期課程）修了，同博士後期課程単位取得満期退学

職歴：国立国際医療センター，東京医科大学病院にて看護師として勤務，財団法人労働科学研究所にて研究員として勤務。

講師 桑原美弥子（平成20年4月1日就任，平成20年9月30日退職）

略歴＜資格・学位＞看護師，看護学修士，学歴：東京女子医科大学看護短期大学看護学科卒業，聖路加看護大学看護学部卒業，ミシガン大学大学院看護学研究科修士課程修了

職歴：東京女子医科大学病院救命救急センター，聖路加国際病院救命救急センター後，福島県立医科大学看護学部成人看護学助手

助教 段ノ上秀雄（平成20年11月1日就任）

略歴＜資格・学位＞看護師，保健師，養護教諭2種，文学士，保健学士，工学修士。学歴：早稲田大学第一文学部哲学科心理学専修卒業後，広島大学医学部保健学科看護学専攻卒業，早稲田大学大学院理工学研究科経営システム工学専攻修了。＜職歴＞広島大学医学部附属病院呼吸器・アレルギー科病棟，社会保険中央総合病院ICU病棟に非常勤勤務。その後，東京大学大学院工学系研究科研究員を経て着任。

助教 武正 泰子

(2) 教育の概要

1) 生涯発達看護学概論Ⅳ（成人期）

生涯発達看護学概論Ⅳ（成人期）は，1年次後学期，2単位30時間の必須科目である。学習目的は，生涯発達という観点から成人期にある対象を深く広く理解し，成人看護に有用な理論ならびに概念を学び，看護観を養うことである。成人期にある人の成長と発達，成人期にある人の発達課題，成人の生活，引き起こしやすい健康課題，さらに健康課題の多様性，成人の保健行動，健康行動理論，アンドラゴジー，セルフケア・セルフケアマネジメント，危機理論，ストレスコーピング，病みの軌跡，成人を取り巻く家族への支援等，成人期に有用な理論や概念，その実践への応用について講義を行った。中村が14時間，内海が8時間，崎田が6時間の講義を担当した。

2) 成人・老年保健論

成人・老年保健論は、2年次前学期、2単位30時間の必須科目である。学習目的は、成人期及び高齢期にある人の保健上の課題や動向にかかわる看護の役割について学習することである。

成人保健論として、成人各期の健康特性、成人保健の動向、生活習慣病の予防と対策、成人と対象とした健康施策、産業と保健活動について講義を行った。中村が6時間、内海が4時間、小竹（がん看護学）が4時間の講義を担当した。

3) 成人臨床看護学Ⅰ

成人臨床看護学Ⅰは、2年次後学期、2単位60時間の必須科目である。学習目的は、機能障害をもつ成人とその家族の健康への回復と生活への適応に向けて、必要な看護を学習することである。

消化・吸収機能障害、栄養・代謝機能障害、呼吸機能障害、循環機能障害をもつ成人・家族の把握とその方法、検査・治療に伴う必要な看護について講義を行った。さらに、手術療法を受ける患者の看護、生命の危機状況にある成人の看護、看護過程の展開について、講義と演習を行った。

中村が20時間、内海が6時間、崎田が8時間、段ノ上が8時間、看護過程の演習は全教員で10時間、生命の危機状況にある成人の看護の演習は、武正を中心に全教員で4時間担当した。

4) 成人臨床看護学Ⅱ

成人臨床看護学Ⅱは、2年次後学期、2単位60時間の必須科目である。学習目的は、機能障害をもつ成人とその家族の健康への回復と生活への適応に向けて、必要な看護を学習することである。

内部環境調節機能障害、身体防御機能障害、脳神経・感覚機能障害、運動機能障害、性・生殖機能障害をもつ成人とその家族に必要な看護、がんを患う患者・家族の看護について講義を行った。さらに、感覚機能障害をもつ成人の看護では2時間の演習で模擬患者体験を、内部環境調節機能障害をもつ成人の看護では3日間の模擬患者体験を元に2時間のグループ討議による演習を行った。また、事例を用いて看護過程の展開について演習を行った。

中村が4時間、小竹（がん看護学）が16時間、内海が14時間、崎田が12時間、看護過程の演習を全教員で10時間、感覚機能障害をもつ成人の看護の演習を全教員で2時間、内部環境調節機能障害をもつ成人の看護の演習を全教員で2時間担当した。

5) 成人看護学実習Ⅰ

成人看護学実習Ⅰは、2年次後学期、3単位135時間の必須科目である。学習目的は、健康障害によって入院治療している成人期にある人を多面的に理解し、看護師—患者関係を基盤に看護過程を展開できる基礎的能力を養う、また、実習を通して、看護の機能や役割について理解を深めることである。自治医科大学附属病院の成人系病棟に1グループ6-7名の学生配置で17病棟に分かれて実習を行った。方法は、内科的治療もしくは外科系治療を受ける成人とその家族を1-2名受け持ち、3週間継続して臨地実習を行った。実習中は、カンファレンスを通じて学生が相互に刺激し合い、受け持ち患者の看護や現場での疑問について方向性を見出すなど、成人看護学に関する多くの内容を学び得ることができた。また、看護専門職にふさわしい姿勢・態度、倫理観を養うことも重要視して実習指導を行った。科目責任者の中村は、実習全体の巡視と統括を行い、小竹准教授（がん看護学）、内海、崎田、段ノ上、武正、塚本講師（地域看護学）、小川助教（地域看護学）、須藤助教（母性看護学）、西岡助教（母性看護学）、宇城講師（基礎看護学）、川上助教（基礎看護学）、長井助教（老年看護学）、池下助教（老年看護学）、濱田助教（精神看護学）、小西非常勤講師、堀田非常勤講師、関山非常勤講師、他臨床助教ならびに臨床講師が実習指導を担当した。

6) 成人看護学実習Ⅱ

成人看護学実習Ⅱは、3年次前学期、3単位135時間の必須科目である。学習目的は、成人看護学Ⅰで経験した看護過程の展開能力を基盤に、既習の専門知識や文献等の知見を取り入れ、成人患者とその家族に必要な看護支援を考えるための能力を高めることであった。具体的な実習目的は、「機能障害をもつ成人とその家族の健康と幸せを目指した看護を創造するための基礎的能力を培う」とした。自治医科大学附属病院の外科系内科系病棟に1グループ6-7名の学生配置で1クール5病棟に分かれて実習を行った。方法は、内科的治療ならびに外科系治療を受ける成人とその家族を受け持ち、3週間継続して臨地実習を行った。実習中は、学生が主体的にテーマカンファレンス或いはケースカンファレンスを行い活発に意見交換し、受け持ち患者の看護について深く考える機会となった。また、担当教員は、看護専門職としての倫理観、

探究的姿勢・態度を培うことを主眼に指導した。学生の臨地実習で成人患者とその家族の体験を実際に知り、信頼関係を丁寧に育みながら、その人の望む方向に向かって看護支援を実践できるよう取り組んでいた。

中村は実習全体の統括を行い、がん看護学の小竹は2クール、成人看護学の山本は3クール、内海は3クール、崎田は4クール、桑原は4クール、武正は4クールにおいて実習指導を行った。

7) フィールド実習

フィールド実習は、3年次後学期、3単位135時間の必須科目である。学習目的は、さまざまな健康レベルおよび生活の場（環境を含む）における看護の役割特性と課題について学習することである。成人看護学領域では、外来看護を主に担当し、次の3点を実習目標とした。①地域で生活しながらさまざまな健康上の問題を持ち、外来を受診する人々への看護の役割を理解する、②救急外来を受診する人々とその家族への看護の役割を理解する、③外来を受診する人々とその家族が地域社会生活を営む上での看護の課題について考えるである。実習方法は、自治医科大学附属病院の総合案内から各科外来へ向かう初診患者、夜間救急外来を受診する患者・家族、内科外来処置室、内視鏡室、外来点滴センターのいずれかで継続治療を受ける患者を担当し看護の役割について理解を深めた。また、看護の課題についてはグループワークを行い討議ならびに発表で、理解を深められるよう指導した。成人看護学の中村、内海、崎田、段ノ上、武正と小竹（がん看護学）が4週間実習を担当した。

8) 看護基礎セミナー

看護基礎セミナーは、1年次前学期、1単位30時間の選択科目である。学習目的は、ヒューマンケアの基本を理解することである。このセミナーは、教員3名が学生7-8名を担当し、グループワーク、文献学習、討議、見学（必要時）等の方法で、学生の関心のある個人や、個人の人生や体験が書かれた書籍を読み、自分の体験を振り返り、グループでのディスカッションを通して、「人間とは」、「人間の尊厳」、「人権擁護」、「ケアすること」などについて、学習を深めた。中村は櫻井講師（基礎看護学）、濱田助教（精神看護学）、山本は竹田津教授（専門基礎）、桑原は永井教授（精神看護学）、川上助教（基礎看護学）、崎田は渡邊教授

（一般基礎）、内海は岩永教授（基礎看護学）、佐藤勢津子助教（精神看護学）武正は春山教授（地域看護学）、矢野講師（母性看護学）と共にセミナーを行った。

9) 保健・看護研究セミナー

保健・看護研究セミナーは、4年次前学期、1単位30時間の選択科目である。学習目的は、保健・看護に関する研究テーマの選び方、研究の進め方について学ぶことである。このセミナーは、学生が各自関心のある看護に関する文献を検索する方法、ならびに論文をクリティークし、看護に関するテーマの多様性の理解、討議を通して看護学に対する視野を広げることを小グループ制（1グループ5-6名）で行った。グループワークは、個々の学生が自分の興味ある内容の論文を批判的に読み、その結果を各グループメンバーがプレゼンテーションを行い、その後討議を行うという形式で実施した。セミナーでは、中村、山本、内海、桑原、崎田、武正が18名の学生を担当した。

10) 看護研究

看護研究は、4年次後学期、4単位120時間の必須科目である。学習目的は、「看護の研究の方法や進め方から論文の作成までの過程を体験し、学ぶ」ことである。成人看護学領域では、この目的に「主体的に研究に取り組む姿勢をはぐくむ」という点を加え、指導した。担当は、中村、内海、崎田、段ノ上、武正の5名で18名の学生を指導した。授業方法は、研究プロセスならびに学習の状況に応じて、ゼミ形式、個別指導、集団指導で行った。研究課題は、学生の関心を尊重し、丁寧に絞り込みを行った。卒業研究全体の進行過程としては、4月末にオリエンテーション、8月上旬に面接法に関するミニ講義、8月末に研究計画書の報告を自主ゼミ形式で行った。9月頃からデータ収集開始のための準備・研修・フィールドとの連絡調整を各担当教員が学生と共に実施した。10月以降からは、データの分析、考察、論文作成と、学生は比較的、順調に研究プロセスを体験できた。また、1月の発表会に向けて、ミニ講義を実施した。このように、研究の進行過程の要所でミニ講義を実施し、内容の理解と全体の調和を図った。学生は戸惑いながらも、主体的に研究を進めることができ、論理的に研究が進められるように一緒に考えを整理し、指導してもらったと実感していた。学生の教員に対する評価は、概ね良好であった。成人看

看護学関連科目群で内海を中心に行った共同研究「看護系大学学士課程学生の卒業研究における困難の変遷と指導の工夫」の成果である指導の視点を実際に取り入れながら、卒業研究の指導を強化した。

(3) 研究の概要

1) 成人看護学における学内共同研究では、前年度から引き続き、「看護系大学学士課程学生の卒業研究における困難の変遷と指導の工夫」をテーマに研究をまとめ、内海が、自治医科大学シンポジウムで示説発表を行い、卒業研究における困難に対する指導方法の示唆を得ることができた。

2) 成人看護学における学内共同研究の2つ目では、「生命の危機状況にある患者に代わり延命治療の実施に関する意思決定を行う家族への看護師のかかわり」をテーマに、研究をまとめ、武正が、自治医科大学シンポジウムで示説発表を行った。

3) 中村は、平成20年度に交付された文部科学省科学研究費補助金基盤(C)による研究課題「上部消化管患者の術後機能障害評価尺度(短縮版)の開発とその信頼性・妥当性の検討」(研究代表者:中村美鈴)について、計画に基づき、予定していた調査を3施設で終了した。データ収集、倫理的配慮の実践について、報告書を作成した。

4) 内海は、平成19年度~20年度 文部科学省科学研究費補助金基盤(C)研究課題「糖尿病セルフケア能力測定ツールを活用した看護援助プログラムの開発(研究代表者:清水安子)」について、共同研究者として参加し、データ収集、分析、専門家会議開催、認定看護師(糖尿病看護)への研究説明会資料作成など、研究を遂行した。

5) 崎田は、2008年10月に財団法人労働科学研究所による「医療のIT化に伴う労働環境の変化と安全・品質・効率改善に関する調査研究」において調査員として活動した。

(4) その他

1) 中村は、2008年7月に白鷗大学「救急医療と看護の役割」1コマ(2時間)講義を担当した。

2) 中村は、2008年8月に実践に活用できる看護過程(栃木県看護協会主催)というテーマで講義・演習を担当した。武正はその教育補助を担当した。

3) 中村は、2008年度9月に臨床指導者講習会

(栃木県看護協会主催)で、「実習指導の原理」というテーマで講義(3時間)を担当した。

4) 中村は、2008年度11月に認定看護管理者セカンドレベル教育研修会(栃木県看護協会主催)において、「人的資源活用論:継続教育」を担当した。

5) 中村は、2008年度12月認定看護管理者セカンドレベル教育研修会(栃木県看護協会主催)において「根拠に基づいた看護実践」というテーマで講義(3時間)を担当した。

6) 中村は、栃木病院附属看護学校でフィジカルアセスメントの講義・演習(3時間)を行った。

7) 中村は、2006年6月より日本ルーラルナースィング学会の評議員を務めている。

8) 中村は、2008年度から日本ルーラルナースィング学会学会誌編集委員会の査読委員を務めている。

9) 中村は、2008年度より日本クリティカルケア学会学会誌編集委員会の査読委員を務めている。

10) 中村は、2006年9月より日本救急看護学会の評議員を務めている。

12) 中村は、2006年4月より日本保健医療社会学会の評議員を務めている。

13) 内海は、2008年8月26日に栃木県看護協会主催の看護トピック研修「慢性疾患患者の行動変容を促すアプローチ」にて、糖尿病患者を中心に慢性病をもつ患者の行動変容を促すために役立つ慢性病の捉え方、理論や概念の紹介、具体的な看護実践方法について講義を行った。

14) 内海は、2008年9月10日に、自治医科大学看護学部臨床実習指導研修会にて、自治医科大学看護学部臨床実習指導者及び新助教を対象として、「臨床実習指導の実際(教員の立場から)」を講義した。

15) 内海は、2008年10月より、日本糖尿病教育・看護学会 第14回学術集会企画・実行委員を務めている。

16) 内海は、2003年度4月より、日本糖尿病教育・看護学会編集委員会専任査読者を務めている。

17) 内海は、2007年9月から2008年5月に、日本ルーラルナースィング学会誌への投稿論文の査読した。

18) 内海は、2008年3月から7月に、日本プライマリ・ケア学会誌への投稿論文一編を査読した。

老年看護学

教授 水戸美津子

(1) スタッフの紹介

教授 水戸美津子

准教授 高木 初子

准教授 井上 映子

講師 永盛るみ子（2008年5月31日退職）

助教 長井 栄子（2008年4月1日就任）

学歴・資格：保健学修士（筑波大学大学院体育研究科修士課程修了）、看護師

職歴：千葉県がんセンター、千葉県立救急医療センターの看護師として勤務後、千葉県立衛生短期大学看護学助手（基礎・老年・成人）を経て着任。

助教 池下 麻美（2008年4月1日就任）

学歴・資格：看護学修士（山梨県立看護大学大学院看護学研究科修士課程修了）、看護師、保健師、養護教諭Ⅰ種

職歴：自治医科大学附属病院の看護師として勤務後、着任。

(2) 教育の概要

老年看護学科目群では、加齢に伴う心身機能の変化と高齢者の発達課題・健康特性及び健康障害を理解し、それに伴って生じる生活障害に関する看護の方法について学び、広義の老年看護技術を取得することを目指している。

1) 老年看護学に関する教育概要

【老年看護学概論】（2年次前学期2単位：必修）

老年看護学概念・対象及び老年看護学の役割を学ぶことを学習目的とし、特に高齢者を理解することに重点を置き、演習として高齢者のライフストーリーインタビューなども実施した。（担当：水戸、高木、井上）

【老年臨床看護学】（2年次後学期2単位：必修）

加齢のプロセスにより生じる様々な健康段階を理解し、生活・療養の場に応じた高齢者のエンパワメントを生み出す看護援助方法について学ぶことを学習目的とした。高齢者の紙上事例を用いた看護過程や倫理的課題の演習等を積極的に取り入れた。また、臨床の場における看護の実践が理解できるよう、戸田昌子臨床講師、井上佐代子臨床講師、寺山美華臨床講師、山田恵子臨床講師、太田信子臨床助教による講義を組み込んだ。（担

当：井上・高木・長井・池下）

【老年看護学実習】（3年次前学期2単位：必修）

附属病院における実習と介護老人保健施設（ユニットケア）、認知症グループホームにおいて、疾病や障害をもつ高齢者に対する看護を実践するための基礎知識・技術について学ぶことを学習目的とした。2週間の実習の前半の3日間は施設で、後半は附属病院で実習を行った。（担当：全教員）

【成人・老年保健論】（2年次前学期2単位：必修）

高齢者の健康特性・健康評価、健康生活とヘルスプロモーションや高齢者の保健・医療・福祉の連携など、高齢者の健康増進と健康の維持向上をめざしたアプローチについて講義した。（担当：老年保健論1単位分；高木、井上）

【生涯発達看護学概論Ⅴ（老年期）】（1年次前学期2単位：必修）

老年看護学概念及び対象を理解し、老年看護学の役割を学ぶことを学習目的とした。（担当：水戸、高木、井上）

2) 老年看護学科目群以外の担当教育概要

【家族生活援助論】（4年次前学期2単位：必修）

高木は要介護高齢者と介護する家族の現状と看護の課題、井上は高齢者介護に関する看護の役割・機能について各1コマを担当した。

【保健・看護研究セミナー】（4年次前学期1単位：選択）

18名の学生に対し、卒業研究で取り組みたいテーマに沿った先行研究の文献検討、研究計画書の作成に関連した指導を行った。（担当：全教員）

【卒業研究】（4年次後学期4単位：必修）

18名の学生それぞれが興味・関心をもったテーマで研究を進めた。研究のプロセスを学び、さらに看護研究上での倫理について理解を深めることができるように、個別及びグループ討論をかさねながら指導した。卒業研究中間発表会では、研究の方向が定まるように指導し、論文提出後には卒業研究発表会を開催した。高木は6名、井上は6名、長井は3名、池下は3名を担当し、研究指導、中間発表会及び卒業研究発表会の企画と準備、卒業研究論文集の作成を担い、水戸は統括指導をした。

【基礎看護実習Ⅱ】（2年次後学期2単位：必修）

10月20日から31日までの10日間、自治医科大学附属病院で実習を行った。科目責任は基礎看護学であり、長井が7E（脳神経外科病棟）学生6名、池下が8B（眼科・総合診療部病棟）学生6名を担

当した。

【成人看護学実習Ⅰ】（2年次後学期3単位：必修）

12月4日から24日までの14日間、自治医科大学附属病院で実習を行った。科目責任は成人看護学であり、長井が7W病棟（神経内科病棟）学生6名、池下が8B病棟（眼科・総合診療部病棟）学生6名を担当した。

【フィールド実習】（3年次後学期3単位：必修）

在宅看護フィールド実習、学校・産業フィールド実習、外来看護実習、精神保健ケア施設実習で構成されており、高木、井上は「わくわく訪問看護ステーションおやま」で各4名の学生、長井は「訪問看護ステーションたんぽぽ」で10名の学生、池下は「JAマロニエ訪問看護ステーション石橋」で10名を担当した。

【看護基礎セミナー】（1年次前学期1単位：必修）

ヒューマンケアの基本を理解することを学習目的とし、学生は人間の生活および人生に関する体験が記述された書籍を選定、熟読し、プレゼンテーション、グループディスカッションおよびレポート作成を行った。

高木は関森講師と7名の学生、井上は野崎講師と6名の学生、長井は半澤教授、塚本講師と7名の学生、池下は大原良子准教授、工藤講師と7名の学生を担当した。

【生活の理解実習】（1年次後学期2単位：必修）

小児期・青年期・成人期・老年期における生活を理解することを目的とし、11月25日から12月3日までの7日間実習を行った。科目責任は基礎看護学であり、長井は里光講師と、あおば保育園（小児期）・泉町長寿会（成人期）・グリーンクラブ（老年期）で学生10名、池下は高木准教授と、わかさ保育園（小児期）・とちぎ健康づくりセンター（成人期）・グリーンクラブ（老年期）で学生5名を担当した。

(3) 研究の概要

1) 看護学部共同研究費により、水戸、高木、長井、池下、附属病院看護師らで「安静臥床の必要な入院高齢者の日常生活動作能力維持プログラムの検討」に取り組んだ。さらに、大久保、里光、水戸、長井、池下、附属病院看護師らで「ハイリスク加算前と現在の褥瘡患者の実態と影響要因分析—2004年と2008年を比較して、ICUの患者動向を中心に—」に取り組んだ。

2) 井上は、第13回日本老年看護学会において「介護老人保健施設入居者の生活リズム調整援助の効果に関する研究—管理者、ケアスタッフ、入居者が認識する援助効果の一致とずれ—」を発表した。また、共同研究者として「老年看護実習における夜間実習での学習経験」と「看護学生の職業レディネスに関する縦断研究」を千葉県立衛生短期大学に、「介護老人保健施設入居者への生活リズム調整援助の効果の構造」を千葉看護学会誌に、「看護基礎教育における機能別実習が有する教育効果の特徴（第一報）」を第38回日本看護学会（看護教育）論文集に投稿した。看護学部共同研究費により、本田教授、半澤教授、小竹准教授、小原准教授、附属病院看護師らで、「乳癌患者、大腸癌患者の看護ケアの継続性に関する研究」に取り組んだ。

3) 長井は、看護学生の喫煙防止教育および臨床実習におけるストレスマネジメント支援に関して研究活動を行い、学会発表および論文を投稿した。

(4) その他

1) 水戸

【栃木県看護協会関連】

- ①栃木県看護協会理事
- ②栃木県認定看護管理者ファーストレベル研修会講師
- ③栃木訪問看護師養成講習会講師

【看護職継続教育関連】

- ①自治医科大学附属病院
看護部ラダー研修講師
- ②東京北社会保険病院
看護部主催研修講師
- ③常陸大宮社会保険病院
看護部院内教育プログラム作成検討会講師
- ④医療法人友志会関連病院
看護部合同教育プログラム作成検討会講師
- ⑤地域振興財団中央研修会講師

【患者会活動支援】

- ①栃木県認知症の人と介護者の会顧問
- ②栃木県認知症の人と介護者の会総会講演会講師

【自治体事業等の協力】

- ①栃木県認知症キャラバンメイト養成研修会講師
- ②栃木県認知症介護実践者研修会講師
- ③栃木県鹿沼地区介護支援専門員連絡会講演会講師

④医療・介護・研究フォーラム2008 in 野木 講演会講師

⑤栃木県鹿沼市高齢福祉課主催「認知症講演会」講師

⑥埼玉県教育委員会主催高等学校10年経験者研修会講師

【学会・審議会等関連】

①沖縄振興審議会委員

②茨城県看護教育財団理事

③日本福祉工学会副理事長

④実践的グラウンデット・セオリー・アプローチ(M-GTA)研究会会長

⑤日本ルーラルナース学会監事

⑥第10回日本私立看護系大学協会「教育セミナー」大会長

2) 高木

【看護協会主催の研修会の講師】

平成20年8月、栃木県看護協会主催の実習指導者講習会において「実習指導の原理」について講義した。

【看護専門研修会の講師】

平成20年11月、第1回看護専門研修会～高齢者ケアのリスクマネジメント～において、「高齢者の転倒」と「高齢者の対応した環境づくり」についての講義、および「高齢者の転倒・転落リスクマネジメント」の演習を行った。

【病院などの講師】

2008年10月、独立行政法人国立病院機構栃木病院において「研究方法—データ収集とその分析方法」について講義した。また、平成20年4月から平成21年2月の8ヶ月間、独立行政法人国立病院機構栃木病院看護部看護師を対象に自治医科大学において看護研究指導を行った。

小山市教育委員会開催の生涯学習の一環として、平成20年10月に「高齢者の食習慣と生活習慣病」について講義した。

【日本私立看護系大学協会セミナー開催への協力】

平成21年1月、日本私立看護系大学協会セミナーの企画実行委員として案内・受付責任者を担当した。

3) 井上

【看護協会主催の研修会の講師】

平成20年9月、栃木県看護協会主催の実習指導者講習会において、「実習指導の評価」について講義した。

【看護専門研修会の講師】

平成20年11月、第1回看護専門研修会～高齢者ケアのリスクマネジメント～において、「高齢者の転倒」と「高齢者の対応した環境づくり」についての講義、および「高齢者の転倒・転落リスクマネジメント」の演習を行った。

【病院などの講師】

平成20年8月、独立行政法人国立病院機構栃木病院において「プレゼンテーションのコツ」について講義した。また、平成20年7月から平成21年2月の8ヶ月間、独立行政法人国立病院機構栃木病院看護部看護師を対象に自治医科大学において看護研究指導を行った。

【日本私立看護系大学協会セミナー開催への協力】

平成21年1月、日本私立看護系大学協会セミナーの企画実行副委員長として会計を担当した。

大学院看護学研究科 教育の概要

母子看護学領域「小児看護学」

教授 川口 千鶴

(1) スタッフの紹介

教授 川口 千鶴
教授 中島登美子
講師 横山 由美
講師 関森みゆき

(2) 教育の概要

小児看護学は、さまざまな健康状況にある子どもがよりよく育つことを目的に、子どもとその家族への看護の現状と将来的な展望を踏まえ、専門的な知識や研究課題を探究するとともに、高度な看護実践能力を育み、小児看護の充実と発展に寄与する人材の育成を教育目標としている。今年度は3名の学生が修了した。

開設3年目を迎えた本年度は、カリキュラムの変更に伴い一部科目名の新設、単位数や名称変更等を行ったが、教育内容の変更はない。

開講科目は次の通りである。講義科目は、対象となる子どもの理解に必要な理論、研究動向、最近の知見を学ぶ「小児看護学講義Ⅰ」子どもの健康レベルや状況に応じたケアについて考えを発展させるための小児看護の理論や研究、最近の治験を学ぶ「小児看護学講義Ⅱ」、小児看護の現状の分析から小児看護専門職者の課題と役割の明確化を目標とした「小児看護学講義Ⅲ」を開講した。演習科目として、保健医療・福祉・教育等、社会における子どものサポートシステムの動向と看護者の役割について学ぶ「小児看護学演習Ⅰ」、また実践に活用可能なヘルスアセスメント能力の修得を目指した「小児看護学演習Ⅱ」を開講した。そのほか、小児看護専門看護師として自立した活動を行うために必要な看護実践能力を発展させることを目標とした「小児看護学特別演習Ⅱ」（実習）と修士論文を作成する「母子看護学特別研究」を開講した。

外来講師として、小児専門看護師である萩原綾子氏（神奈川県立こども医療センター）に実習に関する指導を依頼したほか、国立成育医療センター研究員の伊藤龍子氏には小児看護における理論・研究の看護実践への活用について、兵庫県立大学教授の片田範子氏には小児看護と倫理について講義を依頼した。

母子看護学領域「母性看護学」

教授 成田 伸

(1) スタッフの紹介

教授 成田 伸
准教授 大原 良子
講師 矢野 美紀

(2) 教育の概要

平成20年度入学生から新カリキュラムが開始となった。母子看護学領域母性看護学科目には2名が入学し、平成19年度入学生1名、平成18年度入学生（長期在学）1名の計4名の院生に対して教育を行った。平成20年度入学生に対しては、前期に母性看護学講義Ⅰ、講義Ⅱ、母性看護学演習Ⅰ、演習Ⅱを開講し、後期には母性看護学講義Ⅲ、母性看護学演習Ⅲを開講した。それ以前の入学生に対しては、母性看護学特別演習Ⅱ、母性看護学特別研究を開講した。母性看護学特別演習Ⅱにおいては、平成18年度、19年度入学生の2名が日光市民病院を中心に実習を行い実習目標を達成した。また、母性看護学特別研究として研究を実施し、修士論文を提出した。

院生の状況を配慮しつつ、院生はティーチングアシスタントとして、母性看護学・助産学の講義・演習・実習・卒業研究等を補助し、教育方法について学んだ。

1) 母性看護学講義Ⅰ、講義Ⅱ、講義Ⅲ

講義Ⅰと講義Ⅱは主に成田と大原が担当し、各ライフステージにある女性ならびに周産期にある母子とその家族の状況を理解し支援するための方法論について教授した。社会薬学を専門とする非常勤講師の松本佳代子氏が女性総合医療の動向と最新の薬物療法および在住しているUSAの女性医療の現状について教授した。また講義Ⅲは主に成田が担当し、周産期にある母子とその家族の状況を理解し支援を提供するための方法論、多様な健康状態にある母子や家族への支援に必要な各専門職の役割分担と連携・社会システム構築について教授した。講義Ⅲの一部は、福井トシ子氏（杏林大学付属病院）が担当し、杏林大学付属病院において臨床講義として実施した。

2) 母性看護学演習Ⅰ、演習Ⅱ、演習Ⅲ

母性看護学演習Ⅰと演習Ⅱは主に成田、大原が

担当し、演習Ⅲが成田が担当した。母子とその家族の個々の健康／生活状況の包括的な査定・ケア計画立案・実施方法や周産期の母子に特有な倫理的課題の検討方法と母性看護における相談・教育・調整に関わる理論を検討し、母性看護の改善・改革の方策について教授し、また事例等を用いて演習を展開した。非常勤講師の臨床現場での研修を含んだ臨床講義として開講した。前期の演習Ⅰで武藤香子氏（ままと赤ちゃんの家、キッズシェルター）、後期には演習Ⅲで長坂桂子氏（NTT東日本関東病院）、浜崎京子氏（中央クリニック）、福井トシ子氏（杏林大学付属病院）において臨床講義および臨床研修を実施し学びを深めた。また坂上明子氏（埼玉県立大学）に「高度先進医療を受ける女性と家族の理解とその支援」を、大月恵理子氏（埼玉県立大学）に「周産期救急時の医療支援」を講義していただいた。

3) 母性看護学特別研究および修士論文の作成

平成19年度入学生および平成18年度入学生の2名に対して開講した。平成18年度入学生は、「幼児後期の子どもとの距離感についての母親の体験」のテーマで研究し、修士論文としてまとめた。平成19年度入学生は、「緊急母体搬送になり、その後出産し、さらに逆搬送となった母親の体験」というテーマで研究し、修士論文としてまとめた。

4) 母性看護学特別演習Ⅱおよび母性看護専門看護実習の事前研修

平成19年度入学生および平成18年度入学生の2名に対して母性看護学特別演習Ⅱを開講した。日光市民病院を中心に実習を行い、特に相談、教育の2つの能力に関連した課題を達成した。

平成20年度入学生の2名については、平成21年度に予定されている母性看護専門看護実習の事前研修として実習予定施設とその周辺地域の概要を知ることが目的に、自治医科大学附属病院における事前研修、また日光市を中心としたへき地視察および日光市民病院・奥日光診療所・日光市保健センターにおけるオリエンテーションおよび事前研修として日光市民病院での研修を実施した。

(3) 研究の要約

1) 成田が研究責任者として文部科学科研「避妊・性感染症予防カウンセリングの開発とウェブを用いたサポートシステムの構築」（平成19～21年度）を実施し、矢野、西岡、加藤、森島が分担

研究者として、須藤が研究協力者として参加した。平成20年度は、平成19年度に構築した避妊・性感染症予防カウンセラー育成プログラムを、東京および山梨において実施した。

2) 成田は、青森県立大学新道教授の文部科学科研「看護系大学の統合カリキュラムにおける助産師教育の到達目標に関する検討」（平成18～20年度）に研究協力者として参加し、「看護系大学の統合カリキュラムにおいて助産師教育を受けた助産師のキャリア発達過程の分析」をテーマに調査研究を行った。

3) 成田は、東北大学岡村州博教授が研究代表者を努める厚生労働科研子ども家庭総合研究事業「分娩拠点病院の創設と産科2次医療圏の設定による産科医師の集中化モデル事業」助産師活用システム分班（分班研究者 遠藤俊子（山梨大学））に分担研究者として参加し、助産師のキャリアパスについての検討を主に担当すると共に、その成果を平成20年7月15日に開催された第44回日本周産期・新生児医学会学術集会（横浜）において、シンポジストの一人として「助産師のキャリア発達とこれからのキャリアパス」と題した講演を行った。

4) 看護学部共同研究費の助成を受けて、矢野講師が責任者となり「NICUに入院した子どもと母親のための母乳育児支援～NICUから地域につながる継続的な支援をめざして～」(共同研究者；成田、西岡、加藤、森島)を、成田が責任者となり「へき地への派遣勤務が助産師のキャリア発達に与える影響」(共同研究者；矢野、西岡、加藤、森島)を、それぞれ付属病院NICU・産科病棟・看護部の看護職との共同研究として立ち上げた。年度末までには、両研究について自治医科大学附属病院倫理審査の承認を得た。研究の実施は平成21年度の課題である。

5) 平成20年度大学院入学生2名それぞれが「フリースタイル分娩の歴史と課題」「NICUに入院した子どもと母親のための母乳育児支援」のテーマについて文献検討を重ねた結果をまとめ、共同研究として第7回自治医科大学シンポジウムにおいて成果発表した。

(4) その他

1) 成田は、日本母性看護学会理事として戦略的プロジェクトを担当し、母性専門看護師教育課程

の設立促進に向けての検討を行った。また学会から委嘱され看護系学会等保険連合の委員を担当した。西岡は同学会戦略的プロジェクトの幹事として、成田を補佐した。

2) 成田は、日本看護管理学会学術活動推進委員会の委員として、新潟大学尾崎フサ子教授が担当した平成20年度日本看護管理学会例会 in 新潟「いま、看護が抱えているさまざまな課題の検討会」の開催支援を行った。

3) 看護学部共同研究「NICUに入院した子どもと母親のための母乳育児支援」推進の一環として、日本助産師会栃木県支部主催、母性看護学研究室後援で、「NICUに入院した子どもと母親のための母乳育児支援～NICUから地域につなぐ継続的な支援を目指して～」研修会の開催を支援した。講師は国際認定ラクテーションコンサルタント（IBCLC）の大山牧子氏（神奈川県立こども医療センター新生児科医）で会場は看護学部教室を使用した。自治医科大学附属病院NICU関係者、助産師だけでなく、県内の関係者が集まり盛況であった。

4) 成田は、平成20年度栃木県助産師再就業支援研修事業の委員として、助産師再就業研修の企画・評価を行うと共に、栃木県看護協会が主催した助産師再就業研修において講師を務めた。

5) 成田は、平成20年度実習指導者講習会（主催：栃木県、実施機関：社団法人栃木県看護協会）で助産師教育課程の講義を担当した。

6) 成田は、栃木県看護協会が主催する「看護研究：応用編」の面接指導を担当した。

7) 成田は、日本助産師会渉外担当理事として、厚生労働省に対する要望書のとりまとめ・陳情活動を行った。また、平成19年度から開始した受胎調節実地指導員ステップアップ研修会について、平成20年10月～12月開催時の運営にあたり共に、「避妊・性感染症カウンセリング」関連の講義・演習の講師を務めた。また、福岡県支部が主催した同研修会の講師を務めた。

8) 成田は、日本助産師会栃木県支部支部長として、助産師による子育て支援活動を取りまとめサポートした。

健康危機看護学領域 「クリティカルケア看護学」

教授 中村 美鈴

(1) スタッフの紹介

教授 中村 美鈴

講師 山本 洋子（平成20年9月30日退職）

講師 内海 香子

講師 崎田マユミ（平成20年4月1日就任）

講師 桑原美弥子（平成20年4月1日就任、平成20年9月30日退職）

(2) 教育の概要

平成20年度は、成人看護学特別演習Ⅱ（実習）、健康危機看護学特別研究の2科目を開講した。

1) 成人看護学特別演習Ⅱ（実習）

成人看護学講義Ⅱは、前期、2単位90時間の必須科目である。授業目標は、へき地における健康危機状態にある成人と家族に対する救急医療（一次、二次）の特性と課題、高度な看護実践、調整・教育・コンサルテーション・倫理的調整の必要性とあり方、専門看護師の役割について学修することである。実習は、5月～7月の間で院生3名が、事前研修の内容を踏まえ、実施した。実習要項に基づき、担当教員ならびに看護師長のスーパービジョンを受けながら行った。

実習部門は、へき地の病院、診療所、訪問看護ステーションにおいて、各自の関心領域に基づいて教員と相談の上、学修内容が網羅できる部門を決定した。実習開始後は、専門看護師または専門看護師相当の看護職と共に、実践・調整・教育・コンサルテーション・倫理的調整、並びに研究相談に取り組む。院生、担当教員、看護師と適宜カンファレンスを行った。課題レポートを作成し、へき地におけるCNSの活動の可能性、ならびに今後の課題において考察した。評価は、実習目標達成度とし、実践状況、実習記録、ケースレポート、課題レポート、実習へ出席状況で行った。担当教員として中村美鈴、山本洋子の2名で指導を行った。

2) 健康危機看護学特別研究

健康危機看護学特別研究は、6単位に相当する内容の必須科目である。授業目標は、クリティカルケア看護学の学修ならびに看護実践を通して見出された研究課題について研究を行い、研究指導

を受けて修士論文を作成することである。

クリティカルケア看護学では、クリティカルケアが必要とされる状況を捉え、このような状況にある患者、あるいは家族を広く対象として、彼らの体験と反応に対する予防的ならびに緩和ケア、安楽ケアに関する研究、重篤期から回復期、セルフマネジメントを必要とする時期に至るまでの看護支援に関する研究について指導した。2008年度は、2名の院生が修了した。それぞれの研究課題は、「集中治療室入室中に人工呼吸器を装着した術後患者の回復を促すための看護援助の検討」、「心筋梗塞を発症した成人の復職に伴う困難と対応」であった。

健康危機看護学領域「精神看護学」

教授 永井 優子

(1) スタッフの紹介

教授 永井 優子

教授 半澤 節子

講師 野崎 章子

(2) 看護学研究科教育の概要

実践看護学分野健康危機看護学領域の精神看護学の科目を主科目群として選択し、入学した大学院生は1名で、半澤が研究指導教員となり、授業科目は永井と半澤が主として担当した。

(3) 研究の概要

当科目群では、「精神看護学実習」における教育の効果について、検討を続けている。また、半澤を中心に統合失調症患者と同居している母親の介護負担感に関連する要因について、新潟大学、長崎大学の教員と共同研究を行っている。また、精神障害者の退院促進に関する精神科病院に勤務する看護職員の意識についての本看護学部共同研究費を取得した研究は、佐藤を中心に当科目群で行っていたが、佐藤の死後、半澤が中心にその研究結果の一部をまとめて日本社会精神医学会で発表した。野崎は、児童精神看護について研究しており、平成20年度科学研究費補助金（萌芽研究）を得て、研究課題「小児科看護師の児童の心の問題への援助を支援するeラーニングプログラムの開発」に取り組んでいる。濱田は精神障害者およ

びその家族の「居場所」を研究テーマとして取り組んでいる。

(4) その他

永井および半澤は、栃木県看護協会および日本精神科看護技術協会、東京都等が主催する各種研修会の講師として、看護職の継続教育に協力している。永井は看護師国家試験ブラッシュアップ委員、看護師国家試験委員出題基準改訂部会委員会幹事委員をはじめ、日本精神保健看護学会副理事長・査読委員、日本生活指導学会代表理事、日本ルーラルナース学会理事、日本看護教育学会、日本看護科学学会の評議員を務めている。半澤は、日本精神障害者リハビリテーション学会の理事、同学会誌編集委員、同査読委員、および日本精神障害者政策学会の障害者部会委員を務めている。野崎は、日本看護科学学会第29回学術集会の企画実行委員、日本精神科看護技術協会千葉県支部の教育委員、千葉看護学会の広報委員、国際看護研究会第12回学術集会企画実行委員を務め、千葉県内の精神科病院における看護研究指導をおこなっている。また、地域看護学科目群の教員とともに日本ルーラルナース学会の事務局（事務局長：永井）を担当しているほか、北関東精神保健看護研究会（会長：永井）についても当科目群が事務局となり、年2回研究会を開催している。

がん看護学領域「がん看護学」

教授 本田 芳香

(1) スタッフの紹介

教授 本田 芳香

准教授 小竹久美子

(2) 教育の概要

がん看護学領域は、平成19年度に文部科学省の「がんプロフェッショナル養成プラン」において、本学の取り組みである「全人的ながん医療の実践者養成」が採択された。本学大学院看護学研究科において、平成20年度より高度専門看護職に求められる看護実践能力の育成強化を教育課程の特徴とする実践看護分野に、がんの急性期から終末期に至る様々な健康状態にある患者とその家族に対して、看護実践を提供するための実践理論とその

方法を系統的に教授するがん看護学領域を開講した。この領域はがん看護学のみで、がん看護における専門的知識や研究課題を探究するとともに、がん患者とその家族に生じる複雑な状況を的確に判断し、苦痛や苦悩を緩和し、生活の質の向上を目指した高度な看護実践のできるがん看護のスペシャリストを育成する。

1) がん看護学に関する教育概要

平成20年度は6名の学生を受け入れた。うち有職者は4名いたが標準コースで受験したことから、職場との勤務調整をしながら講義・演習を開始した。

【がん看護学講義Ⅰ】（1年次前期科目）2単位

がんの疫学、病態生理、診断、治療法に関する最新知見を理解する。がん患者及びその家族に生じる複雑な健康課題を包括的にアセスメントする視点を修得し、最新のケア実践への適応を探究することを授業目標とした。がん患者とその家族に生じる複雑な健康課題に対して、がんの疫学、病態、診断、治療法などの最新知見から包括的なアセスメントを行う視点を、学生によるプレゼンテーション、討議を通して最新のケア実践へ繋げる方策を考察した。評価方法は、プレゼンテーション、討議及び課題レポートで評価をおこなった。本田、非常勤講師8名が担当した。

【がん看護学講義Ⅱ】（1年次前期科目）2単位

がん看護領域を実践、研究、教育などに関連する発展歴史を概観し、がん看護学の構造化を習得する。がん患者とその家族を理解するための基盤となる概念及び諸理論を通して看護モデルを探究することを授業目標とした。がん患者とその家族を理解するための基盤となる概念枠組みを理解するため、国内外の文献と討議をもとに、がん看護領域における基本的概念について考究した。またがん看護領域に関連するストレスコーピング理論、ニューマン理論、危機理論などの諸理論の理解についてプレゼンテーション、討議をし、それをもとにがん看護における本理論の適応を考究した。評価方法は、プレゼンテーション、討議及び課題レポートで評価をおこなった。本田、非常勤講師2名が担当した。

【がん看護学演習Ⅰ】（1年次前期科目）2単位

がん治療・療養過程で生じるがん患者及びその家族の健康課題に対して、高度で複雑な状況下において迅速で的確な臨床判断をするための包括的

アセスメントの視点を学修することを授業目標とした。がん患者とその家族の健康問題を身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな視点から包括的にアセスメントするための観察スキルの習得や、専門的コミュニケーションスキルを習得するため、3回（2コマずつ）シリーズで行った。また各期（急性期～終末期に至る）における実践事例の分析を通してヘルスアセスメントの視点を系統的に習得する方法を教授した。評価方法は、プレゼンテーション、討議及び課題レポートで評価をおこなった。本田、小竹、非常勤講師6名が担当した。

【がん看護学演習Ⅱ】（1年次前期科目）2単位

がん患者とその家族に関連する諸理論を活用し、看護モデル分析及び介入方法を学修することを授業目標とした。がん看護に関連する上記の諸理論を用いて実践事例を分析し、発表と討議を通して自己の看護観を考究した。また実践事例が有する健康課題を的確に捉える視点を、がん看護に関連する理論や概念を用いて看護介入モデルを作成し、プレゼンテーション、討議を通して実践への適用を検証及び考察した。評価方法は、プレゼンテーション、討議及び課題レポートで評価をおこなった。本田、小竹、非常勤講師1名が担当した。

【がん看護学講義Ⅲ】（1年次後期科目）2単位

がん看護の各領域（周手術期、化学療法、放射線療法、遺伝性のがん看護、長期療養過程にある看護、終末期にある看護、地域看護）に対する専門看護実践の提供方法を学修することを授業目標とした。様々な健康課題を抱えるがん患者とその家族に緩和ケアを系統的かつ体系的システムとして提供する看護支援方法について、各専門領域の講師より最新知見の提供を受けた。またがん看護専門看護師が果たすべき役割機能として探求するため、実践事例に基づきプレゼンテーション、討議形式で系統的に習得できるように教授した。評価方法は、プレゼンテーション、討議及び課題レポートで評価をおこなった。本田、非常勤講師8名が担当した。

【がん看護学演習Ⅲ】（1年次後期科目）2単位

専門性の高いがん看護専門看護師が担う6つの機能（実践、教育、相談、調整、倫理、研究）を考察し、看護実践上の役割の実際を学修することを授業目標とした。実践事例や国内外の文献を検討し、質の高い緩和ケア提供方法を探究するため、プレゼンテーション、討議を通して、がん看護や

緩和ケアにおける課題や展望について考察した。評価方法は、プレゼンテーション、討議及び課題レポートで評価をおこなった。本田，非常勤講師3名が担当した。

老年・地域看護管理学領域 「老年看護学」

教授 水戸 美津子

(1) スタッフの紹介

教授 水戸美津子
准教授 高木 初子
准教授 井上 映子

(2) 教育の概要

老年・地域看護管理学領域「老年看護学，老年看護管理学」には7名の学生が在籍した。そのうち5名は有職者であり長期在学制度を利用した。平成20年度入学生からカリキュラムを改正したため，新旧両方のカリキュラムに沿って授業を展開した。

老年看護管理学では，地域で生活する健康な高齢者のための健康の保持・増進に積極的に寄与するとともに，健康障害をもつ高齢者とその家族に対して，高度で適切な看護ケア能力とコンサルテーション能力を活用して健康な生活を支援できる看護管理能力の取得を目指している。

平成20年度修了生1名，論文題名「退院支援・在宅療養支援の実施状況から見た特定機能病院における緊急入院高齢者の生活支援の評価—電子カルテデータを用いての分析—」であった。

【老年看護管理学講義Ⅰ】（1年次前学期4単位）

ここでは，老年看護の概念及び老年期の特徴と健康課題を理解し，老年看護管理について学ぶ。講義・学生によるプレゼンテーションにより授業を実施した。（担当：水戸，高木，井上）

【老年看護管理学演習Ⅰ】（1年次前学期4単位）

ここでは，老年者の健康課題について生活要因や保健行動との関連から評価する方法や，健康の保持・回復に関わる専門的ケア提供方法に関して検討し，老年看護管理の課題について学ぶ。2名の学生が介護老人施設における実習を実施した。（担当：水戸，高木，井上）

【老年看護学演習Ⅱ】（2年次前学期2単位）

ここでは，老年者のための各種施設および地域におけるケアに関し，地域特性や個別のケアニーズを査定し，ケア計画立案・実施の演習を行う。2名の学生が介護老人保健施設で2日間実習を実施した。（担当：水戸，高木）

【老年看護学特別演習Ⅰ】（2年次後学期4単位）

ここでは，老年者ケアの地域連携に関して臨床の具体的事例の検討を通して，将来を展望した課題を明確にする実習を行った。病院・施設・在宅で療養生活を送る老年者への地域連携に関する国内外の文献を検討し，地域連携に関する臨床の場への看護介入の方法を学ぶ。2名の学生が介護老人保健施設で4日間実習を実施した。（担当：水戸，高木，井上）

【老年看護学特別演習Ⅱ】（3年次前学期2単位）

ここでは，老年看護学講義Ⅰ・Ⅱ及び老年看護学演習Ⅰ・Ⅱでの学習を発展させ，さらに特別演習Ⅰで明確にした課題に基づき，地域を中心としたフィールド調査・実習等を通して自分自身の研究課題を明確にした。2名の学生が訪問看護ステーション，地域老人専門施設において実習し，自分自身の研究課題を明確にし，研究計画を立案した。（担当：水戸，高木，井上）

【老年・地域看護管理学特別研究】（3年次前学期・後学期）

ここでは，これまでの学修並びに看護実践を通して見出された研究課題に沿って研究を行い，修士論文を作成する。学生は自分自身の研究計画に基づきデータ収集及び分析を行い，修士論文を作成した。（担当：水戸，高木，井上）

老年・地域看護管理学領域 「地域看護管理学」

教授 春山 早苗

(1) スタッフの紹介

教授 春山 早苗
講師 鈴木久美子
講師 塚本 友栄
講師 工藤奈織美

(2) 大学院看護学研究科 教育の概要

【専門科目に関わる教育概要】

地域看護管理学を選択している1年生は2名，2

年生は4名（2年目1名，3年目2名）で全員が長期在学制度を利用している。

地域看護管理学では，地域特性に応じた政策立案や地域資源づくり，地域ケア体制づくり，その他の地域における看護管理に関わる知識や技術を教授し，地域ケアの現場において管理的・指導的役割を担い，地域のニーズに合った看護サービス提供システムを改善・改革・創出できる人材育成を目指した教育活動をしている。

今年度の開講科目は「地域看護管理学講義Ⅰ」（2単位，春山担当），「地域看護管理学講義Ⅱ」（2単位，春山・鈴木で担当），「地域看護管理方法Ⅰ」（2単位，春山と非常勤講師で担当），「地域看護管理方法Ⅱ」（2単位，春山と鈴木，非常勤講師で担当），「地域看護管理学演習」（4単位，春山・鈴木・塚本・工藤で担当），「地域看護管理学演習Ⅰ（旧カリ）」（4単位，春山が担当），「地域看護管理学特別演習Ⅰ（旧カリ）」（4単位，春山と鈴木で担当），「老年・地域看護管理学特別研究」（4単位）であった。

【地域看護管理学講義Ⅰ・Ⅱ】

講義Ⅰの授業目標は，文献検討や近年の地域看護活動の課題の検討を通して，地域看護管理に関係する主要概念，地域における看護活動体制づくりの理論と考え方，地域資源の評価と開発に関わる看護活動について学修することである。1年生2名，科目等履修生1名，計3名が履修した。

講義Ⅱの授業目標は，文献抄読により，へき地に住む人々のヘルスニーズと地域診断の視点，へき地看護理論の基礎，へき地看護活動の展開方法，へき地における看護管理体制のあり方について学修することである。1年生2名が履修した。

【地域看護管理学方法Ⅰ・Ⅱ】

方法Ⅰの授業目標は，実践事例や先行研究の知見から地域連携体制の構築や地域看護管理活動の展開方法，施策化に関わる看護専門職の役割と看護活動の展開方法について検討することである。1年生2名が履修した。

方法Ⅱの授業目標は，山間へき地や離島，豪雪地帯における実践事例や国内外の文献を検討し，へき地における看護活動発展のための方法を考えることである。1年生2名が履修した。

【地域看護管理学演習】

授業目標は，地域特性と人々のヘルスニーズの分析から，地域における看護提供機関の看護体制

を評価検討し，看護管理に関する改善・改革の課題を明らかにすることである。1年生2名が履修した。教員の指導により授業目標に関連した目標を学生自身が立て，1名はへき地医療支援病院において，1名は訪問看護ステーションにおいて実習を実施し，レポート等により評価した。

【地域看護管理学演習Ⅰ（旧カリ）】

学生が，退院支援や在宅ケアシステム，地域特性に応じた看護活動と施策化，地域連携体制に関する国内外の文献検討や実践事例を検討し，そのプレゼンテーションに基づいて教授した。また，教員の指導により授業目標に関連した目標を学生自身が立て，群馬県吾妻郡六合村役場において実習を実施し，レポート等により評価した。2年生1名が履修した。

【地域看護管理学特別演習Ⅰ（旧カリ）】

地域の特徴と現状の分析から，学生自身が所属する機関における看護実践活動の課題の検討，並びに，文献検討等に基づき，課題に対する改善・改革のための方法について検討した。また，ゼミと個別指導により，課題解決のための研究的取り組み方法を検討し，研究計画を立案した。2年生1名が履修した。

【老年・地域看護管理学特別研究】

春山が2年生3名の研究指導を行い，鈴木，塚本，工藤が研究指導を補助した。

3名が修士課程を修了し，修士論文のテーマは「自然災害に備えた市町村保健師の活動方法に関する研究」，「集落が散在している山間へき地における介護予防のための町村保健師の活動に関する研究」，「キャリア発達から見た看護職の意向・派遣の意義」であった。

看護技術開発学領域「看護技術開発学」

教授 岩永 秀子

(1) スタッフの紹介

教授 岩永 秀子
准教授 大久保祐子
講師 宇城 令
講師 櫻井 美奈
講師 里光やよい

(2) 教育の概要

看護技術開発学では、本年度1名の大学院生を受け入れた。本年度は院生受入の初年度であり、「看護技術開発学講義Ⅰ」「看護技術開発学講義Ⅱ」「看護技術開発学演習Ⅰ」「看護技術開発学演習Ⅱ」の4科目、計12単位を開講した。

「看護技術開発学講義Ⅰ」では、看護技術開発に関する論文を取り上げ、看護技術開発研究の現状と課題について討議した。「看護技術開発学講義Ⅱ」では、看護基礎教育および卒後教育における看護技術教育に関する論文等を素材とし、看護技術教育のあり方について討議した。「看護技術開発学演習Ⅰ」では、看護技術開発に関連した院生の研究疑問にそって文献レビューを行い、研究疑問の背景を明確にするとともに、看護技術開発研究における倫理的課題についても討議した。「看護技術開発学演習Ⅱ」では、看護技術の安全性や看護実践の効果の測定について、さまざまな論文をもとに討議した。

研究業績録

- 注 1) 掲載対象は2008年1月1日から同年12月31日までである。
2) ゴシック体の人名は対象年に本学に所属していた者である。

一般基礎

(1) 原著論文

1) Otsuka, K : Mental Health Problems in Japanese Brazilians in Japan from the Viewpoint of 'Transnational Migrant Community' in a Post-Modern World. World Cultural Psychiatry Research Review, 3(4); 198-203, 2008.

(2) 学会発表

1) 渡邊亮一：医療情報技師育成事業の展開。

第28回医療情報学連合大会（第9回日本医療情報学会学術大会），横浜市。2008年11月22日。

2) 山本和子，石川 澄，稲田 紘，岡田美保子，太田吉夫，河村徹郎，櫻井恒太郎，内藤道夫，長澤 亨，分校久志，松村泰志，朴 勤植，宮本正喜，山本皓二，山内一信，渡邊亮一：学習評価のための問題収集・編集支援システムの開発。第28回医療情報学連合大会（第9回日本医療情報学会学術大会），横浜市。2008年11月23日。（第28回医療情報学連合大会（第9回日本医療情報学会学術大会）論文集 2008）

3) 大塚公一郎：病いの語りはどのような身体で聴かれるべきか？－透析患者の語りの経験をとおして－。第15回多文化間精神医学会，東京。2008年3月22日。（抄録集p44）

4) 近藤 州，大塚公一郎，加藤 敏：日系ブラジル人児童・生徒の日伯比較メンタルヘルス調査。第15回多文化間精神医学会，東京。2008年3月20, 21日。

5) 大塚公一郎：（教育講演）透析患者の語りの聴取から学ぶ～サイコネフロロジー入門～。第19回日本サイコネフロロジー研究会，天童市。2008年6月29日。（プログラム・抄録集p10）

6) Kondo, S., Otsuka, K., Sawaguchi, G. T., Miyasaka, L. S., Honda, E. T., Nakamura, Y., Kato, S. : A comparative study of mental health of Japanese Brazilian children in Japan and Brazil. Symposium Brazil-Japan 2008, Sao Paulo. 4-16 June, 2008. (Proceedings of the Symposium Brazil-Japan in Economy, Science and Technological Innovation. PAP0 163:1-6)

7) Otsuka, K : Mental health problem and care for ethnic minorities in present-day Japan : a Japanese Peruvian female case. 13th Scientific Meeting of the

Pacific Rim College of Psychiatrists, Tokyo. 31 October, 2008. (Program & Abstract 177)

8) Kondo, S., Otsuka, K., Sawaguchi, G. T., Miyasaka, L. S., Honda, E. T., Nakamura, Y., Kato, S. : A comparative study of mental health of Japanese Brazilian children in Japan and Brazil. 13th Pacific Rim College of Psychiatrists Scientific Meeting, Tokyo. 30 October to 2 November, 2008. (Program & Abstract 137)

9) Kondo, S., Otsuka, K., Sawaguchi, G. T., Miyasaka, L. S., Honda, E. T., Nakamura, Y., Kato, S. : A comparative study of mental health of Japanese Brazilian children in Japan and Brazil. 14th World Congress of Psychiatry, Prague. 20-25 September, 2008.

(3) 著書・総説

1) 岡本悦司，小橋 元，坂田清美，佐藤敏彦，西浦 博，横山英世，岡田充史，尾島俊之，亀崎豊実，高橋美保子，富田敦子，山本秀樹，渡邊亮一：サブノート第32版 保健医療論・公衆衛生学（2009年版）。Medic Media（東京）。2008。

2) 大塚公一郎：非定型精神病と躁うつ病－病像の変化の長期経過観察。専門医のための精神科臨床リュミエール3。操作的診断vs従来診断－非定型精神病とうつ病をめぐって－（林 拓二，米田博史編）。中山書店（東京）。81-94，2008。

(4) その他

1) 大塚公一郎：学会の印象「第27回日本社会精神医学会」。精神療法，34(3)；386，2008。

基礎看護学

(1) 原著論文

1) 川上 勝，真砂涼子，宇城 令，大久保裕子，里光やよい，岩原臣男，秋月克文。炭加工材（電子畜電材）を用いた空気改質装置の自律神経系に及ぼす影響。自治医科大学看護学ジャーナル，第6巻；29-33，(2008)。

2) 水戸優子，小山真理子，片平伸子，山口由子，川守田千秋，植村由美子，朝倉美奈，野崎真奈美，鶴田恵子，手島恵：看護基礎教育卒業時の看護技術の到達目標に関する教育者と看護実践者の意見

の相違—デルファイ第1回調査の結果から。神奈川県立保健福祉大学誌, 5(1); 117-125, 2008.

3) 櫻井美奈, 植村由美子, 水戸優子, 牧野美幸, 川守田千秋, 山口由子, 相馬朝江: 移動に関する看護用具の使用感。日本看護技術学会学会誌, 7(2); 12-21, 2008.

4) 清水裕子, 横井郁子, 鈴木玲子, 豊田省子, 梅村美代志, 大久保祐子, 里光やよい: 看護教育における模擬患者 (SP; Simulated Patient. Standardized Patient) に関する研究の特徴。日保学誌, 10(4); 215-223, (2008).

(2) 学会発表

1) 大久保祐子: とちぎ褥瘡相談室と栃木県支部の活動。第5回日本褥瘡学会関東甲信越地方会学術集会, 宇都宮, 2008年6月7日。(講演集; 30, 2008)

2) 川上 勝, 角田こずえ, 宇城 令, 里光やよい, 大久保祐子, 岩永秀子: 役割を明確に設定したロールプレイ演習での体験に対する感じ方と内省的気づき。第18回日本看護学教育学会学術集会, つくば, 2008年8月2-3日。(講演集; 135, 2008)

3) 里光やよい, 大久保祐子, 豊田省子: 看護技術演習で実験的に体験した異なる模擬患者の特徴。第18回日本看護学教育学会学術集会, つくば, 2008年8月2-3日。(講演集; 226, 2008)

4) 大久保祐子, 小川鑛一: 仰臥位引っ張り移動のための低摩擦素材について—頭側へのずり上げ移動時の摩擦係数。日本人間工学会関東支部第38回大会。千葉工大, 2008年11月29日。(講演集: 109-110, 2008)

5) 中澤寛仁, 軽部真粧美, 菊池睦子, 宇城 令, 塩澤幹雄, 竹原めぐみ, 尾本和, 須藤俊明, 穂積康夫: 乳癌患者会における薬剤師の関わり。日本薬剤師学会, 札幌市。平成20年9月20日(2008)。(日本医療薬学会年会抄録集); 平成20年(2008)

6) 小林雅矢, 里光やよい: 男性患者が女性看護師にケア提供を望む理由。日本看護学研究学会, 神戸。8月20-21日(2008)。(日本看護学研究学会雑誌31(3)274, (2008))

7) 阿部千草, 島田 恵, 里光やよい: 外来専従HIV/AIDSコーディネーターナースの患者アセスメントと実践。日本看護学研究学会, 神戸。8月20-21日(2008)。(日本看護学研究学会雑誌31(3)234, (2008))

8) 里光やよい, 今野葉月, 須釜なつみ, 市塚京子, 佐藤淳子, 鈴木照実, 古橋洋子: 看護師長が語るスタッフナースの育成の実践(第2報)—既卒者・異動者の育成—。日本看護科学学会, 福岡。12月13-14日(2008)。(第28回日本看護科学学会学術集会講演集367, (2008))

(3) 著書・総説

1) 宇城 令: 第4章輸液投与の実際 輸液速度と投与量の算出と調整。現場がみえる 輸液の知識と患者ケア(中村美鈴, 布宮伸)。医学書院(東京), 60-67, (2008)。

2) 古橋洋子編著, 古橋洋子, 今野葉月, 里光やよい: 実践! 看護診断を導く情報収集・アセスメント(第2版)。学研(東京), 58-101.158-167. (2008)。

地域看護学

(1) 原著論文

1) 春山早苗, 舟迫香, 鈴木久美子, 塩ノ谷朱美, 山田明美, 上野広美: 訪問看護ステーションのない山間過疎豪雪地域における高齢者の療養場所移行の特徴と看護職の役割。日本ルーラルナース学会誌。第3巻: 61-72, 2008.

2) 塚本友栄, 舟島なおみ: 就職後早期に退職した新人看護師の経験に関する研究—就業を継続できた看護師の経験との比較を通して—。看護教育学研究。17(1): 22-35, 2008.

(2) 学会発表

1) 青木さぎ里, 春山早苗, 江角伸吾, 大原良子, 中村美鈴, 山本洋子, 高村寿子: メキシコベラクルス州におけるジャイカ草の根技術協力活動(I)—保健医療従事者へのエンパワーメント研修の有効性の検討—。第17回日本健康教育学会, 東京。2008年6月22日。(日本健康教育学会誌 16(suppl.); 140-141, 2008)

2) 青木さぎ里, 春山早苗, 江角伸吾, 大原良子, 中村美鈴, 山本洋子, 高村寿子: メキシコベラクルス州におけるジャイカ草の根技術協力活動(I)—思春期ピアリーダーによる健康教育の波及効果—。第17回日本健康教育学会, 東京。2008年6月22日。(日本健康教育学会誌 16

(suppl.) ; 142-143, 2008)

3) 鈴木久美子, 舟迫香, 青木さぎ里, 工藤奈織美, 塚本友栄, 春山早苗, 山口佳子, 大澤真奈美, 森仁実: 都道府県における保健所保健師に対する感染症業務に関連した研修の現状. 日本地域看護学会第11回学術集会, 沖縄県西原町. 2008年7月5日. (日本地域看護学会第11回学術集会講演集; 78, 2008)

4) 島田裕子, 青木さぎ里, 舟迫香, 鈴木久美子, 春山早苗: 山間へき地における災害に備えた平常時の体制づくりにおける市町村保健師の活動方法と課題. 日本地域看護学会第11回学術集会, 沖縄県西原町. 2008年7月6日. (日本地域看護学会第11回学術集会講演集; 171, 2008)

5) 宮崎美砂子, 奥田博子, 牛尾裕子, 春山早苗, 森下安子, 藤谷明子, 岩瀬靖子, 田村須賀子: 被災時に必要な保健師マンパワー算定基準の試案作成 (第2報). 第67回日本公衆衛生学会総会, 福岡. 2008年11月6日. (日本公衆衛生雑誌総会抄録集 55 (10) ; 320, 2008)

6) 森仁実, 大澤真奈美, 小池亜紀子, 櫻山豊夫, 山口佳子, 鈴木久美子, 春山早苗: 感染症担当保健師からみた保健所保健師の感染症業務に関する学習ニーズ. 第67回日本公衆衛生学会総会, 福岡. 2008年11月7日. (日本公衆衛生雑誌総会抄録集 55 (10) ; 336, 2008)

7) 大澤真奈美, 小池亜紀子, 櫻山豊夫, 山口佳子, 森仁実, 鈴木久美子, 春山早苗: 平常時における感染症対策に関わる保健所保健師の活動実態 (第1報). 第67回日本公衆衛生学会総会, 福岡. 2008年11月7日. (日本公衆衛生雑誌総会抄録集 55 (10) ; 336, 2008)

8) 工藤奈織美, 塚本友栄, 鈴木久美子, 春山早苗, 青木さぎ里, 小池亜紀子, 舟迫香, 山口佳子, 大澤真奈美, 森仁実, 櫻山豊夫: 平常時における感染症対策に関わる保健所保健師の活動実態 (第2報). 第67回日本公衆衛生学会総会, 福岡. 2008年11月7日. (日本公衆衛生雑誌総会抄録集 55 (10) ; 336, 2008)

9) 櫻山豊夫, 工藤奈織美, 塚本友栄, 鈴木久美子, 春山早苗, 青木さぎ里, 小池亜紀子, 舟迫香, 山口佳子, 大澤真奈美, 森仁実: 平常時における感染症対策に関わる保健所保健師の活動実態 (第3報). 第67回日本公衆衛生学会総会, 福岡. 2008年11月7日. (日本公衆衛生雑誌総会抄録集 55

(10) ; 337, 2008)

10) 山口佳子, 大澤真奈美, 森仁実, 小池亜紀子, 櫻山豊夫, 鈴木久美子, 工藤奈織美, 塚本友栄, 舟迫香, 青木さぎ里, 春山早苗: 平常時における感染症対策に関わる保健所保健師の活動実態 (第4報). 第67回日本公衆衛生学会総会, 福岡. 2008年11月7日. (日本公衆衛生雑誌総会抄録集 55 (10) ; 337, 2008)

11) 島田由美子, 渡辺芳江, 菊池朋子, 伊東利枝, 柴田由利子, 五十嵐トヨ子, 小島奈美子, 小林良江, 篠澤侖子, 春山早苗, 鈴木久美子: 栃木県西保健医療圏内における自発的な看護職連携の実践. 第67回日本公衆衛生学会総会, 福岡. 2008年11月5日. (日本公衆衛生雑誌総会抄録集 55 (10) ; 343, 2008)

12) 千葉敦子, 山本春江, 工藤奈織美, 浅田豊, 竹森幸一: 健康教室参加者における家族や地域への学びの伝達状況に関する比較検討. 日本家族看護学会第15回学術集会, 神奈川. 2008年9月13日. (家族看護学研究 14 (2) ; 109, 2008)

13) 工藤奈織美, 山本春江, 細川満子, 三津谷恵: 在宅脳血管疾患療養者と家族から探った地域リハビリテーションの地域的課題 (第1報) インタビュー調査による在宅療養にいたる経過から: 第12回日本在宅ケア学会学術集会, 東京. 2008年3月15日. (第12回日本在宅ケア学会学術集会講演集; 84, 2008)

14) 三津谷恵, 細川満子, 山本春江, 工藤奈織美: 在宅脳血管疾患療養者と家族から探った地域リハビリテーションの地域的課題 (第2報) インタビュー調査による在宅療養の現状から: 第12回日本在宅ケア学会学術集会, 東京. 2008年3月15日. (第12回日本在宅ケア学会学術集会講演集; 85, 2008)

15) 細川満子, 工藤奈織美, 三津谷恵, 山本春江: 退院後の療養者の生活状況調査からみた回復期病院の退院支援の課題 第12回日本在宅ケア学会学術集会, 東京. 2008年3月15日. (第12回日本在宅ケア学会学術集会講演集; 117, 2008)

(3) 著書・総説

1) 秋月百合, 荒添美紀, 伊藤まゆみ, 井原緑, 入江慎次, 岩崎和代, 菊池麻由美, 黒子幸一, 小竹久美子, 近藤ふさえ, 作田浩行, 佐藤満, 下条奈己, 高橋正子, 高宮有介, 塚本友栄, 鳥原真紀

子, 中村英子, 縄田修一, 平野真澄, 村瀬麻樹子, 山室八潮, 吉田雅子: chapter 4 各対象に必要な援助技術ivエンパワメント vアンドラゴジー. 慢性期看護—緩和・ターミナルケア—成人看護学(川野雅資監修, 伊藤まゆみ編集). 日本放射線技師会出版界(東京), 152-156, 2008.

(4) その他

1) 春山早苗, 篠澤侂子, 鈴木久美子, 佐藤幸子, 舟迫香, 青木さぎ里, 塩ノ谷朱美, 島田裕子: へき地における災害対策体制づくりにかかわる看護職の活動方法に関する研究. 自治医科大学看護学ジャーナル. 第5巻; 39-45, 2008.

2) 春山早苗, 小池典子, 工藤奈織美, 舟迫香: 感染症の発生予防と早期発見に関わる保健所の活動. 厚生労働科学研究費補助金(地域健康危機管理研究事業)結核・感染症の発生に備えた保健所保健師の平常時体制づくり並びに現任教育プログラムの開発に関する研究 平成19年度 総括・分担研究報告書. 25-40, 2008.

3) 鈴木久美子, 塚本友栄: 都道府県における感染症業務に関する研修の実態. 厚生労働科学研究費補助金(地域健康危機管理研究事業)結核・感染症の発生に備えた保健所保健師の平常時体制づくり並びに現任教育プログラムの開発に関する研究 平成19年度 総括・分担研究報告書. 69-75, 2008.

4) 宮崎美砂子, 奥田博子, 牛尾裕子, 春山早苗, 森下安子, 藤谷明子, 田村須賀子, 本間靖子: 被災時に必要な保健師マンパワー算定基準の試案作成(第2報). 厚生労働科学研究費補助金(地域健康危機管理研究事業)自然災害発生後の2次的健康被害発生防止及び有事における健康危機管理の保健所等行政機関の役割に関する研究 平成19年度 総括・分担研究報告書. 70-81, 2008.

5) 宮崎美砂子, 奥田博子, 春山早苗, 牛尾裕子, 森下安子, 藤谷明子, 本間靖子: 健康危機管理能力育成のための保健師指導者育成プログラム開発. 厚生労働科学研究費補助金(地域健康危機管理研究事業)保健師指導者の育成プログラムの開発 平成19年度 総括・分担研究報告書. 43-54, 2008.

6) 宮崎美砂子, 奥田博子, 春山早苗, 牛尾裕子, 森下安子, 藤谷明子, 本間靖子: 健康危機管理能力育成のための保健師指導者育成プログラム開発.

厚生労働科学研究費補助金(地域健康危機管理研究事業)保健師指導者の育成プログラムの開発 平成17~19年度 総合研究報告書. 53-62, 2008.

7) 春山早苗: 島嶼地域の看護人材確保と提言. 日本ルーラルナースング学会. 第3巻; 15-19, 2008.

8) 紫外線環境保健マニュアル編集委員会(今村聡, 上出良一, 小野雅司, 櫻田尚樹, 榊原洋一, 佐々木洋, 長沼雅子, 春山早苗, 細井孝之, 横嶋剛): 紫外線環境保健マニュアル2008. 環境省環境保健部環境安全課. 2008.

9) 春山早苗: FACE2008 へき地医療は保健師活動の原点. 地域保健. 39(8); 1-5, 2008.

10) 永野光子, 高橋千晶, 塚本友栄, 吉富美佐江: 新人看護師支援のための研究成果活用と課題早期に退職した新人看護師の経験から美田OJTのあり方 日本看護教育学会第18回学術集会講演集. 17(2); 18-19, 2008.

精神看護学

(1) 原著論文

1) 岩崎弥生, 野崎章子, 松岡純子, 水信早紀子: 地域で生活する精神障害をもつ当事者の視点から見たリカバリー—グループ・インタビュー調査の質的分析をとおして—. 病院・地域精神医学, 50(2); 171-173, 2008.

2) 半澤節子, 田中悟郎, 後藤雅博, 永井優子, 関井愛紀子, 田上美千佳, 新村順子, 稲富宏之, 太田保之: 統合失調症患者の母親の介護負担感に関連する要因—家族内外の支援状況と家族機能の関連. 日社精誌, 16; 263-274, 2008.

3) 半澤節子, 中根允文, 吉岡久美子, 中根秀之: 精神障害者に対するスティグマと社会的距離に関する研究—統合失調症事例とうつ病事例の比較. 精神障害とリハビリテーション, 12; 154-162, 2008.

4) 半澤節子, 中根允文, 吉岡久美子, 中根秀之: 精神障害者に対するスティグマと社会的距離—個人的スティグマと知覚的スティグマの相違. 日社精誌, 17; 177-187, 2008.

5) Hanzawa S, Tanaka G, Inadomi H, Urata M, Ohta Y: Burden and coping strategies in mothers of patients with schizophrenia in Japan. Psychiatry Clin.

Neurosci, 62; 256-263, 2008.

(2) 学会発表

1) 野崎章子：児童の心の問題への看護援助を支援する教育プログラムの開発－児童精神科看護師の看護実践と困難－. 日本児童青年精神医学会第49回総会, 広島市, 2008年11月（日本児童青年精神医学会第49回総会抄録; 343）.

2) 岩崎弥生, 小宮浩美, 石川かおり, 東本裕美, 野崎章子, 山田洋：精神科入院患者の退院促進を指向した看護援助に関する調査. 日本精神衛生学会第24回大会, 大分市, 2008

3) 小宮浩美, 岩崎弥生, 石川かおり, 東本裕美, 野崎章子, 山田洋：当事者力量を高める看護援助－看護師に対する観察・聴き取り調査より－. 日本精神衛生学会第24回大会, 大分市, 2008

4) 竹原沙織, 柴梓, 萬徳直美, 安藤あい, 池上麻紀, 西ヒルエ, 前野さとみ, 田島和子, 濱田恭子, 堤由美子：糖尿病患者の網膜症手術に対する思いの分析－初回手術と再手術の患者を通して－. 第39回日本看護学会, 愛知県名古屋市, 名古屋. 2008.9.4-5

5) 永井優子：ポスターセッション 看護系大学1年次学生における生涯発達のイメージ, 日本生活指導学会第26回福岡大会, 福岡県北九州市（北九州大学）, 2008.9.6.,（日本生活指導学会第26回福岡大会抄録集；目次, 2008.）

6) 永井優子：課題研究A生活指導の専門職の育成 高度実践看護職の育成における生活指導概念 日本生活指導学会第26回福岡大会, 福岡県北九州市（北九州大学）, 2008.9.5.,（日本生活指導学会第26回福岡大会抄録集；, 2008.）

7) 半澤節子：地域に暮らす統合失調症事例の対するスティグマ認知と社会的距離－精神科医, 一般科看護師, 一般人との比較. 第18回日本精神保健看護学会学術集会, シンポジウム, 東京都新宿区, 2008.6.21-22.

8) 半澤節子：地域に暮らす統合失調症事例に対するスティグマ認知－精神科医, 精神科看護師, 一般科看護師, 一般人の比較. 第7回自治医科大学シンポジウム, 栃木県下野市 2008.8.30

9) 半澤節子, 中根允文, 吉岡久美子, 中根秀之：統合失調症およびうつ病に対する態度－一般人と専門職との比較. 第24回日本精神衛生学会大会, 大分県別府市 2008.11.8-9.

10) Nosaki, A. : Practical Knowledge of Psychiatric Nurses : “Knacks” of Psychiatric Nursing Practice. The RCN 12th European Mental Health Nursing conference and exhibition, conference programme ; 61-62, Chester, U.K., 6-7, March, 2008.

11) Hanzawa, S., Tanaka, G., Inadomi, H., Ohta, Y. : Causes of the Care burden felt by Families of Patients with Schizophrenia: A comparison of Japan and Korea. XIII Pacific Rim Congress of Psychiatry, Tokyo, Japan. 2008.10.30-11.2.

12) Hanzawa, S., Nakane, Y., Yoshioka, H., Nakane, H. : Effects of differences Stigma and social distance towards persons with mental disorder. XIII Pacific Rim Congress of Psychiatry, Tokyo, Japan. 2008.10.30-11.2.

13) Hanzawa, S., Nakane, Y., Yoshioka, H., Nakane, H. : Effects of perceptions of the community’s stigma toward schizophrenia patients on social distance: Comparison of the general public, the patients’ relatives, and health professionals. XIII Pacific Rim Congress of Psychiatry, Tokyo, Japan. 2008.10.30-11.2.

14) Tanaka, G., Hanzawa, S., Inadomi, H., Ohta, Y. : Burden of care and coping strategies in families of patients with schizophrenia in Japan: 1-year follow-up study. XIV World Congress of Psychiatry, Prague, Czech Republic. 2008.9.20-25.

(3) 著書・総説

1) 野崎章子：「関係性の切り口」－患者-看護師関係について－. : 日本文化型看護学への序章－実践知に基づく看護学の確立と展開, pp.105-107; 石垣和子, 岩崎弥生, 正木治恵, 眞嶋朋子, 宮崎美佐子編：千葉大学大学院看護学研究科, 千葉大学21世紀COEプログラム日本文化型看護学の創出・国際発信拠点（東京）, 2008.

(4) その他

1) 野崎章子, 岩崎弥生：揺るぎない見守りと支持. 日本文化型看護学の創出・国際発信拠点－実践知に基づく看護学の確立と展開－千葉大学21世紀COEプログラム総括報告, 69, 2008

2) 半澤節子（監訳者：田中英樹）：Charles A. Papp, Richard J Goscha The Strength Model: Case Management with People with Psychiatric Disabilities,

Second Edition. ストレングスモデル：精神障害者のためのケースマネジメント（第2版）. 第6章：個別計画－達成課題を創造するために，金剛出版，2008.

3) 菊池美智子，榊原聡，江口万里子，林寿美子，服部有香，村手恵子，奥田幸子，永井優子：就労準備デイケアにおける問題解決技法を用いたプログラムの実践－精神障害者グループと社会的ひきこもりグループを対象として－，愛知県立看護大学紀要，13:15-23，2008.

4) Nosaki, A., Iwasaki, Y.: Interpersonal Helping Relations in Psychiatric Nursing. Summary report July 2003-March 2008, Chiba University 21st century center of excellence program, 27-28, 2008

5) Iwasaki, Y., Ishikawa, K., Watanabe, R., Nosaki, A.: Development of a Recovery-Oriented Nursing Program for People with Schizophrenia: Qualitative Analysis of the Effects of the Program. Summary report July 2003-March 2008, Chiba University 21st century center of excellence program, 103, 2008

母性看護学

(1) 原著論文

1) 成田 伸，岡本美香子，大原良子，段ノ上秀雄，水流聡子 分娩時のモニタリングとケアの可視化の試み－臨床プロセスチャートとアルゴリズム表記法を用いて－ 自治医科大学看護学ジャーナル第5巻 3-14 2008

(2) 学会発表

1) 小林なつみ，黒田裕子，成田 伸 母乳育児支援に対する助産師の意識－勤務助産師と開業助産師の比較－ 第33回栃木県母性衛生学会学術集会 宇都宮 平成20年6月14日 栃木母性衛生，35号，8-12，2009

2) 藤本 薫，遠藤俊子，鈴木幸子，渡部尚子，成田 伸，齋藤益子，加藤千晶，新道幸恵 産科師長・副師長からみた助産師のキャリア発達とその支援 第10回日本母性看護学会学術集会 大阪 平成20年6月21日

3) 遠藤俊子，鈴木幸子，渡部尚子，成田 伸，齋藤益子，加藤千晶，藤本薫 助産師のキャリア発達の特徴 第10回日本母性看護学会学術集会

大阪 平成20年6月22日

4) 成田 伸，鈴木幸子，野々山未希子 若者向けの性感染症予防教材「性感染症：基礎編」の紹介 第10回日本母性看護学会学術集会 大阪 平成20年6月22日

5) 成田 伸，水流聡子，段ノ上秀雄，岡本美香子，遠藤俊子 避妊・性感染症予防カウンセリングのアルゴリズム表記法を用いた可視化とウェブを用いたサポートシステム構築の試み 第9回日本医療情報学会看護学術大会 東京 平成20年7月5日

6) 成田 伸 助産師のキャリア発達とこれからのキャリアパス 第44回日本産期・新生児医学会学術集会 横浜 平成20年7月15日

7) 勝原裕美子，草刈淳子，井上真奈美，ウイリアムソン彰子，叶谷由佳，長友みゆき，成田 伸，望月とも子，矢野祐美子 研究における倫理的感受性を高めるために：学会発表における注意点 第12回日本看護管理学会学術集会 東京 平成20年8月23日

8) 沼尾美津穂，成田 伸 フリースタイル分娩の歴史と課題 第7回自治医科大学シンポジウム 下野 平成20年8月30日

9) 立木歌織，成田 伸 NICUに入院した子どもと母親のための母乳育児支援 第7回自治医科大学シンポジウム 下野 平成20年8月30日

10) 鈴木幸子，遠藤俊子，成田 伸，齋藤益子，加藤千晶，藤本薫，渡部尚子，新道幸恵 助産師の卒後の看護実践能力の変化、仕事と人生設計についての認識－統合カリと1年課程 第49回日本母性衛生学会学術集会 浦安 平成20年11月7日

11) 遠藤俊子，鈴木幸子，渡部尚子，成田 伸，齋藤益子，新道幸恵 助産師のキャリア発達の認識からみた助産師教育への示唆：卒後10年以下の助産師－統合カリキュラムと1年課程の比較 第28回日本看護科学学会学術集会交流集会 福岡 平成20年12月14日

(3) 著書・総説

1) 成田 伸 育児力を高める支援法 産期看護学アップデート（吉沢豊予子）中央法規 .206-215 2008

(4) その他

1) 成田 伸 栃木県における産期医療安全の

- 取り組み 助産師 6 (2) 80-82 2008
- 2) 成田 伸 助産師のキャリア発達とこれからのキャリアパス 日本周産期・新生児医学会雑誌 44 (4) 1143-1146 2008
- 3) 成田 伸, 水流聡子 看護サービス質向上のためのナレッジマネジメントへの展開と英国スコットランド調査報告「スコットランドにおけるeHealthの展開に関する視察調査報告」 「保健・医療・福祉領域の安全と質保証に貢献する看護マスターの統合的管理システムと高度専門看護実践を支援するシステム開発研究」 厚生労働省科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業平成19年度総括研究報告書 179-192 2008
- 4) 成田 伸, 水流聡子 看護サービス質向上のためのナレッジマネジメントへの展開と英国スコットランド調査報告「スコットランドにおける看護師処方とその教育・支援・評価システムに関する視察調査報告」 「保健・医療・福祉領域の安全と質保証に貢献する看護マスターの統合的管理システムと高度専門看護実践を支援するシステム開発研究」 厚生労働省科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業平成19年度総括研究報告書 193-205 2008
- 5) 成田 伸, 水流聡子, 段ノ上秀雄, 島井健一郎 看護サービス質向上のためのナレッジマネジメントへの展開と英国スコットランド調査報告「Web-siteを活用した避妊・STD予防カウンセラーの育成と実践のサポートシステムの構築」 「保健・医療・福祉領域の安全と質保証に貢献する看護マスターの統合的管理システムと高度専門看護実践を支援するシステム開発研究」 厚生労働省科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業平成19年度総括研究報告書 206-216 2008
- 6) 成田 伸 「助産師活動に生かすピルの知識」 「保健・医療・福祉領域の安全と質保証に貢献する看護マスターの統合的管理システムと高度専門看護実践を支援するシステム開発研究」 厚生労働省科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業平成19年度総括研究報告書 217-231 2008
- 7) 新道幸恵, 遠藤俊子, 渡部尚子, 鈴木幸子, 成田 伸, 斎藤益子, 他 (共著) 看護系大学の統合カリキュラムにおける助産師教育の到達目標に関する検討 平成19年度科学研究費助成金基盤研究 (B) 研究成果報告書 2008
- 8) 遠藤俊子, 石川紀子, 石渡勇, 葛西圭子, 加

- 藤尚美, 斎藤益子, 澤倫太郎, 中林正雄, 成田 伸, 福島裕子 (共著) 助産師活用システム 厚生労働省科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業「分娩拠点病院の創設と産科2次医療件の設定による産科医師の集中化モデル事業」平成19年度分担研究報告書 2008
- 9) 齋藤いずみ, 伊藤道子, 遠藤紀美恵, 坂梨薫, 成田 伸 (共著) 分娩時の安全と質保証を基盤とした看護人員配置に関する看護経済学的保証 平成18-19年度科学研究費助成金基盤研究 (C) 研究成果報告書 2008
- 10) 成田 伸, 水流聡子, 矢野美紀, 西岡啓子, 加藤優子, 森島知子, 他 (共著) 避妊・STD予防カウンセリングの開発とウェブを用いたサポートシステムの構築—避妊・性感染症予防カウンセラー育成プログラム 平成19年度科学研究費助成金基盤研究 (b) (一般) 研究成果 中間報告書 (1) 2008

小児看護学

(1) 学会発表

- 1) 横山由美, 田中美央, 池田真由美, 川口千鶴: 慢性的な病気や障害を持つ児童・生徒への支援—A県公立小学校・中学校において— 第55回日本学校保健学会. 愛知県. 2008年11月16日 (学校保健研究 50 (Suppl.) 第55回日本学校保健学講演集; 493, 2008)
- 2) Miyuki Sekimori: Creation of a Theory of Paternal Attachment Applicable to Father and their Preterm Infants. The 11th World Congress of World Association for Infant Mental Health, Yokohama in Japan. August 3, 2008. The Infant Mental Health Journal, 29(3A); 144, 2008

(2) その他

- 1) 柴田美央 重症心身障害児を育てる母親の育児への意欲の支援に関する研究. 文部科学省科学研究費補助金 平成20年度報告書, 2008
- 2) 川口千鶴, 関森みゆき, 横山由美, 田中美央: 栃木県における小児看護の課題 —小児専門病院に勤務する看護師の専門性に関する認識から— 自治医科大学看護学ジャーナル, 第6巻; 157-160, 2009.

成人看護学

(1) 原著論文

1) 松元俊, 佐々木司, 崎田マユミ, 内藤堅志, 青柳直子, 高橋悦子, 酒井一博: 看護師が16時間夜勤時にとる仮眠がその後の疲労感と睡眠に及ぼす影響. 労働科学, 84(1): 25-29, 2008.

2) Misuzu Nakamura, Yoshihiro Kido, Takako Egawa: Development of a 32-item scale to assess post-operative dysfunction after upper gastrointestinal cancer resection. Journal of Clinical Nursing, 17(11); P1400-P1449, 2008.

3) Sato M, Yamazaki Y, Sakita M, Bryce TJ: Benefit-finding among people with rheumatoid arthritis in Japan. Nursing & Health Sciences, 10(1); 51-58, 2008.

(2) 学会発表

1) 中村美鈴: 模擬創部を用いた創傷ケア演習で学生が気づいた患者体験. 日本看護学教育学会, 福岡. 2008年8月3日. 日本看護学教育学会学会誌

2) 中村美鈴: へき地におけるクリティカルな状況にある患者の家族の体験. 日本ルーラルナーシング学会, 北海道. 2008年9月22日. 日本ルーラルナーシング学会抄録集

3) 内海香子, 水野照美, 山本洋子, 清水玲子, 武正泰子, 中村美鈴: 看護系大学学士課程学生の卒業研究における困難の変遷と指導の工夫. 第7回自治医科大学シンポジウム, 栃木県下野市. 平成20年8月30日. 第7回自治医科大学シンポジウムポスターセッション発表者一覧及び抄録; D-6, (2008)

4) 武正泰子, 山本洋子, 中村美鈴, 内海香子, 桑原美弥子, 崎田マユミ: 生命の危機状況にある患者に代わり延命治療の実施に関する意思決定を行う家族への看護師のかかわり. 第7回自治医科大学シンポジウム, 栃木県下野市. 平成20年8月30日. 第7回自治医科大学シンポジウムポスターセッション発表者一覧及び抄録; D-5, (2008)

5) 内海香子: A県訪問看護師の糖尿病をもつ利用者・家族への看護に関する研修ニーズ. 第13回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 石川県金沢市. 平成20年9月6日~7日. 日本糖尿病教育・看護学会誌; 12(特別号); 269, (2008)

6) 青木さざり, 春山早苗, 江角信吾, 大原良子,

中村美鈴, 山本洋子, 高村寿子: メキシコ国ベラクルス州におけるジャイカ草の根技術協力活動(I) —保健医療従事者へのエンパワーメント研修の有効性の検討—. 第17回日本健康教育学会, 日本子ども家庭総合研究所. 2008年6月. (日本健康教育学会誌 第16巻(特別号); 140-141, 2008)

7) 江角信吾, 大原良子, 青木さざり, 中村美鈴, 春山早苗, 山本洋子, 高村寿子: メキシコ国ベラクルス州におけるジャイカ草の根技術協力活動(II) —思春期ピアリーダーによる健康教育の波及効果—. 第17回日本健康教育学会, 日本子ども家庭総合研究所. 2008年6月. (日本健康教育学会誌 第16巻(特別号); 142-143, 2008)

(3) 著書・総説

1) 山本洋子・内海香子: 現場がみえる 輸液の知識と患者ケア. 現場がみえる 輸液の知識と患者ケア(中村美鈴・布宮伸編集). 医学書院(東京), 104-119, (2008)

2) 野口美和子, 大湾明美, 小野幸子, 内海香子, 磯見智恵, 麻生佳愛: 看護施設における後期高齢糖尿病患者の自己管理支援に関する研究. 平成18~19年度 科学研究費補助金基盤研究(C) 報告書(研究代表者 野口美和子). (那覇市), 1-27, (2008)

3) 武正泰子・金井美樹・中村美鈴: 第2章輸液で使用される器材とその準備. 現場が見える, 輸液の知識と患者ケア(中村美鈴・布宮伸編集). 医学書院(東京). 26-48, 2008年10月.

4) 武正泰子・金井美樹・中村美鈴: 第7章急性期にある患者の輸液. 現場が見える, 輸液の知識と患者ケア(中村美鈴・布宮伸編集). 医学書院(東京). 126-137, 2008年10月.

(4) その他

1) 中村美鈴: スキルアップ, 胸腔ドレーン管理. 月刊ナーシング, 29巻5号; Page44-46, 2008年12月.

2) 中村美鈴: 術後ドレーン挿入中の患者のケアとアセスメント. 月刊ナーシング, 巻 号; Page44-47, 2008年12月.

3) 中村美鈴: 術後ドレーンの種類と使い分け. 月刊ナーシング, 巻 号; Page44-48, 2008年12月.

4) 中村美鈴, 水野照美, 山本洋子, 内海香子, 清水玲子, 村上礼子, 棚橋美紀: へき地における

CNSの役割と機能に関する基礎調査—へき地における医療・看護の現状把握とCNSの必要性と課題の検討—。自治医科大学看護学部紀要，第5巻；60-61，2008。

5) 中村美鈴，水野照美，山本洋子，内海香子，清水玲子，村上礼子，棚橋美紀：生命の危機状態にある患者に代わり延命治療の意思決定を担う家族の体験。自治医科大学看護学部紀要，第5巻；59-60，2008。

老年看護学

(1) 原著論文

1) 永盛るみ子，池田浩子，水戸美津子 視覚障害を有する高齢者への看護援助の現状と課題—病院に勤務する看護職者を対象とした実態調査から— 自治医科大学看護学ジャーナル 5 25-34 2008

2) 福田順子，小谷妙子，工藤祝子，佐藤里美，菊池睦子，鈴木久美子，真砂涼子，大久保祐子，春山早苗，水戸美津子 へき地等地域病院への派遣制度を組織的に支援する教育研修プログラムの検討—自治医科大学附属病院看護職員のキャリアアップを目指して— 日本ルーラルナース学会誌 3 117-123 2008

3) 大谷真千子，今井宏美，井上映子 老年看護実習における夜間実習での学習経験 千葉県立衛生短期大学紀要 26 (2) 83-90 2008

4) 酒井郁子，吉本照子，杉田由加里，茂野香おる，井上映子，八島妙子，渡邊智子 介護老人保健施設入居者への生活リズム調整援助の効果の構造 千葉看護学会誌 14 (2) 54-61 2008

(2) 学会発表

1) 樋口倫子，橋本佐由理，中島茂，向笠京子，長井栄子，千葉則子，豊田正美，浜本幸江 糖尿病患者への生き方変容支援によるHbA1cの改善効果（その2）第51回日本糖尿病学会年次学術集会 東京 2008/5/22 第51回日本糖尿病学会年次学術集会抄録集：172，2008

2) 橋本佐由理，樋口倫子，向笠京子，長井栄子，千葉則子，浜本幸江，豊田正美，中島茂 糖尿病患者への生き方変容支援によるHbA1cの改善効果（その1） 第51回日本糖尿病学会年次学術集会

東京 2008/5/23 第51回日本糖尿病学会年次学術集会抄録集：281，2008

3) 高山桂，池田浩子，水戸美津子 大学病院外来化学療法室での看護師の役割に関する検討 第39回日本看護学会 金沢 2008/7/16 第39回日本看護学会抄録集：156，2008

4) 長井栄子，浅井美千代，榎本麻里 看護学生の喫煙に関する知識・行動・認知の状況と防煙教育について 第39回日本看護学会（看護教育）岐阜 2008/8/21 第39回日本看護学会（看護教育）抄録集：2008

5) 井上映子，茂野香おる，渡邊智子，酒井郁子，吉本照子，八島妙子，杉田由加里 介護老人保健施設入居者の生活リズム調整援助の効果に関する研究—管理者，ケアスタッフ，入居者が認識する援助効果の一致とずれ— 第13回日本老年看護学会 金沢 2008/11/8 第13回日本老年看護学会抄録集：175，2008

6) 酒井郁子，吉本照子，杉田由加里，八島妙子，井上映子，渡邊智子，茂野香おる 介護老人保健施設入居者の生活リズム調整援助の効果に関する研究—生活リズム調整援助への本人の反応および言動から確認された援助効果— 第13回日本老年看護学会 金沢 2008/11/8 第13回日本老年看護学会抄録集：176，2008

7) 吉本照子，酒井郁子，八島妙子，渡邊智子，井上映子，茂野香おる，杉田由加里 介護老人保健施設の在宅療養支援におけるケア職者のジレンマ 第13回日本老年看護学会 金沢 2008/11/8 第13回日本老年看護学会抄録集：71，2008

(3) その他

1) 高山桂，池田浩子，水戸美津子 大学病院外来化学療法室での看護師の役割に関する検討 第39回日本看護学会学術論文集 看護総合 272-274 2008

2) 水戸美津子 プロとしてのやさしさを再考したい人へ 看護学雑誌 70 [11] 1021 2008

3) 水戸美津子 大学院看護学研究科（修士課程）の開設までの経緯と今後の課題 自治医科大学大学院看護学研究科年報 1 5-7 2008

4) 長井栄子，浅井美千代，榎本麻里，三枝香代子，白鳥孝子，中井裕子，川崎由理 成人看護学領域における状況設定演習の臨地実習への活用状況—学生評価による演習の検討— 千葉県立衛生

短期大学紀要 26(2)113-121 2008

5) 三枝香代子, 浅井美千代, 長井栄子, 小池暖子, 梅津千香子, 白鳥孝子 成人看護学実習での看護過程展開において学生が体験する困難—実習終了後のアンケート調査を基に—第38回日本看護学会学術論文集 看護教育 114-116 2008

6) 浅井美千代, 長井栄子, 白鳥孝子, 小池暖子, 川崎由理, 三枝香代子 ロールプレイングを取り入れた慢性病患者の看護に関する演習の検討—学生による看護場面シナリオ作成を実施して—第38回日本看護学会学術論文集 看護教育 45-47 2008

7) 今井宏美, 井上映子, 大谷真千子, 榎本輝樹 看護基礎教育における機能別実習が有する教育効果の特徴（第一報）第38回日本看護学会学術論文集 看護教育 296-298 2008

8) 須釜真由美, 井上映子, 高安百代, 今井宏美, 堀之内若名 看護学生の職業レディネスに関する縦断研究 千葉県立衛生短期大学 26 (2) 99-104 2008

がん看護学

(1) 原著論文

1) 佐野恵美香, 藤原恭子, 小笠原祐子, 小竹久実子, 小野寺杜紀 「看護理念表明」に見る看護理論の活用—看護管理における看護理論の位置づけおよび意識— 日本看護協会出版会, 看護管理. 第38巻; 51-53 2008年7月.

2) 小竹久実子, 今留 忍, 内海滉: 看護学生のストレス因子構造—全日制と定時制看護学生の比較— 自治医科大学看護学ジャーナル, 第6巻; 5-13, 2009年3月.

3) 本田芳香, 小竹久実子: がん看護コミュニケーション因子の構造化に関する一考察. 自治医科大学看護学ジャーナル, 第6巻; 51-60, 2009年3月.

4) 小竹久実子, 小坏悦子, 坏千代子: 看護師リーダー資質に関する研究—院内研修の効果検証— 日本看護研究学会雑誌, 第32巻(1); 99-104, 2009年.

5) 本田芳香: 高齢者が主体的に地域生活を継続するためのコーディネイト機能の要因分析. コミュニティソーシャルワーク, 2, 58-65, 2008

(2) 学会発表

1) 小竹久実子, 本田芳香:

がん看護学コミュニケーションプログラム開発—がん看護コミュニケーション教育による因子構造— 自治医科大学研究発表会, 栃木. 2008年8月. 自治医科大学研究発表会; 25, 2008

2) 小竹久実子, 鈴鴨よしみ, 甲斐一郎, 高橋綾, 岩永和代, 寺崎明美: 喉頭摘出者の心理的適応構造モデル. 第28回日本看護科学学会学術集会, 福岡. 2008年12月. 第28回日本看護科学学会学術集会; 505, 2008

3) 小竹久実子, 小原 泉: 看護学生の職業的コミットメント, アイデンティティ, 学習意欲の関係の構成概念の構造. 第28回日本看護科学学会学術集会, 福岡. 2008年12月. 第28回日本看護科学学会学術集会; 505, 2008

4) 小竹久実子, 本田芳香: がん看護に必要なコミュニケーション因子構造—SPを対象に演習した評価から— 第27回日本がん看護学会学術集会, 沖縄. 2009年2月. 第27回日本がん看護学会学術集会; 282, 2009

5) 本田芳香, 三澤真理, 小林綾: 介護老人保健施設におけるがん患者の看取りに関する一考察. 日本地域福祉学会第22回大会, 京都. 2008年6月15日. (日本地域福祉学会要旨集22; 190, 2008)

6) 本田芳香, 大石正史, 小島紀代子: 中途視覚障害者に対するストレングスモデルが有効に活用されるための要因分析, 第6回日本ロービジョン学会学術総会, 仙台. 2008年9月17日 (日本ロービジョン学会学術総会プログラム抄録集6; 85, 2008)

7) 本田芳香, 小竹久実子: がん看護コミュニケーションの構造化. 第23回日本がん看護学会学術集会, 沖縄. 2009年2月7日 (日本がん看護学会学術集会抄録集23; 98, 2008)

(3) その他

1) 小竹久実子, 鈴鴨よしみ, 甲斐一郎, 岩永和代, 高橋 綾, 寺崎明美: ソーシャルサポートによる喉頭摘出者の心理的適応とQOLへの影響に関する研究—平成19年~20年度科学研究費補助金, 基盤研究(C), 1-126 2009.

2) 本田芳香: 保健・医療・福祉におけるIPEとIPWの検討. 社会福祉学, 49(1), 34-40, 2008

3) 本田芳香, 小竹久実子: がん看護シミュレー

シオン体験プログラムの開発. 自治医科大学看護
学部ジャーナル, 6,51-60,2008

資 料

2008年度（平成20年度）看護学部学年暦

○前学期

4月2日（水）	編入生オリエンテーション，ガイダンス（4年）
4月3日（木）	ガイダンス（2・3年），授業開始（2・3・4年）
4月4日（金）	入学式，オリエンテーション（1年）
4月7日（月）	授業開始（1年）
4月10日（木）	オリエンテーション（1年）
4月29日（火）～5月5日（月）	春季休業
5月12日（月）～8月1日（金）	前学期実習（3年）
5月14日（水）	自治医科大学創立記念日
7月1日（火）～7月4日（金）	定期試験（4年）
7月7日（月）～8月1日（金）	地域看護学実習（4年）
7月22日（火）～7月25日（金）	定期試験（1・2年）
8月2日（土）～9月30日（火）	夏季休業
9月3日（水）～9月5日（金）	再試験

○後学期

10月1日（水）	授業開始
9月8日（月）～10月10日（金）	助産学実習（4年）
10月10日（金）～10月12日（日）	学園祭
10月20日（月）～10月31日（金）	基礎看護学実習Ⅱ（2年）
11月25日（火）～12月5日（金）	生活の理解実習（1年）
12月4日（木）～12月24日（水）	成人看護学実習Ⅰ（2年）
12月25日（木）～1月4日（日）	冬季休業
1月26日（月）～1月29日（木）	定期試験（全学年）
2月2日（月）～2月27日（金）	フィールド実習（3年）
3月2日（月）～3月4日（水）	再試験
3月6日（金）	卒業式
3月21日（土）～	学年末休業

自治医科大学看護学部の概況（平成21年3月31日現在）

1. 教員数	45名
2. 学生数	423名
4年生（平成17年4月1日入学） （平成19年4月1日編入学）	107名
3年生（平成18年4月1日入学） （平成20年4月1日編入学）	104名
2年生（平成19年4月1日入学）	109名
1年生（平成20年4月1日入学）	103名

看護学部教職員名簿

1. 教員

職名	氏名	学科目
学部長	水戸美津子	老年看護学
教授	岩永秀子	基礎看護学
教授	川口千鶴	小児看護学
教授	竹田俊明	医学関連
教授	竹田文俊	医学関連
教授	永井優子	精神看護学
教授	中島登美子	小児看護学
教授	中村美鈴	成人看護学
教授	成田伸	母性看護学
教授	春山早苗	地域看護学
教授	半澤節子	精神看護学
教授	本田芳香	がん看護学
教授	渡邊亮一	基礎科学関連
准教授	井上映子	老年看護学
准教授	大久保祐子	基礎看護学
准教授	大原良子	母性看護学
准教授	大塚公一郎	基礎科学関連
准教授	小竹久実子	成人看護学
准教授	高木初子	老年看護学
講師	宇内城令子	基礎看護学
講師	内海香子	成人看護学
講師	工藤奈織美	地域看護学
講師	桑原美弥子	成人看護学
講師	崎田マユミ	成人看護学
講師	櫻井美奈	基礎看護学
講師	里光やよい	基礎看護学
講師	鈴木久美子	地域看護学
講師	関森みゆき	小児看護学
講師	塚本友栄子	地域看護学
講師	永盛るみ子	老年看護学
講師	野崎章子	精神看護学
講師	矢野美紀子	母性看護学
講師	山本洋子	成人看護学
講師	横山由美子	小児看護学
助教	池下麻美子	老年看護学
助教	小川貴子	地域看護学
助教	加藤優子	母性看護学
助教	川上藤勝子	基礎看護学
助教	佐藤勢津子	精神看護学
助教	須藤久実子	母性看護学
助教	武正泰子	成人看護学
助教	田中美央子	小児看護学
助教	段ノ上秀雄子	成人看護学
助教	長井栄子	老年看護学
助教	西岡啓子	母性看護学
助教	濱田恭子	精神看護学
助教	森島知子	母性看護学

2. 事務部

職名	氏名
大学事務部長	平 純 郎
大学事務副部長 (看護学部担当)	田 口 実

(看護総務課)

課長	久 保 典 昭
課長補佐	半 田 美 治
係長	軽 部 和 夫
主任主事	石 倭 ユリ子
主事	田 中 千 草

(看護学務課)

副部長兼課長	田 口 実
参事	藍 原 孝 樹
参事(兼)課長補佐	久 保 田 知 之
係長	安 島 幸 子
主事	松 本 恵 美 子
主事	河 原 節 子
主事	桑 島 秀 典

※平成20年4月1日～平成21年3月31日在職者
(各職名ごとの50音順)

2008年度（平成20年度）大学院看護学研究科学年曆

○前学期

4月9日（水）	オリエンテーション，授業開始
4月15日（火）	履修計画の提出
5月14日（水）	自治医科大学創立記念日 夏期集中講義

○後学期

10月1日（水）	授業開始 学位申請書，学位論文（審査用）提出 学位論文審査委員決定 学位論文審査・指導 学位論文（本論文）提出 冬期集中講義
2月27日（金）	学位論文発表会 修了判定会議
3月19日（木）	学位論文（保存用）提出 修了式（学位授与式）

大学院看護学研究科の概況（平成21年3月31日現在）

1. 教員数	24名
2. 学生数	34名
平成18年4月1日入学	9名
平成19年4月1日入学	9名
平成20年4月1日入学	16名

大学院看護学研究科教職員名簿

1. 教員

職名	氏名	主要担当科目
学部長	水戸美津子	老年看護管理学
教授	岩永秀子	看護技術開発学
教授	川口千鶴	小児看護学
教授	竹田俊明	共通科目
教授	竹田津文俊	共通科目
教授	永井優子	精神看護学
教授	中島登美子	小児看護学
教授	中村美鈴	クリティカルケア看護学
教授	成田伸	母性看護学
教授	春山早苗	地域看護管理学
教授	半澤節子	精神看護学
教授	本田芳香	がん看護学
教授	渡邊亮一	共通科目
准教授	井上映子	老年看護管理学
准教授	大久保祐子	看護技術開発学
准教授	大原良子	母性看護学
准教授	大塚公一郎	基礎科学関連
准教授	小竹久実子	がん看護学
准教授	高木初子	老年看護管理学
講師	宇城令	看護技術開発学
講師	内海香子	クリティカルケア看護学
講師	工藤奈織美	地域看護管理学
講師	桑原美弥子	クリティカルケア看護学
講師	崎田マユミ	クリティカルケア看護学
講師	櫻井美奈	看護技術開発学
講師	里光やよい	看護技術開発学
講師	鈴木久美子	地域看護管理学
講師	関森みゆき	小児看護学
講師	塚本友栄	地域看護管理学
講師	永盛るみ子	老年看護管理学
講師	野崎章子	精神看護学
講師	矢野美紀	母性看護学
講師	山本洋子	クリティカルケア看護学
講師	横山由美	小児看護学

2. 事務部

職名	氏名
大学事務部長	平 純 郎
大学事務副部長 (看護学部担当)	田 口 実

(看護総務課)

課長	久保典昭
課長補佐	半田美治
係長	軽部和夫
主任主事	石 倭 ユリ子
主事	田 中 千草

(看護学務課)

課長	田 口 実
参事	藍 原 孝 樹
参事(兼)課長補佐	久保田知之
係長	安 島 幸 子
主事	松 本 恵美子
主事	河 原 節 子
主事	桑 島 秀 典

※平成20年4月1日～平成21年3月31日在職者
(各職名ごとの50音順)

編集後記

無事編集作業を終え、本号を皆様のお手元にお届けできるようになりました。ご多忙にも拘らずご執筆頂いた方々と編集にご尽力頂いた皆様に厚くお礼申し上げます。

発刊以来、冊子形式で刊行してまいりましたが、今号からは電子媒体（CD-ROM）での発刊となり、自己点検・外部評価の基礎資料としても活用できるものにしていきたいと考えております。

特別報告には、平成20年度にスタートした「新カリキュラム」について、教務委員長の春山教授にご執筆いただきました。

最後に本年報が教育・研究の活性化に寄与し、また、本学部・大学院看護学研究科に対する理解の一助になれば幸いです。

（平成22年3月 編集委員長 竹田津 文俊）

編集委員会

委員長	竹田津文俊（自治医科大学看護学部 医学関連）
副委員長	大塚公一郎（自治医科大学看護学部 基礎関連）
委員	小原 泉（自治医科大学看護学部 がん看護学）
	齋藤 良子（自治医科大学看護学部 母性看護学）
	鈴木久美子（自治医科大学看護学部 地域看護学）
	高木 初子（自治医科大学看護学部 老年看護学）
編集担当	大石 千代（自治医科大学 看護総務課）

自治医科大学看護学部年報（第7号）
自治医科大学大学院看護学研究科年報（第3号）

平成22年3月31日発行

発行者	学部長（研究科長）	水戸美津子
編集責任者	編集委員会委員長	竹田津文俊
発行所	自治医科大学看護学部 栃木県下野市薬師寺3311-159 電話 0285（44）2111(代)	
印刷所	(株)松井ピ・テ・オ・印刷 栃木県宇都宮市陽東5-9-21 電話 028（662）2511(代)	